令和３年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和３年度

道徳の礎（いしずえ）

【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
【実践編】令和３年度道徳教育推進校報告
【Ｑ＆Ａ】道徳科の教育課程Ｑ＆Ａ

福島県教育委員会

道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- ○ 【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
- ○ 【実践編】令和３年度道徳教育推進校実践報告
- ○ 【Ｑ＆Ａ】教育課程Ｑ＆Ａ

以上の３編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の５つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

【インデックス１】 道徳科の授業の充実に向けて

道徳教育や道徳科の理論が分からない……

⇒ 「道徳のとびら」や「特別の教科　道徳」の実施に向けた地区別研修会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

1頁～18頁

【インデックス２】 道徳教育推進校の実施計画書等

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど……

⇒ 令和３年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

19頁～60頁

【インデックス３】 多様な指導方法に基づいた授業実践

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの……

⇒ 令和３年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

61頁～82頁

【インデックス４】 ふくしま道徳教育資料集等を活用した授業実践

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい……

⇒ 令和３年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集等の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見について考えさせたい…

⇒ 県教育委員会作成の教材を活用した実践と考察を掲載しています。学校の実態に合わせて御活用ください。

83頁～100頁

【インデックス５】 新教育課程Q&A（道徳科編）

道徳科の教育課程で分からないことがあります……

⇒ 既に学校に周知している新教育課程Ｑ＆Ａから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してみてください。

101頁～107頁

令和３年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地　区	学　校　名	内　　容	掲載頁
県　北	二本松市立石井小学校	実施計画・全体計画・別葉等	19～24
		質の高い多様な授業実践	61～63
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	83～85
県　中	田村市立船引南小学校	実施計画・全体計画・別葉等	25～30
		質の高い多様な授業実践	64～66
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	86～88
県　南	鮫川村立鮫川小学校	実施計画・全体計画・別葉等	31～36
		質の高い多様な授業実践	67～69
		新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材	89～91
会　津	湯川村立湯川中学校	実施計画・全体計画・別葉等	37～42
		質の高い多様な授業実践	70～72
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	92～94
南会津	下郷町立下郷中学校	実施計画・全体計画・別葉等	43～48
		質の高い多様な授業実践	73～75
		新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材	95～97
相　双	新地町立尚英中学校	実施計画・全体計画・別葉等	49～54
		質の高い多様な授業実践	76～78
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	98～100
いわき	福島県立好間高等学校	実施計画・全体計画等	55～60
		質の高い多様な授業実践	79～82

「鮫川和紙」の紙すき体験

鮫川村立鮫川小学校の６年生は、毎年総合的な学習の時間の一環として、「鮫川和紙」の技術を継承している齋須寛一さんのもとを訪れています。水がきれいな鮫川ならではの伝統技術は一度途絶えていましたが、和紙文化を残すために復活させたのが齋須さんです。真冬の作業が多い和紙づくりですが、郷土の文化を残す思いや、温かみのある和紙にふれ、子どもたちにとって、鮫川村の魅力を感じる経験となっています。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて

【第１部　理論編】道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

道徳教育の目標

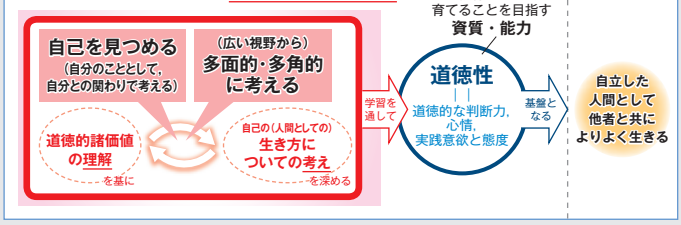
（小（中）学校学習指導要領第１章総則 第１ 教育課程編成の基本方針 ２ 抜粋）
学校における道徳教育は，**特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として**学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。
道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- ○ 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述‥「総則」編に記載
- ○ 「特別の教科　道徳」の記述‥「特別の教科　道徳」編に記載
- ○ 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- ○ 育むものは，内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

（小（中）学校学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」の「第１　目標」）
第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



【本時のねらいは…】
○○○を通して，（道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度）を育てる。

学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科　道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科　道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳的実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「○○学習を通して」の部分が特に大切です。
具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、
○　自己を見つめること
○　物事を多面的・多角的に考えること
を押さえることがとりわけ大切です。
この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。

各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	「特別の教科　道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正，公平，社会正義」「国際理解，国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解，寛容」「公正，公平，社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について，各学年毎の記述を改め，内容項目毎の記載に変更して，系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また，「公正，公平，社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し，指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目（３項目追加）、中学年は20項目（２項目追加）、高学年・中学校は22項目（高学年は1項目追加）です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。
なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉（キーワード）を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。

道徳教育全体計画を作成する際、配慮する点を教えてください。

小（中）学校学習指導要領第１章総則
第６　道徳教育に関する配慮事項　１　抜粋

小・中共通

□　道徳教育の**全体計画の作成**
⇒　**重点目標の設定**
⇒　各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示

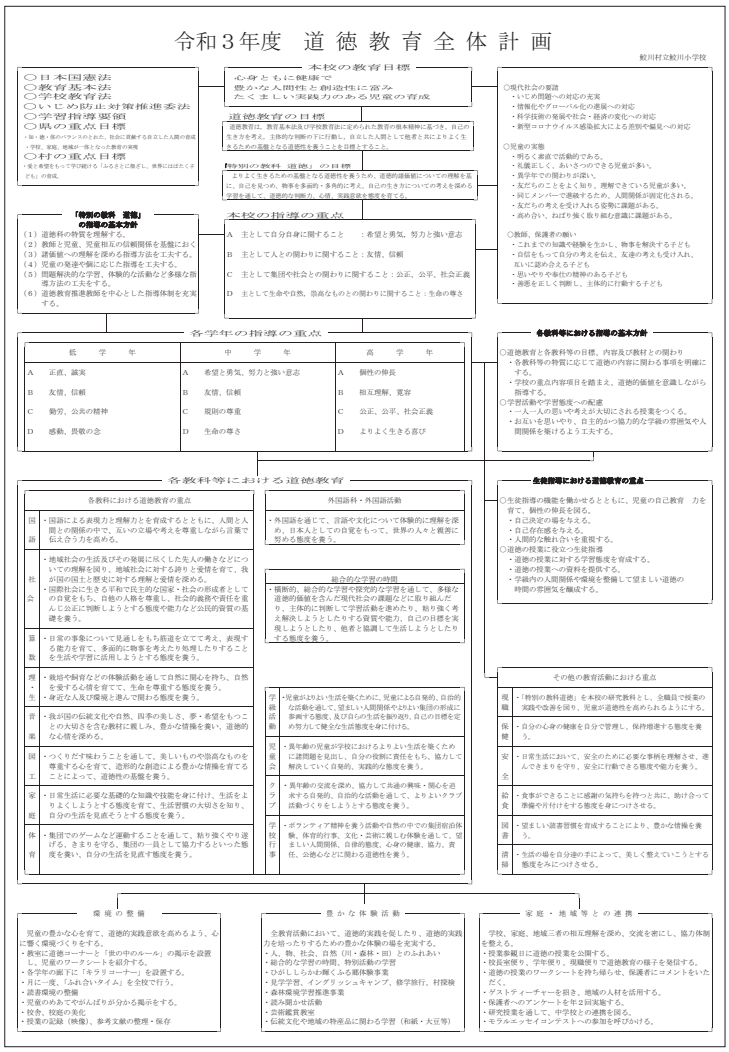
活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）

例えば，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとすること**が考えられる。

□　**校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心**に，**全教師が協力**して道徳教育を展開すること。

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）

○　道徳教育の指導計画の作成に関すること
○　全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
○　道徳科の充実と指導体制に関すること
○　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
○　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
○　道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
○　道徳教育の研修の充実に関すること
○　道徳教育における評価に関すること　など


令和３年度　道徳教育全体計画

鮫川村立鮫川小学校

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○いじめ防止対策推進委法
○学習指導要領
○県の重点目標
・知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
・学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
○村の重点目標
・愛と希望をもって夢や誇りを「ふるさと」に抱き、世界にはばたくこどもの育成

本校の教育目標
心身ともに健康で
豊かな人間性と創造性に富み
たくましい実践力のある児童の育成

道徳教育の目標
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよくを生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

【特別の教科：道徳】の目標
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本校の指導の重点
A　主として自分自身に関すること　：希望と勇気，努力と強い意志
B　主として人との関わりに関すること：友情，信頼
C　主として集団や社会との関わりに関すること：公正，公平，社会正義
D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること：生命の尊さ

○現代社会の要請
・いじめ問題への対応の充実
・情報化やグローバル化の進展への対応
・科学技術の発展や社会・経済の変化への対応
・新型コロナウイルス感染拡大による差別や偏見への対応

○児童の実態
・明るく素直で活動的である。
・礼儀正しく、あいさつのできる児童が多い。
・異学年での関わり合い深い。
・友だちのことをよく知り，理解できている児童が多い。
・同じメンバーで連続するため、人間関係が固定化される。
・友だちの考えを受け入れる姿勢に課題がある。
・高め合い，おはり強く取り組む意識に課題がある。

○教師、保護者の願い
・これまでの知識や経験を生かし、物事を解決する子ども
・自信をもって自分の考えを伝え、友達の考えも受け入れ、互いに認め合える子ども
・思いやりや強い精神のある子ども
・善悪を正しく判断し、主体的に行動する子ども

「特別の教科　道徳」の指導の基本方針
（1）道徳科の特質を理解する。
（2）教師と児童、児童相互の信頼関係を基盤におく。
（3）諸価値への理解を深める指導方法を工夫する。
（4）児童の発達や個に応じた指導を工夫する。
（5）問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする。
（6）道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する。

各学年の指導の重点

低学年	中学年	高学年
A　正直、誠実	A　希望と勇気、努力と強い意志	A　個性の伸長
B　友情、信頼	B　友情、信頼	B　相互理解、寛容
C　勤労、公共の精神	C　規則の尊重	C　公正、公平、社会正義
D　感動、畏敬の念	D　生命の尊さ	D　よりよく生きる喜び

各教科等における指導の基本方針
○道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり
・各教科等の特質に応じて道徳の内容に関わる事項を明確にする。
・学校の重点内容項目を踏まえ、道徳的価値を意識しながら指導する。
○学習活動や学習態度への配慮
・一人一人の思いや考えが大切にされる授業をつくる。
・お互いを思いやり、自主的かつ協力的な学級の雰囲気や人間関係を築けるよう工夫する。

各教科等における道徳教育

各教科における道徳教育の重点

国語	・国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。
社会	・地域社会の生活及びその発展に尽くした先人の働きなどについての理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育て、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。 ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を尊重し、社会的義務や責任を重んじ公正に判断しようとする態度や能力などと公民的資質の基礎を養う。
算数	・日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育て、多面的に物事を考えたり処理したりすることを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
理科・生活	・栽培や飼育などの体験活動を通して自然に関心を持ち、自然を愛する心情を育てて、生命を尊重する態度を養う。 ・身近な人及び環境と進んで関わる態度を養う。
音楽	・我が国の伝統文化や自然、四季の美しさ、夢・希望をもつことの大切さを含む教材に親しみ、豊かな情操を養い、道徳的な心情を深める。
図工	・つくりだす楽しさを通して、美しいものや崇高なものを尊重する心を育て、造形的な創造による豊かな情操を育てることによって、道徳性の基盤を養う。
家庭	・日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育て、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直そうとする態度を養う。
体育	・集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団の一員として協力するといった態度を養い、自分の生活を見直す態度を養う。

外国語科・外国語活動
・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本人としての自覚をもって、世界の人々と親善に努める態度を養う。

総合的な学習の時間
・横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して、多様な道徳的価値を含んだ現代社会の課題などに取り組んだり、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を養う。

学級活動	・児童がよりよい生活を築くために、児童による自発的、自治的な活動を通して、望ましい人間関係やよりよい集団の形成に参画する態度、及びよりよい生活を創り改り、自己の目標を定め努力し健全な生活態度を身に付ける。
児童会	・異年齢の児童が学校におけるよりよい生活を築くために諸問題を見出し、自分の役割に責任をもち、協力して解決していく自発的、実践的な態度を養う。
クラブ	・異年齢の交流を深め、協力して共通の興味・関心を追求する自発的、自治的な活動を通して、よりよいクラブ活動づくりをしようとする態度を養う。
学校行事	・ボランティア精神を養う活動や自然の中での集団宿泊体験、体育的行事、文化・芸術に親しむ体験を通して、望ましい人間関係、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公徳心などに関わる道徳性を養う。

各学年における道徳の重点

1年	・学校生活の楽しさを通して、学校や先生、友達に親しみをもち、学校生活を楽しくしようとする。
2年	・身の回りの人々に感謝し、自分の役割を果たそうとする。
3年	・身の回りの人々の仕事に関心をもち、それらの人々に感謝し、自分の役割を果たそうとする。
4年	・自分の心の健康を自分で管理し、保持増進する態度を養う。
5年	・日常生活において、安全のために必要な事柄を理解させ、進んでできるを守り、安全に行動できる態度や能力を養う。
6年	・食事ができることに感謝の気持ちを持つと共に、助け合って準備や片付けをする態度を身につけさせる。
7年	・望ましい調査習慣を育成することにより、豊かな情操を養う。
8年	・生活の場を自分達の手によって、美しく整えていこうとする態度を身につけさせる。

その他の教育活動における重点

規範	・「特別の教科道徳」を本校の研究教科とし、全職員で授業の実践や交流を図り、児童が道徳性を高められるようにする。
保健	・自分の心身の健康を自分で管理し、保持増進する態度を養う。
安全	・日常生活において、安全のために必要な事柄を理解させ、進んでできるを守り、安全に行動できる態度や能力を養う。
給食	・食事ができることに感謝の気持ちを持つと共に、助け合って準備や片付けをする態度を身につけさせる。
図書	・望ましい調査習慣を育成することにより、豊かな情操を養う。
清掃	・生活の場を自分達の手によって、美しく整えていこうとする態度を身につけさせる。

生徒指導における道徳教育の重点
○生徒指導の機能を働かせるとともに、児童の自己教育　力を育て、個性の伸長を図る。
・自己決定の場を与える。
・自己存在感を与える。
・人間的な触れ合いを重視する。
○道徳の授業に役立つ生徒指導
・道徳の授業に対する学習態度を育成する。
・道徳の授業への資料を提供する。
・学級内の人間関係や環境を整備して望ましい道徳の時間の雰囲気を醸成する。

環境の整備
児童の豊かなを育て、道徳的実践意欲を高めるよう、心に響く環境づくりをする。
・教室に道徳コーナーと「世の中のルール」の掲示を設置し、児童のワークシートを紹介する。
・各学年の廊下に「キラリコーナー」を設置する。
・月に一度、「ふれ合いタイム」を全校で行う。
・読書環境の整備
・笑顔のあふれる学校の掲示をする。
・校舎、校庭の美化
・授業の記録（映像）、参考文献の整理・保存

豊かな体験活動
全教育活動において、道徳的実践を促したり、道徳的実践力を培ったりするための豊かな体験の場を充実する。
・人、物、社会、自然（川・森林・田）とのふれあい
・総合的な学習の時間、特別活動の学習
・ひがししらかわ展ふる郷体験事業
・見学学習、イングリッシュキャンプ、修学旅行、村探検
・森林環境学習推進事業
・読み聞かせ活動
・芸術鑑賞教室
・伝統文化や地域の特産品に関わる学習（和紙・大豆等）

家庭・地域等との連携
学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
・授業参観日に道徳の授業を公開する。
・校長便り、学年便り、規範便りで道徳教育の様子を発信する。
・道徳の授業のワークシートを持ち帰らせ、保護者にコメントをいただく。
・ゲストティーチャーを招き、地域の人材を活用する。
・保護者へのアンケートを年２回実施する。
・研究授業を通して、中学校との連携を図る。
・モラルエッセイコンテストへの参加を呼びかける。

道徳教育全体計画例「鮫川村立鮫川小学校」（34頁に記載）

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。

【道徳教育全体計画の内容】

１　基本的把握事項について

□　教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
□　学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
□　児童生徒の実態と課題

２　具体的計画事項について

□　学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
□　道徳科の指導の方針
□　年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
□　各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
□　特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
□　学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
□　家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
□　道徳教育の推進体制
□　その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

３　「別葉」について

□　各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
□　道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
□　道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】
① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか，分かること
② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で，内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に，内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

（道徳のかけ橋第４号（平成26年12月15日）より抜粋）

道徳のかけ橋第４号では、「別葉」の特集を組み、左のＡ～Ｄの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。是非、全教員が共通認識に立ち、作成してください。Ａ～Ｄの４つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
□ 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

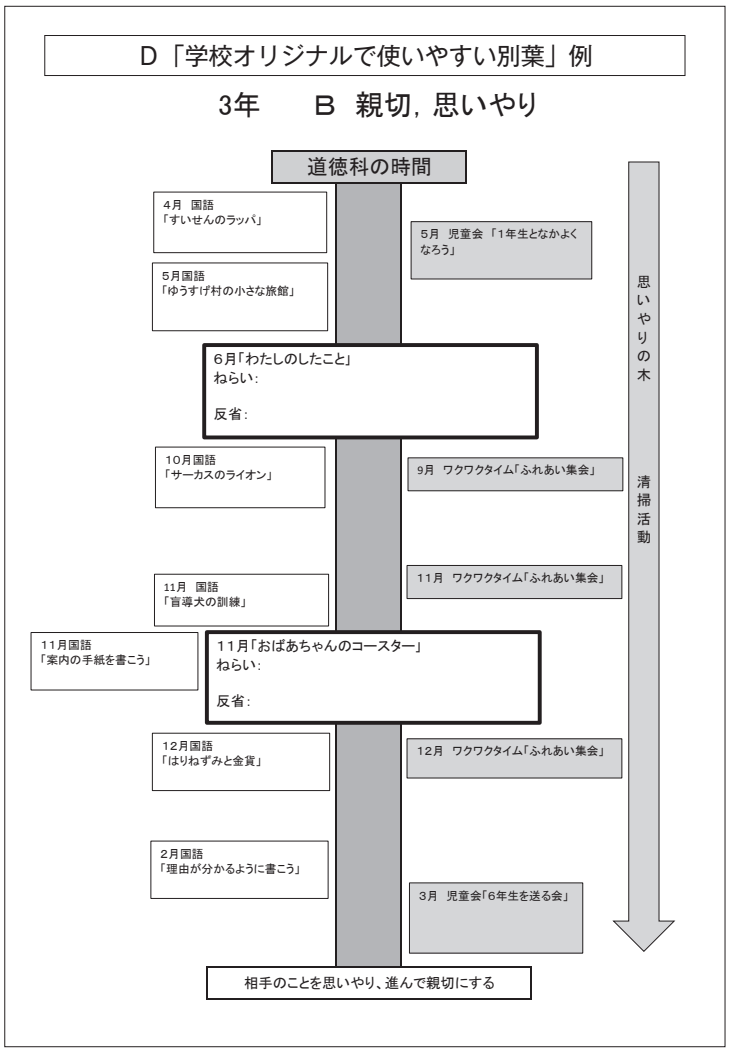
○ 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
□ 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ すべての内容項目の関連が分かる。
▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
□ 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならでは」の別葉を作成したいものです。



Ｄの別葉例「福島市立渡利小学校より」

「学校ならでは」の別葉（D）について、二つの例を紹介します
一つ目は、左に掲載した福島市立渡利小学校の事例です。この別葉の特徴は、自校が重点的に取り組む内容項目を基に、授業や学校行事等との関連を明示し、「ねらい」と「反省」を記入する形式となっているところです。23頁には二本松市立石井小学校、35頁には鮫川村立鮫川小学校の自校化した取組を掲載しています。二つ目は、47頁に記載した下郷町立下郷中学校の取組です。学校行事、学級活動、総合的な学習の時間との関連を重視し、その関連を別葉に示しています。今年度は「郷土愛」を道徳教育の軸として教育活動をつなぎ、カリキュラム・マネジメントを実践してきました。自校の教育課題の解決に向けた取組として参考にしてください。

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠	
教科書の法的根拠	学校教育法34条（教科用図書・教材） 小学校においては，文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する**教科用図書を使用しなければならない。**（中学校等にも準用）
教科書の定義	教科書の発行に関する臨時措置法２条（定義） この法律において「教科書」とは，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校及びこれらに準ずる学校において，**教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材**として，教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって，文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。

教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道徳教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点　１教材の開発と活用の工夫）

⑵　多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても，主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが，**道徳教育の特性に鑑みれば，各地域に根ざした地域教材など，多様な教材を併せて活用することが重要となる。**様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は，児童にとって特に身近なものに感じられ，教材に親しみながら，ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるため，**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。**

（同　２　道徳科に生かす教材）

⑶　多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には，特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお，教科用図書以外の教材を使用するに当たっては，「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年３月４日　初等中等教育局長通知）など，関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で，適切に使用することが重要である。

○　「主たる教材」としての教科用図書教材
　⇒　今後は主題，教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要
○　「副教材」として，ふくしま道徳教育資料集をはじめ，市町村発行の道徳教育資料集等を積極的に位置付けたい。
　⇒　意図的・計画的・組織的な計画と活用を

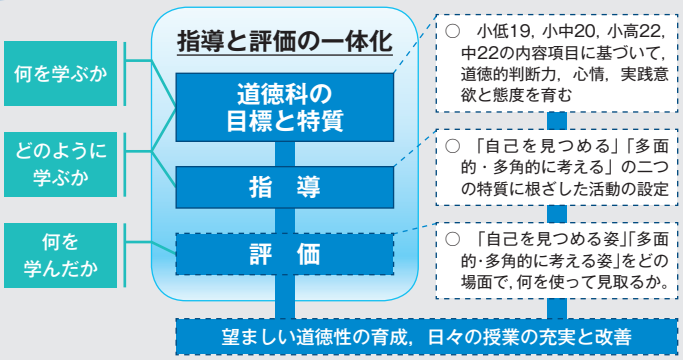
「ふくしま道徳教育資料集」「市町村発行の道徳資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道徳（WEB版）」や「小（中）学校　道徳読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」
～主体的・対話的で深い学びの実現～



指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらい－指導－評価」が、「道徳的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道徳科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。

「特別の教科　道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは，ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ，これからの生き方に生かしていくことを見通しながら，実現するための問題を見付け，どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり，他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり，自分との関わりで多面的，多角的に考えたりするためには，例えば，実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして，礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり，相手に思いやりのある言葉を掛けたり，手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに，読み物教材等を活用した場合には，その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ，各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け，実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習学習指導解説「特別の教科道徳編」第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第３節　指導の配慮事項　５　問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりを心がけることが大切です。

10、11頁に「（H28.7.22）特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～14頁に掲載しますので指導の参考としてください。

「特別の教科　道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

○　改訂後の学習指導要領（特別の教科　道徳）

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。

ただし，数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を，道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

（H27.6～H28.7）

【基本的な方向性】

○　数値による評価ではなく，記述式とすること

○　個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること

○　他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価（※）として行うこと

○　学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること

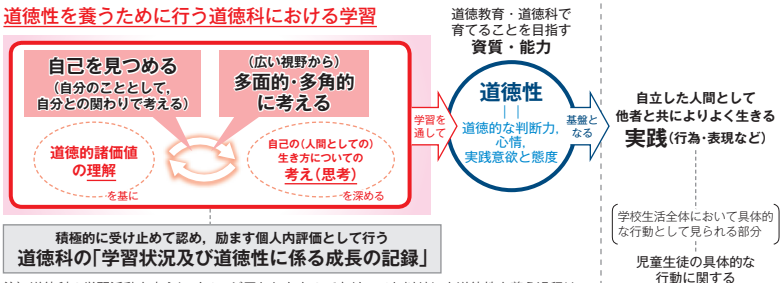
○　調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要

※　専門家会議報告に基づき，道徳科の学習評価の在り方，指導要録の参考様式について，平成28年７月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

○　道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく，観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
○　道徳科の授業では，特定の価値観を児童生徒に押しつけたり，指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え，議論する」ことを通じて，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって，道徳性を養うことを目指すものである。
→　このため，道徳科の学習の中で，特に「自己を見つめ，自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで，道徳科の学習状況を把握することが必要である。



注）道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり，これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

○　児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
○　観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
○　道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
○　学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。

小学校児童指導要録（参考様式）（イメージ）

別紙３

様式２（指導に関する記録）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科の学習の記録
Ⅰ　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	観察・資料活用の技能						
	社会的事象についての知識・理解						
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
	数量や図形についての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
	自然事象についての知識・理解						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						

特別の教科　道徳

学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
1	
2	
3	
4	
5	
6	

外国語活動の記録

観点＼学年	3	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語への慣れ親しみ		
言語や文化に関する気付き		

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
3			

画像は小学校児童指導要録のイメージ（中学校生徒指導要録、特別支援学校小学部・中学部の児童指導要録・生徒指導要録も同様）

○　指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
○　道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号（平成28年8月10日付）で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者（各学校を所管する市町村教育委員会）が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことを教えてください。

【指導要録の根拠及びその性質】
①　校長は，その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。（学校教育法施行規則第24条）
②　指導要録は，児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し，その後の指導及び外部に対する証明等に役立てるための原簿となるものであり，各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。（平成22年５月11日　文部科学省初等中等教育局長通知）

【通知表（票）の根拠と性質】
①　法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
②　児童生徒の学習指導の成果，学習生活の状況，健康状況等を保護者に連絡し，保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり，その呼び方や内容，形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】
①　校長の指導の下，通知表（票）の評価をどのように行うか。
②　保護者に道徳科の評価について，どの時期に，どのような内容で周知し，理解を図るか。
③　通知表（票）の記述を，どのように指導要録につなげるか。

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

○　児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
○　記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
○　授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
○　作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
○　１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。
○　児童生徒が１年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
○　教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
○　評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内７地区で開催された「平成30年度の『特別の教科　道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非，評価を行うの際の参考にしてください。

○　平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉
学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○　研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大の褒め言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現を心がけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○　研修会参加者が作成した評価文

○「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いたり、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧いただいて、ご家庭での話題にしていただければと思います。

○ 「○○○」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、友達の発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。

○ 「○○○」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見をもち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。

○ 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友達の考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。

○ 「○○○○○」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え，考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。　など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしている。　など

今後の道徳科の授業では､｢道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか｣｢物事を多面的･多角的に考えることができたか｣の二つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら二つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- 様々な登場人物の立場で考えている。
- 自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。　など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- 自分の生活を見つめ，振り返りながら考えている。
- 自分だったらどうするかなど考えている。　など

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。

のぞましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、二つの評価文をお示しします。二つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子が感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子が感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。

特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気付き、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもっていて、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を２事例（C，D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の二つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。

表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

○授業中の発言がほとんどない児童生徒
○文章表現が得意ではない児童生徒
○表情にも表れにくい児童生徒

- 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要である。
- 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていきたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）」を掲載します。指導の参考としてください。

道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかり把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

		×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		登場人物の心情理解のみの指導	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い
			学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかり踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。			
具体例	導入		**道徳的価値に関する内容の提示** 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	**問題の発見や道徳的価値の想起など** ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	**道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など** ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	
	展開		**登場人物への自我関与** 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 **【教師の主な発問例】** ・どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 **振り返り** 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	**問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）** ・道徳的な問題について、グループなどで話合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 **【教師の主な発問例】** ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ、自分はそのように行動するのでしょう。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 **探究のまとめ** **（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）** ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について、なぜそれを大切にしたのかなどについて話合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	**道徳的な問題場面の把握や考察など** ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 **問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など** ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 **道徳的価値の意味の考察など** ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	
	終末		**まとめ** ・教師による説話。 ・本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。			

<table>
<tr><th></th><th>×</th><th>読み物教材の登場人物への
自我関与が中心の学習</th><th>問題解決的な学習</th><th>道徳的行為に関する体験的な学習</th><th>×</th></tr>
<tr><td>指導方法の効果</td><td rowspan="4">登場人物の心情理解のみの指導</td><td>・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。</td><td>・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。
・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。
・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。</td><td>・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。
・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。</td><td rowspan="4">主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い</td></tr>
<tr><td colspan="3">道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。</td></tr>
<tr><td>指導上の留意点</td><td>・教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。</td><td>明確なテーマ設定のもと、
・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
・議論し、探求するプロセスが重視されているか。
といった検討や準備がなければ、単なる「話合い」の時間になりかねない。</td><td>明確なテーマのもと
・心情と行為との齟齬（そご）や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。
といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="3">・個人内評価を記述式で行う。
※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価。

・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、
〇他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
〇多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
といった点に注目する必要。

・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。

・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</td></tr>
</table>

※ 「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

	学習上の困難さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
困難さの状況	・「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 ・文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。 など	・気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりする。（不注意） ・話を最後まで聞いて答えることや順番を守ることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりする。（衝動性） ・じっとしていることが苦手で、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難な傾向がある。（多動性） など	・社会性の発達が遅い。相手の心情理解が難しい傾向がある。 ・暗黙のルールが理解できない傾向がある。 ・特定の事物へのこだわり（やめない、変えない、始めない）がある傾向がある。 ・感覚が過敏であることが多い。 など
考えられる障害	学習障害（LD）等	注意欠陥多動性障害（ADHD）等	自閉症等
道徳指導上の困難	・読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 ・読書が苦手で自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 ・自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流ちょうに表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となる。 など	・注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 ・多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 ・相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのか考えないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 ・ものごとを最後まで注意していないために、結末を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 ・別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。 など	・相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 ・明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 ・こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 ・誤って学習したことの修正が困難な傾向がある。 など
指導上の必要な配慮	・言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 ・提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 ・自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 ・漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。 など	・適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 ・成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 ・「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 ・必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないで済むようにする。 ・チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 ・対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。 など	・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 ・「〇〇ですと言ったのは、△さんが『～だ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 ・わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようにする。 ・ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 ・最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。 など

※発達障害には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
※「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版）
～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２２号（令和２年２月２０日発行）より抜粋】

主題名　やさしくすると･･･　【Ｂ－（６）親切、思いやり】

ねらい　親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して，他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気付き，身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材　「はしのうえのおおかみ」　（「わたしたちの道徳１・２年」文部科学省）
※　福島県教育委員会オリジナル紙芝居　（画：福島県立福島西高等学校　デザイン科学科３年　小林美歩さん）

こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！

A　集中力を持続させることがむずかしい。

B　気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。

C　一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

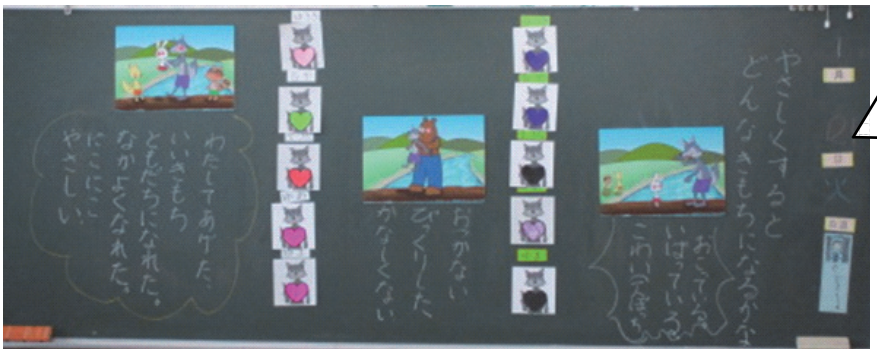
1　他者に優しくできていないオオカミの姿から，本時の学びの視点をもつ。
（1）橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると　どんなきもちになるのかな？

2　優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。
（1）　橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。
（2）　橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。
3　自分はオオカミに似ているときがあるか考える。

A　導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【　板　書　】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。
可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。

◊♦◊　授　業　の　実　際　◊♦◊

A　紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇　紙芝居による演出　◇
①　話の内容に合わせながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
②　登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。（クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡す場面など）

Ｔ：（紙芝居を読んでいる途中で）一本橋って、わかる？
Ｃ１：あの細い丸太でしょ。
Ｔ：そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

Ｔ：このとき、オオカミの顔はどんな顔？
Ｃ４：おこってる。
Ｃ２：いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。

B　色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の様子を考えやすくしたりしました。

オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

Ｔ：このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
Ｃ２：（水色のハート型色紙を合わせて･･･）ちがうな。
（群青色を合わせて･･･）これだな。
Ｃ：（５人全員がオオカミの気持ちの色を決める。）
Ｔ：C3 さんは、どうしてこの色（黒）にしたの？
Ｃ３：ひとりぼっちだと思って・・・。友達がいない。
Ｃ４：（C4 も同じく黒）オオカミは怒っているから黒。
Ｔ：どうして怒っているんだろうね？
Ｃ４：怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。

ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確かめながら考えていました。

オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

Ｔ：前のオオカミと違うところはあるかな？
Ｃ：（子どもたち５人全員大きくうなずく）
（全員、折り紙を使って色を探す。）
Ｔ：なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
Ｃ１：（ピンク）オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
Ｃ５：（赤）いい気持ちになったから、黒から赤になった。
Ｃ２：（黄緑）友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
Ｔ：オオカミはやさしくなったの？
Ｃ：（全員大きくうなずく）
Ｔ：やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
Ｔ：このときのオオカミをやってみよう。
（役割演技をしたり、見たりする。）

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。

C　一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

□　気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児
～　はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。

□　反応が少ないC3児
～　名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。

□　描材（クレヨン）で遊んでしまいそうなC6児
～　始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。（当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。）

A　授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

□　授業後の活動も含めて４５分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。
【想定していた活動】
一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。
それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。
（URL）https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a

道徳科の目標に「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深めるためには、どんなことに気を付けたらよいのですか。

授業を振り返り、自己を見つめる時に、こんなことはありませんか。
・振り返りの時間が無くなってしまった。
・子どもに何を書かせるかがあいまいで、とりあえず本時の感想を書かせている。
・子どもが「これからはこうしたい！」と前向きなことを振り返るので自己を見つめていると思う。

道徳科のねらいに迫り、道徳性を育成していくためには、自己を見つめる時間がとても重要です！

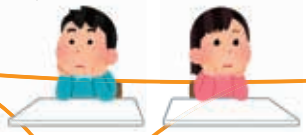
一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが道徳科のゴールになっていることが考えられます。
ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

□ 道徳的価値の意義を問うなど、教材から離れて自分の生活や体験等を振り返るようにしていますか。
□ 子どもは、道徳的価値について自身のこれまでの経験や価値観と照らし合わせて考えを深めていますか。
□ 子どもは、「自分はこうだと思うけれど迷う。」「分からなくなってきた。」「自分には難しい。」等人間の心の弱さに気付いていますか。
□ 子どもが道徳的価値について他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるように構造的な板書を工夫するなどの手立てを考えていますか。

これらのことに気を付けながら、自己を見つめる時間をつくっていくことが大切です。子どもが、「あの時は○○○と考えて、□□□したな。」と、これまでの具体的な経験とつなげることで、「今思うと・・・」あるいは、「だから・・・」と、実感を伴いながら考えを深めることができるようにしていきましょう。
「自己を見つめる」ことを大切にしている先生方の実践を紹介します。

振り返りの時間を大切にしています！

本校では、１時間の授業の10～15分を「自己を見つめる時間」として振り返りの時間を設定しています。
始めは何も振り返ることができない子どももいて悩みました。そこで、心のものさしを使って考えるなど、子どもが自分の考えを示すことができるような工夫から始めました。振り返りでは、自分の考えや話合いをもとに、「これまでの自分はどうだったか」を振り返っています。
マイナス面を書くことをためらう子どももいましたが、どんな考えも認め合える学級の雰囲気ができてきたので、次第に素直な言葉があふれてきました。１年間繰り返すことで、自己内対話が深まっているように感じています。今では、振り返った後に、自然と振り返りを共有し認め合う姿が見られるようになりました。



「自己を見つめる」時にはワークシートを活用しています！

私の学校では、自分を客観的に見つめじっくりと考えたことを表出できるよう、ワークシートに書く活動を取り入れ累積しています。

こんな時は・・・

○振り返りを書くことができない。
・授業中の発言に着目してみましょう。
・授業後にどのように考えていたか、そっと問いかけて見取ることもできます。
・焦らず、長期スパンで見取るようにしましょう。
○振り返りが前向きでない。
（例）今のぼくは、みんなのようにできないと思う。
⇒今の自分には実現することが難しいと感じている、自分に気付いている姿です。自己を見つめている姿を認め、長期スパンで道徳性に係る成長の様子を見取っていきましょう。

学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業をどのように進めればよいのですか？

学習指導要領には、家庭や地域社会との連携による指導が明記されています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳教育を進めることで、子どもの豊かな道徳性の育成につながります。各学校、学級の実態をしっかりと捉えた上で、家庭や地域との連携を探っていきましょう。

道徳教育推進校で進めた家庭との連携の取組例

1　道徳科の授業の前に、家庭で教科書を保護者と共に読む活動を設定する。その後、感想を話し合う。

教材文が長く、一読に時間がかかる教材の場合は、事前に読むことで自分の考えを整理しやすくなります。一方、全員で確認しながら読むことのよさ、初めて読む楽しさもありますので、実践には吟味が必要です。

親子で感想を交流したり、保護者の考えを聞いたりすることは、道徳性の育成につながる家庭での道徳教育となります。

2　授業への参加を依頼する。

○ゲストティーチャー（以下ＧＴ）として参加

地域人材：郷土の伝統を守ろうと努力をしている地域人材
自然保護に取り組んでいる町役場の人
これからの町づくりのために活動している人　等

保護者　：内容項目に関わる仕事や経験をもつ人
人々の生活を支えている医療現場で働いている人
震災を経験した立場としてその時の様子や感じたことを話すことができる人

○ロールプレイに参加
※令和２年度「道徳のとびら」参照

○心のものさしに保護者や地域の人も考えを示すなど学習活動に参加

１単位時間の全てをＧＴに依頼するのではなく、内容項目について子どもが話し合う時間や話合いを経て自己を見つめる時間をしっかりと確保することが重要です。

教材を通して、子どもが考えを広げ、自己を見つめるきっかけとなるような活用ができるようにしましょう。

保護者が考えを示す時には、価値観の異なる考えの一つとして多面的・多角的に考えるきっかけとなるようにコーディネートしていきましょう。

3　道徳科の授業後に家庭で保護者と共に考える学習を設定する。

家庭学習として、教材やワークシートを持ち帰り、子どもが自分の考えを伝え、保護者の考えをインタビューする　等

4　道徳科の授業の様子や子どもの道徳性に関わる成長の様子やエピソード等を学校便り、ホームページで発信する。

これらの家庭、保護者との連携を、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら進めることが大切です。道徳科は道徳教育の要の時間です。学校教育全体で行う道徳教育との関連を見極めて、自校の実態に合わせた連携を考えていきましょう。

１～４を全て実施することが必要なわけではなく、あくまでも各学校の実態に応じた連携の在り方を見いだしていくことが大切です。

校長先生から「道徳教育推進教師」に任命され、解説87～88頁を読んでみました。でも、何から手をつけたらよいか、よくわかりません。

学校の先生方みんなの力を借りて、わかりやすく推進することを心掛けてみませんか。一緒に考えてみましょう。

学習指導要領解説には、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実が明記されています。解説87～88頁で確認しましょう。

> 授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役になったり、情報提供をしたりして援助することや、道徳科に関する授業研修の実施、道徳科の授業公開や情報発信などを、道徳教育推進教師が中心となって協力して進めることが考えられる。
>
> 道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育においても調整役などの役割を果たすことになるが、道徳科においてその充実を図る際も、校長は学校として道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、適切な人材を充てるとともに、そのリーダーシップや連絡調整の下で全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。中でも、道徳科の指導力向上のために全ての教師が、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に１回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な取組も望まれる。そのために、例えば、道徳科の授業改善を推進するための推進委員会などの組織を設けることも大切である。

道徳教育推進教師はじめの一歩

１　自校で「どのような子ども」を育てるのかを設定します。

□　教育目標の具現化を図り、目指す子どもの姿を描きます。

□　学校運営ビジョンを基に、道徳教育部会や管理職と相談しながらつくります。

２　重点内容項目を設定します。

□　目指す子どもの姿から、道徳の19～22ある内容項目の中で、特に関わりのある内容をいくつか選びます。重点なので、できる限り絞り込むことがポイントです。

□　家庭や地域の願いを基に設定することも大切です。

３　１、２について全教職員、家庭や地域と共通理解を図ります。

□　選定した「重点内容項目」に関わる指導を、教育活動全体を通じてみんなで指導するという共通理解を図ります。

□　それぞれの学年や部会ごとに、どのような場面で「重点内容項目」に関わる指導ができそうかを考えます。

→このための指導計画で、指導の内容と時期を具体的に示したものが、全体計画「別葉」になります。

□　家庭や地域へも、共に取り組んでいくことを依頼します。

４　実践します。

□　各教科等の授業の中で、あるいは、生徒指導等をとおして、子どもたちに指導していきます。

「目指す子どもの姿」を基に、重点内容項目を選定していくことが、はじめの一歩なのですね。みんなで推進していくために、重点内容項目に限定した「わかりやすくて活用したくなる別葉」を作成してみたいと思います。

道徳教育推進教師としての様々な取組を紹介することも役割の一つです。
まずは、できそうだと思うことから、一つ決めて取り組んでみましょう。

道徳教育推進アイデアノート

○重点内容項目から教育活動を構想する
　・ＰＤＣＡサイクルで振り返りましょう。
○道徳教育に関わる情報提供
○掲示物、教材コーナーの整備
　・場面絵のストック
　・板書写真の掲示　等
○ワークシート等のデータを共有フォルダに累積
○道徳科の授業を開く（互見授業のコーディネート）
○道徳便りの発行
　・道徳教育における情報の発信
　・求める子どもの姿
　・一人の人間として内容項目について考えたこと　等

道徳教育推進教師の先生の声

小学校

推進教師になった時は、これを機会に勉強してみようと思い、ワクワクしました。それでも、道徳科の授業には課題を感じていました。

そこで、始めに取りかかったのは、自分の悩みや課題について整理してみようということです。私は、「発問」「問い返し」に課題意識をもっていたので、本の情報や授業の考察を道徳便りで発信しました。自分の考えを整理する意味でもとてもよかったです。

また、目指したのは、年間３５時間いつでも誰でもできる範囲の中で毎回の授業の質を高めていくことです。いかに短い時間で効率よく効果的な準備をできるかを考えました。毎回とはいきませんが、板書写真や子どものワークシートを職員室に掲示することで、授業について自然と職員間で語り合うようになりました。推進教師として取り組んだことで、子どもとつくる授業の大切さ、子どもの成長を実感することができました。

中学校

私は正直なところ、道徳科に苦手意識がありました。でも、若い先生方が進んで研究授業に取り組むので、一緒に授業づくりをしてきました。私が取り組んだことは、校内研究のコーディネートです。改まった研修の場ではなくベテランの先生も若い先生も、普段から相談できる体制があることも本校の研究を進める強みとなりました。ある先生は、何度も授業を繰り返すことで、板書がどんどん変化していきました。

推進教師として特別なことをしたわけではなく、聞き役になり授業改善を応援してきました。学校みんなで一丸となって取り組めたので、これからも校内で研究を深めていきたいです。

「みんなの力を借りて」という言葉が、心に響きました。
焦らずに、取り組んでいきたいと思います。

【実践編】

令和３年度道徳教育推進校報告

県北地区道徳教育推進校「二本松市立石井小学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	二本松市立石井小学校
所　在　地	二本松市小高内３番地
校　長　名	遠藤　春光
教　育　目　標	主体的に学び励み合う心豊かでたくましい子どもの育成
学級及び児童生徒数	学　級　数　７ 児　童　数　９５名

2　研究テーマ

他者とつながり、共によりよく生きようとする子どもの育成
～家庭、地域と共につくる道徳教育をめざして～

3　研究テーマ設定の理由

石井地区は三世代同居世帯が多く、子どもたちは地域の様々な世代の人々との関わりが深い。また、地域の方も多くの面で子どもたちの活動に関わっており、学校教育に協力的な土壌がある。さらに、石井地区には古くから伝わる伝統芸能や行事などが残っており、長い歴史の中で守り受け継がれてきた人と人との強いつながりもある。伝統文化が色濃く息づくこの石井地区の特性を生かし、地域の人的・文化的資源を積極的に取り入れ、他者との関わりやつながりを大切にした教育活動を展開していくことで、「石井小学校ならではの道徳教育」をつくることができると考える。

本年度は実践研究の二年次にあたり、特に特別活動や総合的な学習の時間と道徳教育の関わりを重視し、これまで築いてきた家庭や地域とのつながりをさらに広げ深めていきたい。

どの教育活動においても「つながれ　ひろがれ　石井のわ」のスローガンのもと、めざす子どもの姿として、「自ら動き出し、つながり、共によりよく生きようとする子ども」を掲げ、友達や保護者、地域とのつながりの中で自己を見つめ、よりよく生きようとする心を育んでいきたいと考え、本テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
４月２８日（水）	現職教育全体会（研究内容等の検討）	
７月１３日（火）	第１回校内授業研究会（４年村松直子教諭） 講師　福島県教育庁県北教育事務所　佐藤倫子　指導主事	
９月１３日（月）	第２回校内授業研究会（６年後藤健一教諭） 講師　二本松市立小浜小学校　藤原　謙　校長	
９月２８日（火）	第３回校内授業研究会（２年酒井浩子教諭） 講師　二本松市教育委員会　長澤　潤　指導係長	
１０月　５日（火）	第４回校内授業研究会（５年髙島柚香教諭） 講師　福島県教育庁義務教育課　肥沼志帆　指導主事	
１０月１１日（月）	二本松市立小浜小学校授業研究会参加　遠藤春光校長 酒井浩子教諭　後藤健一教諭	
１０月１８日（月）	道徳教育地区別推進協議会（鮫川小）視察　皆川敦彦教諭	
１０月２５日（月）	第５回校内授業研究会（１年伊藤恭子教諭） 講師　二本松市立二本松北小学校　伊藤清子　教諭	
１１月　１日（月）	第６回校内授業研究会（３年皆川敦彦教諭） 講師　秋田公立美術大学副学長　毛内　嘉威　様	
１１月１９日（金）	広野町人権教育研究発表会（広野中）視察　村松直子教諭	
１２月　１日（水）	道徳地区別推進協議会（県北地区）	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

○　全体計画は、「家庭、地域との連携」「豊かな体験の場の設定」「多面的・多角的に考える道徳科の授業の充実」の方針を基に、関連する活動を位置付けた。学校、家庭、地域のつながりをさらに広げていくことをめざし、意識しながら推進してきた。

○　別葉は、授業の振り返りと共に実践を通して気付いた新たな関連を記入した。記入したものを次の学年に残し、さらに教育活動全体を通した道徳教育の推進に活用する。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

○　別葉を学習指導計画に綴じ、確認しながら教育活動を進めたことによって、道徳科と他教科等を関連させたり、学びをつなげたりしながら指導することに役立てられた。

【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫

①　保護者と共に考える授業を展開したことで、自分とは異なる立場の意見に触れ、子どもたちの視野が広がり、考えが深まる場面が見られた。保護者にとっても道徳教育への理解や子どもを理解する場となった。そして何より、共に学ぶ温かさが生まれた。

②　「心のものさし」等の思考ツールをきっかけとし、話合いが深まるように工夫すると共に、自分を振り返る時間を毎時間１５分程度確保したことで、子どもたちは自分の心とじっくりと向き合い、心の弱さや迷いなどをしっかり見つめることができた。

③　特に、特別活動や総合的な学習の時間では、道徳教育との関連を意識し、教職員で目指す子どもの姿の共有を図り、教育活動を展開したことで、子どものよさや道徳的実践の姿を見取ることができ、それを道徳科の指導に生かすことができた。体験的、実践的な活動とつなげて考えることで、子どもたちは実感をもって学ぶことができた。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について

①　「ふくしま道徳教育資料集」と合わせて、身近な人の体験を聞くことによって、震災当時の人々の苦労や努力、協力、心の交流、そして自分の命の重さについて深く考えることができた。郷土である石井地区や家族への愛情と誇りを感じる機会となった。

②　感染症に係るいじめについては、日常生活の中で起こり得る差別や偏見と道徳科の授業を関連させ、公正、公平な態度で行動することの大切さについて考えた。

③　震災当時のことや感染症に係る差別や偏見等について、数回にわたり保護者と共に考えたり話し合ったりする場を設けた。家庭に道徳教育をつなげることで、子どもの学びを一層広げることができた。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○　評価の視点

・　道徳的価値観の異なる立場からの様々な感じ方、考え方を受け止めながら、自分の思いや考えと比べて考えている。

・　道徳的価値についての理解を基に、自分の心の弱さや迷いを見つめ、自分のこととして捉え、生活を振り返りながら考えている。

○　全校共通のテーマについて考える「きらりタイム」においては、友達とだけではなく、家庭においても親子で考えたり互いの考えを聞き合ったりする場をつくってきた。

○　道徳科をはじめ各教科等の互見授業を行ったことで、互いの授業や学級づくりのよさを共有することができ、学級経営や授業力の向上につながった。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　子どもの道徳性を育成する上で、学校教育だけでなく子どもが生活する家庭や地域における理解と協力が欠かせないとの考えから、家庭や地域と連携した教育活動を推進してきた。保護者や地域人材との学びは、子どもたちの心に強く響き、自己を見つめたり、地域のよさに目を向けたりする姿につながった。

○　保護者、地域人材の参加型授業などを積極的に進めてきたことで、学校と家庭や地域との連携が深まり、これまでの「地域に開かれた学校」から、子どもたちを共に育んでいこうとする「地域とともにある学校」へと意識が高まった。今後は、「つながれ　ひろがれ　石井のわ」の関係が今後益々深まっていくことが期待できる。

６　「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

保護者や地域の方と共に学んだり活動したりすることを通して、家庭・地域と学校が一つの「わ」になり、共に子どもたちを育てる。

【概要】

道徳科等の授業に保護者や地域の方を招き、保護者と共に考える授業や地域の方に学ぶ授業に積極的に取り組み、家庭、地域と共につくる道徳教育をめざしている。また、道徳科の授業後には、本時に学習したことを家庭で保護者に伝え、共に考えたり保護者の考えを聞いたりする機会をつくってきた。

【成果と課題】

○　保護者と共に学ぶ授業によって、保護者と子どもがつながり温かい雰囲気ができた。特に保護者から家庭における心温まるエピソードを話してもらったときには、学級全体が温かい空気に包まれ、話題に出された子どもたちの表情もとても和らいだ。また、互いの考えや迷い、心の動きなどを語り合うことで、共に学び合う場となり、大人がいつも正しいわけではなく、時には迷ったり悩んだりすることもあることに気付く姿も見られた。保護者からは、「子どもたちの発想や素直な考えに驚かされる。」「親も改めて考えさせられる。」などの感想が寄せられた。多様な考えや立場を認めようとする姿や進んで自分を表現しようとする姿が増えてきている。

○　道徳科の授業後には、子どもたちが家で教材を再度読んだり、授業の内容や自分の考えなどを話したりして、それについての保護者の考えや経験を聴いてくる、という活動も取り入れてきた。子どもたちが書いたものを読むと、保護者が真剣に子どもたちに語っていることや、それを聴いて、子どもたちが授業だけでは得られない考えの広がりや深まりを得ていることを感じることができた。

○　各教科等において地域の人に学ぶ授業を行うことで、子どもたちは地域や地域の人を身近に感じ、理解と愛着を深めた。さらに、学んだことを土台にして、自分たちで学びや活動を広げようとする姿が見られた。また、地域の方も、子どもたちが地域に関心をもつことをとても喜んでいる。

●　継続的な取組で、地域の人や保護者の理解と協力を得ることが大事である。

７　成果と課題

これまであまり自分を表現しなかった子どもが、進んで自分の考えを述べるようになった。友達に聞いてもらえることや友達の考えを聞くことを楽しめるようになり、学級全体として多様な考えが出されるようになったことで、話し合いが深まってきた。４年生のＡさんは、道徳科やその他の授業で、積極的に自分の考えを話すようになった。話すことが得意ではないため、話し方がたどたどしいこともあるが、一生懸命さがひしひしと伝わってくる。友達は、そんなＡさんをじっと見守り、耳を傾けていた。Ａさんは、「道徳の授業が大好きだ」と話し、道徳科の授業を楽しみにしている。

１年生の学級会では、振り返りの場面で「友達の話をよく聞いていて、思ったことを発表していたのがすごい。」「Ｂさんがあきらめないで自分の考えを発表していたのがかっこいい。」と発表した。子どもが友達のよさに気付く力が育ってきていると感じている。

また、縦割りの活動を通して全校生がつながり、さらに、保護者や地域の人、全職員が一体となって子どもを育てようとする連帯感が、確かに育まれている。

令和３年度　石井小学校　道徳教育全体計画

「つながれ　ひろがれ　石井のわ」

諸法規

- 日本国憲法　・　教育基本法
- 学校教育法　・　学習指導要領
- いじめ防止対策推進法
- 二本松市からの指針

時代や社会の要請

- いじめ、差別の根絶
- 多様な価値観の中での判断と情報の選択
- 国際化、情報化
- コロナ対策、新しい生活様式

教育目標

主体的に学び励み合う心豊かでたくましい子供の育成

○　深く考える子　　○　思いやりのある子
○　たくましい子　　○　やりぬく子

道徳教育の目標

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自律した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳教育の方針

○　家庭、地域との連携を図り、学校、家庭、地域が一体となった道徳教育を進める。

○　学校教育全体、家庭、地域も含め、豊かな体験の場を意図して作り、道徳性を養うとともに実践の場とする。

○　道徳教育の要として、多面的・多角的に考える道徳科の授業の充実を図る。

児童の実態

- 素直で、まじめである。
- 友達に親切にできる。

教師、保護者の願い

- 思いやりのある子供
- よく考え、粘り強く取り組む子供
- 協力し、主体的に行動できる子供

地域の実態

- 自然豊かな地域で３世代同居家庭が多い。地域社会のつながりが強い
- 学校への関心が高く協力的である。
- 古くからの伝統文化が残り、現在、未来に伝えようとしている。
- 現代的な生活の仕方をしている。

各教科

【国語】日常生活における人との関わりの中で、互いの立場を尊重しながら伝え合う力を高める。
【社会】伝統と文化を尊重し、我が国や郷土を愛する心を育てる。
【算数】よりよく問題を解決しようとする態度、学びを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
【理科】生命を尊重し、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。
【生活】自分や身近な人々、社会及び自然の関わり等に気付き、基本的な生活習慣や技能を身に付ける。
【音楽】音楽を愛好する心情と感性を育み、豊かな情操を養う。
【図工】つくり出す喜びを味わい、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度や豊かな情操を養う。
【家庭】家族の一員として、生活をよりよく工夫しようとする態度を育てる。
【体育】運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
【外国語】言語や文化に対する理解を深め、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

今年度の重点目標

［親切、思いやり］［家族愛、家庭生活の充実］
［伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度］

【めざす子どもの姿】
互いを尊重し合いながらつながり、主体的に考え行動する子ども

【低学年】
○　身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
○　父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ。
○　我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつ。

【中学年】
○　相手のことを思いやり、進んで親切にする。
○　父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
○　我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつ。

【高学年】
○　誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。
○　父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。
○　我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ。

特別活動

【学級活動】学級や学校での生活をよりよくするために話し合い、合意形成して実践したり、自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることで、望ましい人間関係やよりよい集団の形成に参画する態度を育てる。
【児童会活動】学校におけるよりよい生活を築くために、諸問題を見出し、協力して解決していく自発的、実践的な活動を通して、望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度を養う。
【クラブ活動】協力して共通の興味・関心を追究する自発的・自治的な活動を通して、異年齢による望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図る。
【学校行事】望ましい人間関係、自立的態度、心身の健康、協力、責任、公徳心、勤労、社会奉仕などに関わる道徳性を育てる。

総合的な学習の時間

地域の素材を生かし、探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

○　地域探検
○　伝統文化調べ
○　地域施設への訪問
○　幼稚園との交流
○　学校、地域の歴史調べ
○　学校の伝統を受け継ぐ

道徳科の指導方針

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

○　家庭、地域との連携を図るとともに、豊かな体験を基盤とした授業づくりを進める。
○　子どもたちがじっくりと自分を見つめ、自己の生き方について実感的に考えられるようにする。
○　互いの考えを尊重し合い、共に学び合える授業づくりに努める。

生徒指導

○　互いの人格を尊重し合い、思いやりの気持ちをもって生活できるようにする。
○　児童相互、児童と教師の心の交流を図り、望ましい人間関係を基盤とした学校生活をつくる。
○　いじめや差別、偏見を許さず、公正、公平な見方、接し方を実践できるようにする。

- きらりカード
- 学校生活アンケート
- いじめ調査

教育環境の整備

児童の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高める環境づくりを行う。

○　児童と教師、児童同士の望ましい人間関係づくり
○　言語環境の整備
○　校舎、校庭の美化と緑化
○　道徳コーナーの充実

幼小中の連携

二中学区における幼小中と連携、交流し、つながりを広げ深める。

○　二中学区スタンダードの実施
○　情報の発信、共有
○　石井幼稚園との交流
○　二本松二中の出前授業

異学年交流

全校での取り組みや縦割り活動の充実を図り、全校生でのつながりを広げ深めるとともに、道徳的実践の場とする。

○　各行事　　○　集団登校　　○　縦割り清掃
○　児童集会　○　委員会活動　○　クラブ活動
○　きらりカード　○　担任外による読み聞かせ

別葉４年　Ｂ親切、思いやり

各教科等

国語科

『ランドセルは海をこえて』
『あなたなら、どう言う』
『ごんぎつね』
『プラタナスの木』

総合的な学習の時間

- 伝統を引き継ごう
- 学校を緑豊かにしよう
- わたしたちの生活と環境

道徳科

◎よりそう心
『心の信号機』

◎気持ちの通じ合い
『温かい言葉』

◎思いやり
『クリスマスのおくりもの』

家庭とつながる

- 授業参観
- 学年行事、学校行事
- 各種便りやＨＰによる情報発信
- **子どもの振り返りを保護者と共有**
- **保護者と共に考える授業の実施**
- 「えがおつなごう二本松プロジェクト」
- 家読リレー
- 奉仕作業

友達とつながる

- 各行事（石井っ子フェスティバル、マラソン大会、なわとび記録会、スキー教室）
- **縦割りでの活動（清掃、集団登校、児童集会、１年生を迎える会、６年生を送る会等）**
- 委員会活動
- クラブ活動
- **学級活動（学級会、係活動等）**
- **きらりカード**
- 教師によるきらり読み聞かせ

地域とつながる

- **総合的な学習の時間**
- **特別活動**
- **ゲストティーチャーの活用**
- 地域行事への参加
- 石井っ子協力員の活動
- ボランティアによる読み聞かせ
- 「えがおつなごう二本松プロジェクト」

自分とつながる

- きらりタイム（全校道徳の時間）
- キャリアパスポート

「つながれ ひろがれ 石井のわ」

《友達とつながる》

〈授業でつながる〉

〈異学年交流〉

《家庭とつながる》

〈保護者と共に考える授業〉

〈家庭で保護者と共に考える道徳〉

～みんなの笑顔を石井小から～

〈石井っ子フェスティバル〉

道徳教育推進

自らうごき出し
つながり
共によりよく
生きようとする子供

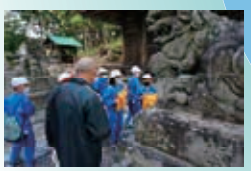
保護者や地域と共に

さつまいもほり

スイートポテト作り

地域のごみ拾い

〈保護者と一緒に〉



地域の文化を学ぶ

自らを語り出す

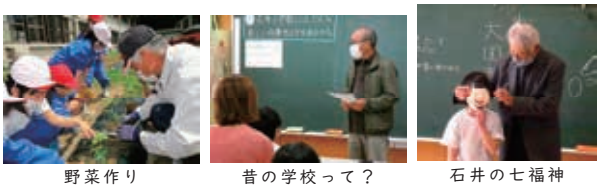
まちたんけん

放課後子ども教室

読み聞かせ　リース作り　さつまいも料理

〈石井っ子協力員のみなさんと〉

〈きらりタイム〉



野菜作り　昔の学校って？　石井の七福神

〈地域の方を招いて〉

約１５分間の確保　保護者と共に　心のものさしの活用

〈道徳科　自分を見つめる時間の重視〉

《地域とつながる》

《自分とつながる》

県中地区道徳教育推進校「田村市立船引南小学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	田村市立船引南小学校
所　在　地	田村市船引町堀越字丸森２
校　長　名	平野　美和
教　育　目　標	豊かな心とたくましい体をもち、夢輝かせ、たゆまず努力する子どもの育成
学級及び児童生徒数	学　級　数　７ 児　童　数　８９名

2　研究テーマ

「見つめ」「つながる」道徳教育の可能性を探る～「ひと工夫」による道徳科づくり～

3　研究テーマ設定の理由

田村市内の山間に位置する本校の児童は、明るく純真で、指示されたことを素直に取り組むことができる。その反面、臆することなく自分を表現することを苦手としている児童が多い。そこで、「自分の考えを話したい」「思いを伝えたい」という思いを高められる道徳科の授業を工夫していく必要があると考えた。道徳科の授業において、導入の仕方や思考ツール、ワークシートなど「ひと工夫」をした指導方法を取り入れていくことで、児童は自己を「見つめ」、多角的・多面的に考え、臆することなく友達と議論し合えるように変わっていけるのではないか。また、「ひと工夫」をした道徳科の授業により、友達はもちろん、地域や保護者、中学校区の他小学校、中学校とも「つながる」、他教科と関連した内容を扱い、生活科や総合的な学習の時間など他教科とも「つながる」ことで道徳教育の充実が図れるのではないかと考え、本研究テーマとした。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
５月　７日（金）	全体会（研究テーマの決定）	
５月 12 日（水）	道徳教育校内研修会	
６月　９日（水）	第１回授業研究会　第４学年	市内小中学校に授業研究会を随時公開
６月 16 日（水）	第２回授業研究会　第２学年	
６月 25 日（金）	第３回授業研究会　第５学年	
７月　６日（火）	第４回授業研究会（小中連携道徳授業 船引南小・芦沢小第６学年と船引南中第１学年生合同）	⇩
７月 21 日（水）	第５回授業研究会　第１学年	
９月　３日（金）	第６回授業研究会　第３学年	
９月 21 日（火）	第７回授業研究会　第６学年	
10 月　５日（火）	計画訪問　道徳科授業研究　第１学年	
10 月 27 日（水）	第８回授業研究会　第２学年	
11 月 11 日（木）	第９回授業研究会　第３学年 田村市道徳教育推進委員会委員に授業公開 講師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様	オンライン配信（市内小中学校）
12 月　３日（金）	道徳教育地区別推進協議会 第４、５学年授業公開 講師 東京学芸大学大学院 特任教授 永田 繁雄 様	オンライン配信（市内小中学校）
１月 14 日（金）	全体会（研究のまとめ）	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について

＜作成上の工夫点、配慮点＞

・　道徳教育全体計画作成：校長の方針の下、全教職員・保護者や地域住民の参画を促す。(コミュニティスクールの機能を生かした道徳教育全体計画作成の工夫)

・　誰一人として取りこぼすことなく、全児童・全職員が互いに高まり合える存在として認め・つながる体制の構築のために、SDGsの視点を取り入れる。

・　本年度の研究テーマ「つながる」道徳科の具現化を図る「１年次別葉」の作成

(SDGsの視点を別葉に加筆していくことで、次年度活用できる新別葉へ)

＜活用上の工夫点、配慮点＞

・　道徳教育の重点目標を道徳コーナーに掲示・児童用の「重点目標」を作成し掲示

・　本年度重点内容項目をマーカー等で明確化させ、各教科等のどの単元で、SDGsの視点を当てて指導できるのかを記載

・　別葉に授業実施における変更点や気付いた点を加筆し次年度に生かす。

・　道徳教育全体計画を受けて作成した学級における道徳指導計画を学級経営誌に綴り指導に生かす。

【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫

「ひと工夫」により個や集団で考えさせ、自己をよりよく見つめさせるために

① 教材提示の工夫

② ワークシートの開発(一見シート、意見交流シート等)

③ 思考ツール（気持ち柱、ハートカード、カラーカード等）の活用

④ 学習形態の工夫(個、ペア、グループ、全体)

⑤ 教師のコーディネートによる子どもの意見の表出

⑥ 他教科や SDGs の視点等

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について

「見つめ」「つながる」道徳科の実現に向けて

① 身近に起こった福島県のことに、関心をもって考えられる教材提示の工夫

② 思考ツールを活用した話合いの工夫

③ 学習した内容が実感できる振り返りの工夫

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

「ひと工夫」により児童一人一人を受け止めて認め、励ますために

① ワークシートの活用

　自己の変容を見取る活用、振り返りを促す活用

② ワークシートの累積

　長期間での学習状況や道徳性に係る成長の様子の見取り

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

「ひと工夫」により家庭・地域とのつながり、他教科や視点との関連が効果的であるように

・　家庭との連携(ワークシートへの家庭からの返信等)

・　教科やSDGsの視点との関連

・　ICT機器を生かした他校やゲストティーチャーとの連携

・　地域人材や地域行事との連携

6「家庭・地域との連携」について

＜道徳ホームワーク(宿題)＞

【ねらい】

授業で使用するワークシートの裏面に道徳ホームワーク(宿題)を入れることで、学校と家庭とが「つながる」道徳教育の充実に生かす。

【概要】

事前に授業内容に関することを家庭で話し合ったり、事後に学習したことを、さらに深める課題に取り組ませたりする。また、家庭からのコメントをフィードバックさせる。

【成果と課題】

○　道徳ホームワーク（宿題）を通して、学校と家庭との信頼関係を醸成したり、親子の対話を促進したりすることができ、子ども理解を深めることができた。

○　家庭で道徳科の授業を振り返り、親子で対話しながら学習したことをさらに広げたり、発展させたりする活動を行うことで、保護者の道徳教育に対する意識が高まった。

●　「道徳だより」や学年便りで家庭からのコメントを大切にフィードバックしている。しかし、見られることが前提となると、コメントに制限をかけてしまう恐れがある。家庭からのコメントの扱いについては、今後さらなる検討が必要である。

7　成果と課題

○　「ひと工夫」をした指導方法を取り入れながら１人２回の授業研究を組織的、計画的に実践した。そのことにより、教師は授業づくりについて理解を深めることができ、道徳教育の充実につながった。

○「ハートカード」や「気持ち柱」、「人生図」、「心のボタン」など様々な思考ツールを活用したことにより、子どもたちは自分の思いや考えを表出したり、道徳的価値を自分とのかかわりの中で深めたりすることができた。

【夢中になって考える１年生】

○　授業の流れを「見える化」したワークシートを作成し、活用した。そのことにより、子ども自身が自分の学びを振り返ったり、教師が子どもの変容を見取ったりすることができた。また、ワークシートの累積により、児童一人一人を受け止めて認め、励ます評価につながった。

○　道徳ホームワーク(宿題)により、道徳的価値の深まりが見られるなど家庭と連携しながら道徳教育を進めることができた。道徳ホームワーク(宿題)は、学校と家庭との関係性を構築する上で有効であった。

○　授業実践を通して、SDGs の視点とつなげながら全体計画別葉を改訂してきた。SDGs の視点から授業を構想・実践することにより、教室での学びが学校生活及び日常生活へ広がり、道徳的実践への思いが高まってきている。

○　オンラインによる他校との交流学習や３校による SDGs 関連オンライン会議など、コロナ禍においても ICT を積極的に活用することにより、中学校区での連携を深めることができた。

●　子どもが道徳的価値をより深く自分とのかかわりの中で考えたり、多面的・多角的な見方へと発展させたりすることができるようにするために、授業のねらいや児童の実態に応じて思考ツールやワークシートを活用することが必要である。

●　小小連携・小中連携を進めるにあたり、学校間の距離（移動）についての課題と（日課表を含めた）時間的な課題に直面した。中学校の日課表を基軸として、調整や連携を図りながら事業を推進していくことが求められる。

田村市立船引南小学校　特別の教科　道徳　全体計画

【法令・施策等】
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
いじめ防止対策推進法

第６次福島県総合教育計画
○豊かな心をはぐくみます。

田村市教育大綱より～目指す教育～
ふるさとに誇りを持ち、進路を切り開き、社会の頼もしい担い手として、たくましく生き抜く子どもの育成

田村市教育振興推進プログラム
②規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。
具体目標（１）道徳教育の充実
「田村っ子のルール１０」
「～田村の子　心の道標～」

学校　教育目標

豊かな心とたくましい体をもち、
夢輝かせ、たゆまず努力する子どもの育成

○　よく学ぶ子～努力のあとのえがお～

○　思いやりのある子～さわやかなあいさつ～

○　たくましい子～心もからだも元気～

道徳教育の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳教育の重点目標

○より高い目標に向かって、全力を尽くし、粘り強くやり通す。
○思いやりの心を持ち、誰にでも親切にする。
○生命のつながりを理解し生命を大切にする。

【児童の実態】
・明るく純真、指示されたことには素直に従う。
・学校が大好き。
・体を動かすことが好き。
・粘り強く頑張る。
・臆することなく自己表現をすることが難しい。
・場に応じた言葉遣いができない。

【教職員の願い】
・何事にも自主的に取り組み、粘り強く取り組んでほしい。
・確かな学力を身につけてほしい。
・思いやりの心をもち、あいさつや言葉遣いなど、礼儀を大切にしてほしい。

【保護者の願い】
・基礎基本の学力を身につけてほしい。
・健康でたくましい心豊かな心を持った子に育ってほしい。

【地域の願い】(コミュニティスクール)
・地域とともに学び、確かな学力をつけた子どもになってほしい。
・志を持ち夢に向かってたくましく努力する子どもになってほしい。

各学年の重点目標

低学年	中学年	高学年
◎自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。 ◎身近な人に温かい心で接し親切にする。 ◎みんなが使うものを大切にする。 ◎生命を大切にする。	◎自分で決めた目標に向かって粘り強くがんばる。 ◎相手のことを思いやり進んで親切にする。 ◎約束やきまりを守って生活する。 ◎生命のあるものを大切にする。	◎より高い目標を立て、くじけずに最後までがんばる。 ◎相手の立場に立って親切にする。 ◎きまりを守り、自分の役割を自覚し、進んで役割を果たす。 ◎生命のつながりを理解し生命を大切にする。

各教科、特別活動・その他における道徳教育

国　語	・正確に理解したり適切に表現し、伝え合う力を高める。 ・我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する気持ちを育てる。	外国語	・外国語の背景にある文化に対する理解を深める。 ・主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
社　会	・地域社会に対する誇りと愛情を育てる。 ・我が国の国土と歴史を理解し、それらへの愛情を育てる。	外国語活動	・外国語の背景にある文化に対する理解を深める。 ・主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
算　数	・見通しをもち筋道を立てて考え表現する態度を育てる。 ・算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。	総合的な学習の時間	・地域の人々や自然・文化と豊かにかかわる体験活動を通して、様々な道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める。
理　科	・栽培や飼育などの体験活動を通して、自然を愛する心情を育てる。 ・見通しをもって観察・実験を行い、問題解決の力を育てる。	特　別活　動	集団生活や体験活動を通して、互いのよさや可能性を発揮し集団や自己の生活上の課題を解決する態度を育てる。 **○学級活動** ・学級や学校の生活上の諸問題を見いだし協力して解決する態度を育てる。 **○児童会活動** ・よりよい学校生活を築くために自主的自発的に解決していく態度を育てる。 **○クラブ活動** ・異年齢によるより良い人間関係の育成や個性の伸長にかかわる道徳性を育む。 **○学校行事** ・自然の中での活動や文化や芸術に親しむ体験などを通してよりよい人間関係の形成、自律的態度、勤労や社会奉仕などの意欲を育てる。
生　活	・自然に親しみ、自然との関わりに関心を持たせる。 ・自分自身について考え、自分自身のよさに気付く。 ・生活上必要な習慣を身につけ、自立するための資質、能力を育てる。		
音　楽	・音楽を愛好する心情や感性を育てる。		
図　画 工　作	・つくりだす喜びを味わわせる。 ・美しいものを大切にする心情を育てる。		
家　庭	・日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身につけさせる。 ・家族の一員として家庭生活を大切にする心情を育てる。		
体　育	・最後まで粘り強く取り組む、気持ちのよい挨拶をする、仲間と協力する、勝敗を受け入れる、などの態度を育てる。	その他	・班活動や遊びなどのふれあいを通して自主的に活動させる。 ・児童と教師、児童相互の人間関係を深め社会性を育てる。 ○業間活動　○朝の会、帰りの会　○給食　○縦割り清掃　○集団登校

道徳の時間の指導の重点

○児童の実態に即した重点的な指導をする。

○〔希望と勇気、努力と強い意志〕〔親切と思いやり〕〔規則の尊重〕〔生命の尊さ〕に重点を置いて、指導にあたる。

○様々な教材を工夫し、書く活動、ペア・小グループでの話し合い活動など多様な学習活動を設定し、道徳的価値について深く考えることができるようにする。

○各教科、体験活動などとの関連的指導ができるよう工夫する。

○「ふくしま道徳教育資料集」・田村市「心の教育」の指導資料を活用する。

○評価の方法を工夫し、学習の過程や成果などの記録を計画的に蓄積し、評価に生かすようにする。

6年　全体計画　別葉（教科領域等と道徳との関連計画表）【時系列】

船引南小学校　６年

学年の重点課題	課　題　の　内　容	
	◎より高い目標を立て、くじけず最後までがんばる。	◎きまりを守り、自分の役割を自覚し、進んで役割を果たす。
	◎相手の立場に立って親切にする。	◎生命のつながりを理解し、生命を大切にする。

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	付録	
道徳	光文書院	●一年生のお世話係 ―アフター・ユー― C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●松井さんの笑顔 D 感謝 ●温かいおまんじゅう B 礼儀	●夢に向かって ―三浦雄一郎― A 希望と勇気、努力と強い意志 ●鶴子、ドンマイ！ B 友情、信頼 ●きみの声が聞きたい A 真理の探究 ●本屋のお姉さん A 正直、誠実	●世界がおどろくC分間清掃 C 勤労、公共の精神 ●ハっていいお父さん C 家族愛、家庭生活の充実 ●本当にだいじょうぶ？ A 節度、節制 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」 C 規則の尊重	●いちなくなったきもち C 規則の尊重 D 自然の美しさ D 自然愛護	●広村堤防の清掃ボランティア C 勤労、公共の精神 ●魔術和上 A 希望と勇気、努力と強い意志 ●森川君のうおさ C 公正、公平、社会正義 ●地球があぶない D 自然愛護	●民俗「獅子舞」をなくしたい ―連載 謝― A 真理の探究 ●お茶のん C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●いちばん近い自然「里山」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●グランコ乗りとピエロ B 相互理解、寛容	●これが日本 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●フーバーさん C 国際理解、国際親善 ●六千人の命を救った決断 ―杉原千畝― C 公正、公平、社会正義 ●すあしにサンダルの天使 ―マザー・テレサ― D よりよく生きる喜び	●あのおにさま B 親切、思いやり ●高家古人 ―吉田松陰― A 正直、誠実	●めさせ、首八千回！ A 個性の伸長 ●麻薬はいけない B 親切、思いやり	●王森のメッセージ D 生命の尊さ ●命と向き合う人生 D 生命の尊さ ●負けない D 生命の尊さ ●大空に飛び立つ鳥 A 善悪の判断、自律、自由と責任	●舞の師匠 D 感動、畏敬の念 ●わたしは ひろがる D よりよく生きる喜び	●消えゆの宿題 A 個性の伸長 ●友のしょうぞう画 B 友情、信頼 ●やせっこすりむこと じゃない D 相互理解、寛容 ●とみがえれ 熊本城 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●鶴ほたけ、折り鶴 D 生命の尊さ	次に生かすメモ・ＳＤＧｓの視点等
学校行事		春校式・始業式・入学式 授業参観 身体測定 避難訓練・交通安全教室	遠足 家庭訪問	ツーマン面談 新体力テスト 草花栽培活動 防犯講	授業参観 宿泊学習 水泳記録会 夏休み前全校集会	市陸上大会・球体測定 交通安全教室 たちっぷ！元気しょん体験活動	家族会議 秋祭式・結業式 ウラジン記録 学習発表会（みなみっ子発表会）	避難訓練 草花栽培活動	教育相談	球体測定	新入学説明会 なかとひ交流会 スケート教室 授業参観	卒業式 なかとひ交流会 修了式・卒業証書授与式 離任式	落書移民式 愛校活動 修了式・卒業証書授与式	
特別活動	学級活動	●最高学年としてのん張え A 希望と勇気、努力と強い意志 ●青梅組長の役割を考えよう C よりよい学校生活、集団生活の充実		●学級の問題について話し合おう C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●きれいな学校によし C 勤労、公共の精神	●夏休みの計画を立てよう A 希望と勇気、努力と強い意志	●夏休みの成果を話し合おう A 節度、節制 ●自転車の安全な乗り方を話し合おう C 規則の尊重	●規則の反省をしよう ●規則のめあてと学級組織の見直し C よりよい学校生活、集団生活の充実		●男女の協力について話し合おう A 節度、節制 B 相互理解、寛容	●なるためことはならぬ A 節度、節制 C 規則の尊重	●クリーン作戦をしよう C 勤労、公共の精神	●6年間の思い出を語ろう B 感謝		
	クラブ，児童会，委員会	●1・2年生をわかえる会 C よりよい学校生活、集団生活の充実	●全校集会（毎月１回実施） C よりよい学校生活、集団生活の充実		●たなばた集会 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●夏休み明け全校集会 C よりよい学校生活、集団生活の充実			●冬休み前全校集会 C よりよい学校生活、集団生活の充実	●冬休みあけ全校集会 C よりよい学校生活、集団生活の充実	●ひまき集会 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●６年生を送る会 B 感謝　C よりよい学校生活、集団生活の充実		
教科	国語	●つないで、つないで、つないで話 B 友情、信頼 ●三年生の思い出 ●夢の河小景美術 D 自然愛護 ●緑り道 B 友情、信頼 ●「ごんぎつね」 B 相互理解、寛容 ●地域の施設を活用しよう C 規則の尊重 ●漢字の形と音・意味 C 規則の尊重 ●夢のハ会き C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 ●聞いて、考えを深めよう B 友情、信頼	●友かの出願は C 勤労、公共の精神 ●笑うから楽しい A 正直、誠実 B 親切、思いやり ●野菜の時間と心の時間 A 節度、節制 B 友情、信頼 A 希望と勇気、努力と強い意志 ●主張と事例 A 真理の探究 ●話し言葉と書き言葉 B 礼儀 C 勤労、公共の精神	●こわしたは A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●文の組み立て A 個性の伸長 C 規則の尊重 ●天地の文 A 正直、誠実 A 節度、節制 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●情報と情報をつなげて「伝える」 A 善悪の判断、自律、自由と責任 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●私たちにできること B 友情、信頼	●夏のおわり C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●松上本 A 個性の伸長 A 希望と勇気、努力と強い意志 ●金へ D 自然愛護 D 感動、畏敬の念	●「ぎょぎょ」、まんまん D 自然愛護 ●いちばん大事なのは A 善悪の判断、自律、自由と責任 B 友情、信頼 ●利用案内を読もう A 善悪の判断、自律、自由と責任 C 規則の尊重 ●熟語の成り立ち C 規則の尊重 ●漢字の広場② A 個性の伸長 ●やまなし D 感動、畏敬の念 ●イーハトーブの夢 D 自然愛護	●言葉の変化 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●紅葉し C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 ●みんなで楽しく過ごすために A 善悪の判断、自律、自由と責任 C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●伝えにくいことを伝える A 正直、誠実 B 親切、思いやり	●漢字の広場② A 個性の伸長 C 勤労、公共の精神 ●「和山市」について C 公正、公平、社会正義 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●大切にしたい言葉 A 正直、誠実 B 相互理解、寛容 ●漢字の広場③ D 感謝 C 勤労、公共の精神 ●古典芸能の世界――狂言で伝える C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●カンジー博士の漢字習得秘法	●冬至の頃 A 善悪の判断、自律、自由と責任 ●「ありがとう」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●「ごんぎつね」を読む A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●「漢字の広場③」 D 感謝 ●「やまなし」 D 自然愛護 ●「イーハトーブの夢」 D 自然愛護	●思い出を言葉に C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●「海の命」 D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 D よりよく生きる喜び ●中学校へつなげよう A 個性の伸長 A 真理の探究 D 感動、畏敬の念 ●生きる D 生命の尊さ D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 ●今、あなたに考えてほしいこと D 自然愛護 D 感動、畏敬の念	●漢字の広場③ C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●海の命 D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 D よりよく生きる喜び ●中学校へつなげよう A 個性の伸長 A 真理の探究 D 感動、畏敬の念 ●生きる D 生命の尊さ D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 ●今、あなたに考えてほしいこと D 自然愛護 D 感動、畏敬の念	
	社会	東京書籍	●わたしたちの生活と政治／憲法 A 公正、公平、社会正義 ●わたしたちのくら 憲法 B 親切、思いやり C 規則の尊重 C 公正、公平、社会正義 C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 生命の尊さ ●国の政治のしくみと運営 A 善悪の判断、自律、自由と責任 C 規則の尊重	●子育て支援の願いを実現する政治／震災復興の願いを実現する政治（兼沢） A 希望と勇気、努力と強い意志 B 親切、思いやり B 友情、信頼 C 公正、公平、社会正義 C よりよい学校生活、集団生活の充実 D よりよく生きる喜び	●大豆中心の国づくり A 希望と勇気、努力と強い意志 A 真理の探究 C 規則の尊重 C 公正、公平、社会正義 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●「武士の世」へ C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●武士の世の中へ B 友情、信頼 C 規則の尊重 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●今に伝わる室町文化 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 自然愛護	●戦国の世から天下統一へ A 個性の伸長 A 希望と勇気、努力と強い意志 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善 ●江戸幕府と政治の安定 C 規則の尊重 C 公正、公平、社会正義 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●世界に歩み出した日本 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 相互理解、寛容 C 規則の尊重 C 公正、公平、社会正義 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●いかす C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●世界の中の日本／導入 C 国際理解、国際親善 ●日本とつながりが深い国 B 相互理解、寛容 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●世界の未来と日本の役割 B 親切、思いやり C 公正、公平、社会正義 C 国際理解、国際親善 D 生命の尊さ D 自然愛護 D よりよく生きる喜び	
	算数	東京書籍	●京ののとびら A 個性の伸長 A 真理の探究 ●うり合いのとれた図形を調べよう C 規則の尊重 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●数量やその関係を式に表そう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●分数のかけ算を考えよう A 真理の探究 C 規則の尊重	●分数のわり算を考えよう C 規則の尊重 ●分数の倍 A 真理の探究 ●どんな計算に なるのかな？ A 真理の探究	●割合の表し方を調べよう A 希望と勇気、努力と強い意志 A 真理の探究 ●数で読みとこう A 真理の探究	●形が同じで大きさがちがう図形を調べよう A 真理の探究 ●円の面積の求め方を考えよう A 真理の探究	●角柱と円柱の体積の求め方を考えよう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●およその面積と体積を求めよう A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●考える力をのばそう A 真理の探究 ●比例の関係をくわしく調べよう A 希望と勇気、努力と強い意志	●順序よく整理して調べよう A 真理の探究 C よりよい学校生活、集団生活の充実	●考える力をのばそう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●データの特ちょうを調べて判断しよう A 真理の探究 C よりよい学校生活、集団生活の充実 ●数で読みとこう A 真理の探究			●募集弥生旅行 A 希望と勇気、努力と強い意志 A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	
	理科	東京書籍	●いろいろな角度から，考えてみよう。 A 真理の探究 ●地球と私たちのくらし D 生命の尊さ D 自然愛護 ●物の燃え方と空気 A 真理の探究	●学びをつなごう A 真理の探究 ●動物のからだのはたらき A 真理の探究 D 生命の尊さ	●植物のからだのはたらき A 真理の探究 D 自然愛護 ●学びをつなごう D 自然愛護 ●生き物のくらしと環境 A 真理の探究 D 生命の尊さ	●星の観察 A 個性の伸長 A 真理の探究	●月の形と太陽 A 真理の探究 D 自然愛護 A 地のつくり A 真理の探究 D 自然愛護	●星とわれわれの地 A 真理の探究 C 規則の尊重 D 自然愛護 ●学びをつなごう D 自然愛護 ●てこのはたらき A 真理の探究	●電気と私たちのくらし A 個性の伸長 A 真理の探究 B 相互理解、寛容	●学びをつなごう A 個性の伸長	●水溶液の性質とはたらき A 真理の探究 B 相互理解、寛容 C 規則の尊重	●地球に生きる A 真理の探究 D 自然愛護	●学んだことをふり返ろう！ A 真理の探究 D 生命の尊さ D 自然愛護	
	英語	光村図書	●Let's Start/アイのの「たいっ」/言葉の準備運動/アルファベット/教室で使う英語/衣服 C 国際理解、国際親善 ●This is me. B 友情、信頼 C 国際理解、国際親善	●Welcome to Japan. C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●What do you want to watch? B 友情、信頼 C 国際理解、国際親善	●世界の友達1 C 国際理解、国際親善	●My Summer Vacation C 家族愛、家庭生活の充実 C 国際理解、国際親善	●He is famous. She is great. A 希望と勇気、努力と強い意志 C 国際理解、国際親善 ●This is my town. C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●My Best Memory C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 国際理解、国際親善 ●世界の友達2 C 国際理解、国際親善	●What do you want to be? C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 国際理解、国際親善	●Junior High School Life C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 国際理解、国際親善	●世界の友達3 C 国際理解、国際親善		
	音楽	教育芸術社	●歌声をひびかせてくんをつなげよう C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 感動、畏敬の念	●いろいろな音色を感じ取ろう A 真理の探究 C よりよい学校生活、集団生活の充実 D 感動、畏敬の念		●旋律の特徴を生かして表現しよう C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●いろいろな和音のひびきを感じ取ろう A 真理の探究 B 相互理解、寛容	●休符の変化を感じ取ろう A 真理の探究 B 友情、信頼 D 感動、畏敬の念		●詩と音楽の関わりを味わおう C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 感動、畏敬の念	●日本や世界の音楽に親しもう C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 C 国際理解、国際親善	●音楽で思いを伝えよう B 感謝 D 感動、畏敬の念		●春頃 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●歌いつごう　日本の歌 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●みんなで楽しく A 希望と勇気、努力と強い意志	
	図画工作	開隆堂	●わたしのお気に入りの場所 A 正直、誠実 B 相互理解、寛容	●今の気持ちを絵に A 正直、誠実 B 相互理解、寛容 ●いろどり，いろいろ（形と色でショートチャレンジ!） A 希望と勇気、努力と強い意志 A 真理の探究	●木と金属でチャレンジ A 希望と勇気、努力と強い意志	●入口口の向こうには… C よりよい学校生活、集団生活の充実 D 自然愛護	●ゆらゆら、どきどき A 真理の探究	●カット、ペタッと、すてきな形 A 個性の伸長 ●きらめき劇場 A 真理の探究 D 感動、畏敬の念	●時空をこえて／みんなのお話始まるよ A 正直、誠実 C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 国際理解、国際親善	●学校へようこそ B 親切、思いやり B 感謝 C よりよい学校生活、集団生活の充実	●龍を見る C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 感動、畏敬の念 ●墨から生まれる世界 A 真理の探究	●ひびき合う形と色を求めて／バランス・アンバランス A 希望と勇気、努力と強い意志 A 真理の探究	●わたしはデザイナー　12さいの力で／夢の新製品 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 相互理解、寛容	●からのきコーナー A 希望と勇気、努力と強い意志	
	家庭	開隆堂	●生活時間をマネジメント A 節度、節制 C 家族愛、家庭生活の充実 ●できることを増やしてクッキング A 節度、節制 A 真理の探究	●ナーンスパ作戦 C 勤労、公共の精神 C 家族愛、家庭生活の充実 ●すずしく快適に過ごす住まい方 A 節度、節制 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●すずしく快適に過ごす着方と干し方 A 節度、節制			●生活を豊かに　ソーイング A 希望と勇気、努力と強い意志 C よりよい学校生活、集団生活の充実		●こんだてを工夫して B 礼儀 C 規則の尊重 C 家族愛、家庭生活の充実 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度		●町に生きる地域での生活 C 勤労、公共の精神 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	●持続可能な社会を生きる A 節度、節制 C 勤労、公共の精神	●中学校の学習をふりかえって、中学校の学習に生かそう A 節度、節制 C 家族愛、家庭生活の充実 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度		
	体育	光文書院	●体はそしの運動 D 友情、信頼 ●団旗運走・リレー B 友情、信頼 C 規則の尊重	●マット運動 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼	●ネット型（ソフトバレーボール） A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 C 規則の尊重 ●水泳運動 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 C 規則の尊重		●表現運動 A 個性の伸長 B 友情、信頼 ●鉄棒運動 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 ●ゴール型（バスケットボール） A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 C 規則の尊重	●走り高跳び A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼	●フォークダンス A 個性の伸長 B 友情、信頼 ●跳び　2種類技 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 ●体の動きを高める運動 B 友情、信頼		●跳び箱運動 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼	●ゴール型　足（サッカー） A 希望と勇気、努力と強い意志 B 友情、信頼 C 規則の尊重			
	保健	東京書籍				●病気の予防 A 善悪の判断、自律、自由と責任 B 節度、節制 C 規則の尊重					●病気の予防 A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 節度、節制 C 規則の尊重			
総合的な学習の時間														
家庭・地域との連携		・堂山王子神社例大祭 ・安松神社や19・0沖例大祭 ・お人形さまお炎祭大・祭礼（４月第４日曜日）	・明石神社例大祭 ・野菜の苗植え ・お仁		・蛍踊り（夏休み中） ・蛍品田収（夏休み中）	・敬老祭 ・秋祭り ・野菜の収穫	・３位祭り ・稲刈り	・明石神社例大祭 ・堂山王子神社例大祭 ・羽鳥神社例大祭					・スポーツ少年団の活動（ソフトボール・バスケットボール）	

【資料】

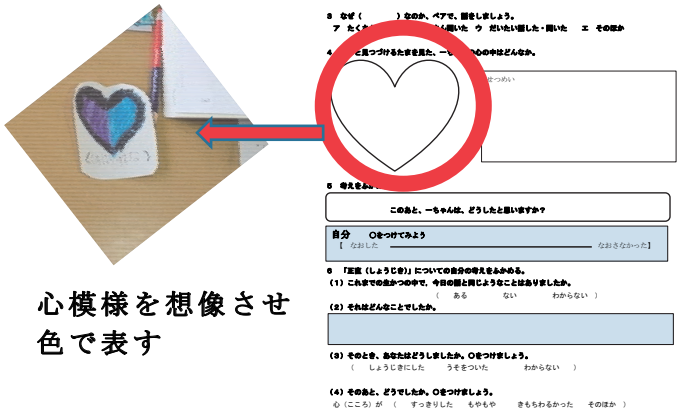
《別葉》 SDGs の 17 項目との関連を入れた

道徳ホームワーク（宿題）

SDGs についてもさらに深める

《「ひと工夫」の例》 ワークシートの開発

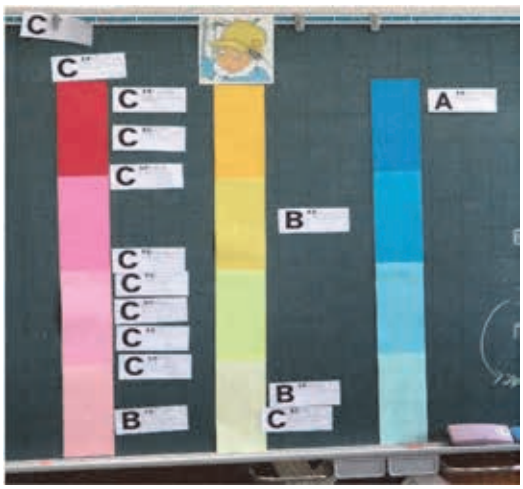
ハートカード



心模様を想像させ
色で表す

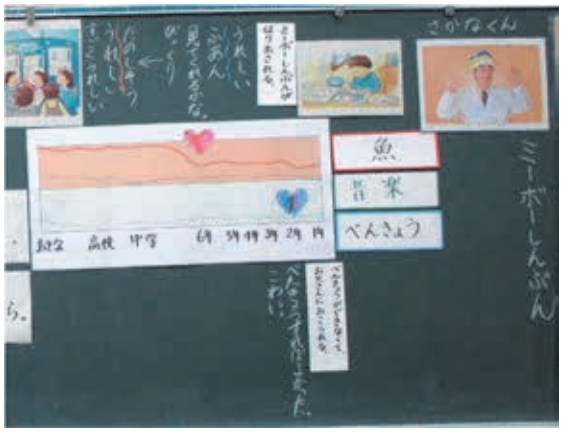
気持ち柱

人物の心情を見える化する柱



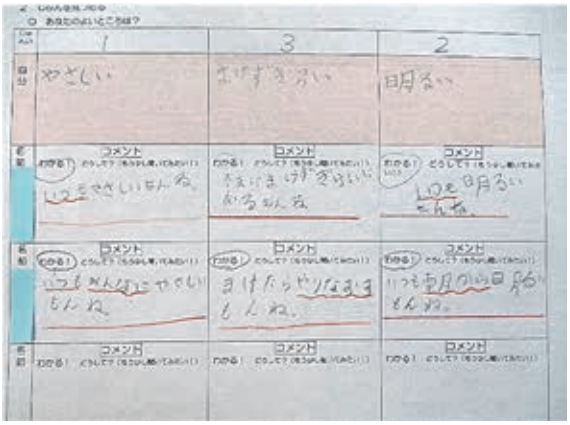
人生図

人物の浮き沈みを見える化



3 分まわし

全員の学びを保障　友達同士をつなぐ



県南地区道徳教育推進校「鮫川村立鮫川小学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	鮫川村立鮫川小学校
所　在　地	鮫川村赤坂中野道少田８６
校　長　名	齋藤　雅彦
教育目標	心身共に健康で、豊かな人間性と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成
学級及び児童生徒数	学　級　数　８ 児　童　数　１３８名

2　研究テーマ

「自ら主体的に行動する児童の育成」
～伝え合い　聴き合い　自己の考えを深める　道徳科の授業づくりを目指して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は鮫川村の豊かな自然環境に囲まれている。児童は穏やかさと強さを兼ね備えた地域の方の人柄に恵まれ、心の豊かさや素直さがある。しかし、幼少期から中学校卒業まで同じメンバーで進級していくという人間関係や、生活の範囲・社会経験が限られがちな環境も影響しているためか、考えや思いを伝え合ったり聴き合ったりすることを苦手とする児童も多い。また、多面的・多角的に考え、判断し、表現することにも課題が見られる。今後、将来児童を取り巻く環境が大きく変化することが予想される中、一人一人の社会的自立に向けて、その基盤となる人間性の育成を目指し、道徳教育を通して道徳性を育むために「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を推進していくことが重要である。

そこで、本校の指導の重点として「自立」と「礼」をキーワードにおき、児童の問題解決能力や表現・活用能力、人間関係形成力の向上を目指し、児童が主体的に行動できるような姿が具現化できるよう、研究テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
４月中旬～ ５月１０日（月）	・研究主題、研究内容等についての検討 ・福島県道徳教育総合支援事業の主旨について 講師：福島県教育庁南県南教育事務所　久保木 学　指導主事	
６月～ ９月１３日（月）	・校内授業研究会（年間１２回実施） ・道徳教育推進校視察（二本松市立石井小）	
１０月１８日（月）	・校内授業研究会（２・５・６年） 指導助言：秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様	
１０月２７日（水）	・道徳教育推進校視察（田村市立船引南小）	
１１月　１日（月）	・校内研修「Ｑ―Ｕの理解」 講師：会津大学教授　苅間澤 勇人 様	
１１月　８日（月）	・校内授業研究会及び事前検討会（２・６年） 指導助言：福島県教育庁義務教育課　肥沼 志帆 指導主事 福島県教育庁南県南教育事務所　久保木 学 指導主事	
１１月１１日（木）	・道徳教育推進校視察（田村市立船引南小）	
１２月　２日（木）	・道徳教育地区別推進協議会（２・６年） 指導助言：秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様	
１２月中旬 １月２４日（月）	・研究のまとめ（成果と課題） ・校内研修「Ｑ―Ｕの結果と考察」 講師：会津大学教授　苅間澤 勇人 様	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉
①道徳教育全体計画に基づき、学校教育全体を通して道徳性の育成を目指し、取り組んできた。
②前年度作成された各学年の道徳教育の別葉に加え、各学年の児童の実態に応じて、特に育てたい内容項目を重点として道徳教育の軸とし、それに関連する学習活動を挙げ、各学年の別葉（別葉②）を新たに作成し、関連を意識して実践した。また、職員室前に1～6学年分を掲示し、共通理解を図った。
〈活用上の工夫点、配慮点〉
○道徳科を現職教育の研究教科とし、道徳科を要として他教科との関連・系統性を踏まえて授業研究、事前・事後研究を進め、指導方法について研究に取り組んだ。

【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫

①主題や教材と自分を重ねて考えるための工夫
・課題の設定の仕方（学びの必要感）、教材との出会わせ方、教材の内容のおさえ方、範読の仕方、教材文へ自我関与させる発問の仕方を工夫した。
・アンケート結果や実生活の場面から授業へつないだり、具体的な生活場面での自分の心情を展開後段や終末で振り返らせたりすることを意識して授業づくりをした。
②道徳的価値についての理解をもとに自己の考えを深められるような発問の工夫
・児童に考えさせたいことを明確にし、考えを多様に引き出すために中心発問を工夫した。
・教師自身が内容項目への理解を深め、児童の多様な考えを整理していけるよう努めた。
③広がり・深まりのある話し合いにするための工夫
・児童の考えを教師自身が多面的・多角的に捉えた上で児童と共有し、児童が本時の内容項目を複数の視点から考えられるよう、話し合いをコーディネートした。
・個人・ペア・グループ・全体等の学習形態の工夫、ホワイトボードや構造的な板書を活用して話し合いを進めた。
・価値理解をもとに・本音を語らせるための問い返し方、考えの取りあげ方を工夫した。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について

①年間指導計画に関連教材として「ふくしま道徳教育資料集」を全学年で位置づけ、積極的な活用を図った。沿岸部や原発避難区域に比べ、本村は比較的震災の被害が大きくはなかった。また、現在の小学生の年齢を考えると、震災当時の記憶をもつ児童はほぼいない。そのため、防災教育や放射線教育の学習を充実させ、当時の状況を十分に理解させた上で授業に臨んだ。
②「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」を、いじめに関連する教材（特に「友情、信頼」「公正、公平、社会正義」）の関連教材として、全学年で取り入れた。配慮しながら慎重に扱い、「自分だったら」「もし、身近な人が」という視点を学習過程に取り入れた。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

①授業において一人一人の発言に耳を傾け、受容的な姿勢で認め、一人一人の考えを大切にするよう意識した。
②全員分の授業のワークシートに担任がコメントを書き、児童が自分なりの考えをもったことを称賛した。毎時間数名の道徳ノートのコピーを教室や職員室前に掲示した。
③児童が考えを深めた部分を通知票・学年だより・個別懇談を通して保護者へ伝え、家庭からも励ましを得た。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

①年3回の授業参観のうち1回、全学年で道徳の授業を公開し、懇談会でも話題に挙げた。
②「校長室だより」において道徳教育の取り組みや日常の児童の様子を全家庭に発信した。
③活用したワークシートや道徳ファイル、教科書等を家庭に持ち帰らせ、児童の考えに対する保護者のコメントをいただく機会をつくり、いただいたコメントの内容を学年だよりで周知した。
④「学年だより」や学校ＨＰを通して道徳の授業の様子や児童の意見を各学級の保護者に伝えた。
⑤「道徳キラリ通信（家庭向け道徳便り）」において、「キラリコーナー（友だちのよい所を記入したカードの掲示物）」や保護者からのコメントを全家庭に紹介した。
⑥様々な教科でゲストティーチャーを招聘し、地域の人材を活用した教育活動を行った。
⑦保護者へのアンケートを実施し、道徳教育への保護者の関心を高めると共に、その結果や変容を分析した。
⑧道徳で学習したことや授業中の児童の発言を台詞にして台本を作り、学習発表会で発表した。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

村内唯一の小学校である利点を生かし、学校・家庭・地域がチームとなって児童の道徳性の育成を図る。

【概要】

・情報の発信・・・校長室だより、道徳キラリ通信（研修主任）、学年だより、学校ホームページ、ＰＴＡ広報「やまなみ」。
・道徳での児童の学びを家庭と共有・・・道徳の授業参観（年１回）、ワークシートへのコメント依頼（学期１回）、学習発表会で道徳に関する発表、個別懇談で道徳の話題を挙げる 等。
・家庭や地域での経験を授業へ・・・学校外での具体的な生活経験を想起させ、授業の内容と関連付ける。
・「実践の場」としての家庭や地域・・・・授業で学んだことの学校外への波及。情報の共有。
・保護者への道徳アンケート・・・保護者の道徳教育への関心を高める。結果を分析し、道徳教育へ生かす。

【成果と課題】

○　様々な発信の場や共有の機会を生かし、授業の実際や児童の成長について保護者へ伝えることを通して、道徳教育への理解を得ることができた。アンケート結果を分析したところ、保護者の意識の変容も見られた。

○　補充・深化・統合を目的として、「学校内外での経験 → 授業 →教育活動全体を通した道徳的実践へ」というサイクルを意識して授業を作ることで、児童は実生活と関連付けて考えを深めることができた。

●　ゲストティーチャーを呼んだり、地域内の施設へ見学をしたりする地域の人材、素材と関わる機会をさらに増やしたい。また、その活動がどの内容項目と関連しているか、授業と関連付けて指導計画を工夫したい。

７　成果と課題

○　事前研究・授業研究・事後研究の中で最も大切にしたことは、「発問・問い返し・コーディネート」である。児童に何を問うのか、児童とどのように言葉のやりとりをするのか構想を練り、児童の考えを大切にしてきた。教師のちょっとした言い回しの違いで、児童の反応が大きく変わることも実感した。

○　研究授業のための実践ではなく、年間３５時間いつでも誰でもできる範囲の中で、いかに毎回の授業の質を高めるかということを職員間で考えてきたことで、今後に活きる研究となった。また、役割演技やアンケート活用、ICT 活用、付箋紙を使った意見共有、板書での思考ツール活用、先行オーガナイザー、顔マークの活用、ペア・グループでの話し合いの工夫など、多様な実践を共有し、その場面に応じた的確な指導方法を考えることができた。

○　「全職員による全教育活動を通した道徳教育」を目指し、道徳科の授業以外の場面との関連を考えてきたことで、学級経営や生徒指導、道徳科と他教科とのつながりを実感することができた。児童の学習・生活全般のあらゆる場面で、自分の思いを素直に伝える姿や、友だちの意見に耳を傾け共感する姿、自分をしっかりと見つめる姿が見られた。

●　導入・展開前段・展開後段・終末の在り方や学習過程について考え、実践し合ってきたことで、本校の道徳科の授業スタイルができてきたように思うが、当然「型」が全てではなく、学習過程についてはさらに多様な指導方法について検討していきたい。

●　別葉②（別紙参照）を活用し、道徳科の授業を要とした他教科との関連について考えてきた。それが適切であったか、さらに関連させるべきものはあるかを見直し、次年度以降へつなげていきたい。

●　児童のワークシートへの記述、授業内での発言だけでなく道徳的実践とどのようにつながっていくのか道徳性の成長について、その見取り方をさらに研究していきたい。

令和３年度　道 徳 教 育 全 体 計 画

鮫川村立鮫川小学校

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○いじめ防止対策推進委法
○学習指導要領
○県の重点目標
・知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
・学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
○村の重点目標
・愛と希望をもって学び続ける「ふるさとに根ざし、世界にはばたく子ども」の育成。

本校の教育目標

心身ともに健康で
豊かな人間性と創造性に富み
たくましい実践力のある児童の育成

道徳教育の目標

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

「特別の教科　道徳」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を態度を育てる。

○現代社会の要請
・いじめ問題への対応の充実
・情報化やグローバル化の進展への対応
・科学技術の発展や社会・経済の変化への対応
・新型コロナウイルス感染拡大による差別や偏見への対応

○児童の実態
・明るく素直で活動的である。
・礼儀正しく、あいさつのできる児童が多い。
・異学年での関わりが深い。
・友だちのことをよく知り、理解できている児童が多い。
・同じメンバーで進級するため、人間関係が固定化される。
・友だちの考えを受け入れる姿勢に課題がある。
・高め合い、ねばり強く取り組む意識に課題がある。

○教師、保護者の願い
・これまでの知識や経験を生かし、物事を解決する子ども
・自信をもって自分の考えを伝え、友達の考えも受け入れ、互いに認め合える子ども
・思いやりや奉仕の精神のある子ども
・善悪を正しく判断し、主体的に行動する子ども

「特別の教科　道徳」の指導の基本方針

（１）道徳科の特質を理解する。
（２）教師と児童、児童相互の信頼関係を基盤におく
（３）諸価値への理解を深める指導方法を工夫する。
（４）児童の発達や個に応じた指導を工夫する。
（５）問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする。
（６）道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する。

本校の指導の重点

A　主として自分自身に関すること　　：希望と勇気，努力と強い意志

B　主として人との関わりに関すること：友情、信頼

C　主として集団や社会との関わりに関すること：公正、公平、社会正義

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること：生命の尊さ

各学年の指導の重点

低　学　年	中　学　年	高　学　年
A　正直、誠実	A　希望と勇気、努力と強い意志	A　個性の伸長
B　友情、信頼	B　友情、信頼	B　相互理解、寛容
C　勤労、公共の精神	C　規則の尊重	C　公正、公平、社会正義
D　感動、畏敬の念	D　生命の尊さ	D　よりよく生きる喜び

各教科等における指導の基本方針

○道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり
・各教科等の特質に応じて道徳の内容に関わる事項を明確にする。
・学校の重点内容項目を踏まえ、道徳的価値を意識しながら指導する。
○学習活動や学習態度への配慮
・一人一人の思いや考えが大切にされる授業をつくる。
・お互いを思いやり、自主的かつ協力的な学級の雰囲気や人間関係を築けるよう工夫する。

各教科等における道徳教育

各教科における道徳教育の重点	
国語	・国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。
社会	・地域社会の生活及びその発展に尽くした先人の働きなどについての理解を図り、地域社会に対する誇りと愛情を育て、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。 ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を尊重し、社会的義務や責任を重んじ公正に判断しようとする態度や能力など公民的資質の基礎を養う。
算数	・日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育て、多面的に物事を考えたり処理したりすることを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
理・生	・栽培や飼育などの体験活動を通して自然に関心を持ち、自然を愛する心情を育てて、生命を尊重する態度を養う。 ・身近な人及び環境と進んで関わる態度を養う。
音楽	・我が国の伝統文化や自然、四季の美しさ、夢・希望をもつことの大切さを含む教材に親しみ、豊かな情操を養い、道徳的な心情を深める。
図工	・つくりだす味わうことを通して、美しいものや崇高なものを尊重する心を育て、造形的な創造による豊かな情操を育てることによって、道徳性の基盤を養う。
家庭	・日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育て、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直そうとする態度を養う。
体育	・集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団の一員として協力するといった態度を養い、自分の生活を見直す態度を養う。

外国語科・外国語活動
・外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本人としての自覚をもって、世界の人々と親善に努める態度を養う。

総合的な学習の時間
・横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して、多様な道徳的価値を含んだ現代社会の課題などに取り組んだり、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を養う。

学級活動	・児童がよりよい生活を築くために、児童による自発的、自治的な活動を通して、望ましい人間関係やよりよい集団の形成に参画する態度、及び自らの生活を振り返り、自己の目標を定め努力して健全な生活態度を身に付ける。
児童会	・異年齢の児童が学校におけるよりよい生活を築くために諸問題を見出し、自分の役割に責任をもち、協力して解決していく自発的、実践的な態度を養う。
クラブ	・異年齢の交流を深め、協力して共通の興味・関心を追求する自発的、自治的な活動を通して、よりよいクラブ活動づくりをしようとする態度を養う。
学校行事	・ボランティア精神を養う活動や自然の中での集団宿泊体験、体育的行事、文化・芸術に親しむ体験を通して、望ましい人間関係、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公徳心などに関わる道徳性を養う。

生徒指導における道徳教育の重点

○生徒指導の機能を働かせるとともに、児童の自己教育　力を育て、個性の伸長を図る。
・自己決定の場を与える。
・自己存在感を与える。
・人間的な触れ合いを重視する。
○道徳の授業に役立つ生徒指導
・道徳の授業に対する学習態度を育成する。
・道徳の授業への資料を提供する。
・学級内の人間関係や環境を整備して望ましい道徳の時間の雰囲気を醸成する。

その他の教育活動における重点	
現職	・「特別の教科道徳」を本校の研究教科とし、全職員で授業の実践や改善を図り、児童が道徳性を高められるようにする。
保健	・自分の心身の健康を自分で管理し、保持増進する態度を養う。
安全	・日常生活において、安全のために必要な事柄を理解させ、進んできまりを守り、安全に行動できる態度や能力を養う。
給食	・食事ができることに感謝の気持ちを持つと共に、助け合って準備や片付けをする態度を身につけさせる。
図書	・望ましい読書習慣を育成することにより、豊かな情操を養う。
清掃	・生活の場を自分達の手によって、美しく整えていこうとする態度をみにつけさせる。

環境の整備

児童の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるよう、心に響く環境づくりをする。
・教室に道徳コーナーと「世の中のルール」の掲示を設置し、児童のワークシートを紹介する。
・各学年の廊下に「キラリコーナー」を設置する。
・月に一度、「ふれ合いタイム」を全校で行う。
・読書環境の整備
・児童のめあてやがんばりが分かる掲示をする。
・校舎、校庭の美化
・授業の記録（映像）、参考文献の整理・保存

豊かな体験活動

全教育活動において、道徳的実践を促したり、道徳的実践力を培ったりするための豊かな体験の場を充実する。
・人、物、社会、自然（川・森林・田）とのふれあい
・総合的な学習の時間、特別活動の学習
・ひがししらかわ輝くふる郷体験事業
・見学学習、イングリッシュキャンプ、修学旅行、村探検
・森林環境学習推進事業
・読み聞かせ活動
・芸術鑑賞教室
・伝統文化や地域の特産品に関わる学習（和紙・大豆等）

家庭・地域等との連携

学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
・授業参観日に道徳の授業を公開する。
・校長室便り、学年便り、現職便りで道徳教育の様子を発信する。
・道徳の授業のワークシートを持ち帰らせ、保護者にコメントをいただく。
・ゲストティーチャーを招き、地域の人材を活用する。
・保護者へのアンケートを年２回実施する。
・研究授業を通して、中学校との連携を図る。
・モラルエッセイコンテストへの参加を呼びかける。

令和3年度　鮫川村立鮫川小学校「道徳教育別葉②」（2学年　重点内容項目）

第2学年

B　友情、信頼

4月　児童会
「なかよし遠足」

5月　体育
「ボール投げゲーム」

6月　国語
「スイミー」

6月　音楽
「音のかさなりやリズムをえらんで合わせよう」

6月　生活
「どきどきわくわく町たんけん」

8月　道徳
「とくべつなたからもの」

9月　道徳
「やさい　村の　子どもたち」

10月　行事
「さめっこフェスティバル」

11月　生活
「おもちゃフェスティバル」

1月　道徳
「のこぎり山の大ぶつ」

2月　音楽
「くりかえし」

3月　体育
「ボールけりゲーム」

7月　「モムンとムーテ」
ねらい：感情のすれ違いがあっても、互いに支え合うことで関係をさらに深めていこうとする。
反省：授業参観の授業として実施し、保護者からコメントをいただいた。十分なコーディネートができず、「素直に謝る」という「正直、誠実」の視点からの意見も多く挙がった。

11月　「なかよしでいたい」
ねらい：けんかをしても仲良しでいたいと願う心があることが分かり、さらに関係を深めていこうとする。
反省：相手を思いやることの大切さを理解できた児童が多かったが、自分にも「仲良くいたい」と願う心があることをしっかり押さえることができなかった。

12月　「およげないりすさん」
ねらい：お互いを認め合い、仲良く助け合って生活していこうとする。
反省：多くの意見が挙がり、多面的に理解することができた。板書とコーディネートに課題が残った。

5月　行事
「運動会」

6月　図工
「みんなでワイワイ　紙けん玉」

6月　図工
「見つけたよ　わたしの色水」

9月　国語
「お手紙」

10月　道徳
「ぐみの木と小鳥」

10月　体育
「ボール運びゲーム」

11月　道徳
「レッドカード」

1月　生活
「あしたへジャンプ」

2月　道徳
「小さなゆきうさぎ」

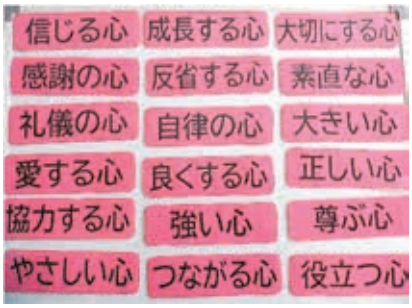
キラリカード
縦割り班清掃
休み時間の外遊び
「世の中のルール」
ふれ合いタイム

目指す子どもの姿
共に学習や活動をしたり、助け合ったりする経験を通して、自分と異なる立場や考えを受け入れ、友だちのよさや大切さを感じながら、信頼関係を築くことができる。

【資料：道徳科の授業以外の取組の一部】

【地域の人材を活用した学び】
総合的な学習の時間、命の授業（保健師）、食と農の交流会（栄養士・農家） など

【掲示物】
キラリコーナー（友だちの素敵なところ）、 教室の道徳コーナー（ワークシート・世の中のルール・板書・アンケート結果等）、 板書・別葉②・ワークシートの共有（職員室前） 、「輝くみんなの心」、「ふわふわ言葉」



【基盤づくり】
オンライン研修（Q-U の活用）、 ふれ合いタイム（学級）、 学級での教師からの言葉かけ（心カード活用）

【学年の枠を超えて主体的に活動し、関わり合う時間を大切に】
縦割り班での活動 （清掃・草むしり大会・なかよし遠足）など

会津地区道徳教育推進校「湯川村立湯川中学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	湯川村立湯川中学校
所　在　地	湯川村大字笈川字殿田 37 番地
校　長　名	宮城　裕樹
教育目標	今を極め 明日へと挑み 未来を拓く
学級及び児童生徒数	学　級　数　３ 生　徒　数　８７名

2　研究テーマ

考えを深め、よりよい生き方を指向する生徒の育成
～考えを深め合うための指導方法の工夫～

3　研究テーマ設定の理由

本校の教育目標「今を極め　明日へと挑み　未来を拓く」生徒を育成するため、重点実践事項の一つとして「自己を見つめ、他を思いやるなど生き方について考える道徳教育の充実」を掲げ、「特別の教科　道徳」の時間とともに教育活動全体を通して道徳教育を推進している。特に指導においては、特定の人間関係にとどまらず、広い関係性においても思いやりを示そうとする子どもの姿を目指し、「思いやり、感謝」を重点内容項目として学校教育全体を通した道徳教育の中で意識して取り組むと共に授業と関連を図った指導を行う。そして、生徒が自分自身と向き合い、さらに他者の思いや考えと出合うことを通して、多面的・多角的に思考し、考えを深められるようにしたいと考える。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
４月１６日(金)	現職委員会（研究内容の検討）
４月２３日(金)	現職委員会（研究主題・方法の検討）
５月２１日(金)	現職委員会（「研究の視点」について検討）
５月２８日(金)	現職委員会（研究計画の推進について検討）
６月　８日(火)	第１回福島県道徳教育推進協議会
６月２１日(月)	授業充実パワーアップ研修会、福島大学附属中学校公開授業参観
６月２３日(水)	指導案検討会
７月　５日(月)	校内研修　研究授業３学年１組 （講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　先生）
７月上旬	アンケート調査及び結果分析
８月２７日(金)	現職委員会（研究授業指導案検討）
９月１４日(火)	校内研修　研究授業２学年１組（講師　毛内　嘉威　先生）
１０月　５日(火)	現職委員会（研究授業指導案検討）
１１月１０日(水)	授業公開１学年１組（講師　毛内　嘉威　先生）
１２月上旬	道徳に関するアンケート実施、アンケートの集約と結果の考察
１月中旬	研究のまとめについて検討
２月中旬	研究のまとめ
３月上旬	道徳教育推進全体会

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成及び活用上の工夫点、配慮点について

〈作成上の工夫点、配慮点〉
○　全体計画作成については、教育目標を基に生徒の実態、教師や保護者の願い等から学校全体の「道徳教育の目標」を７項目挙げ、さらに「各学年の目標」について３項目ずつ焦点化・具体化を図り、作成した。
○　別葉については、「特別の教科　道徳」としての月別計画とともに、学校行事・特別活動・総合的な学習の時間・各教科との関連性を明確にした。
〈活用上の工夫点・配慮点〉
○　「特別の教科　道徳」の授業研究を現職教育の柱とし、各学年及び各学年間をつなぐ研究体制で組織的に取り組めるようにした。また別葉の実施状況を学期毎に振り返り、次年度に生かす。

【視点２】児童生徒の心に響く道徳科授業の工夫

①　問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れることで、課題を「自分事」として捉えることができるようにする。
②　議論や対話の場において、ＩＣＴの活用や板書を工夫することで、自己を見つめ多面的・多角的に考えを広げることができるようにする。
③　生徒が自分との関わりで考えることができるように、振り返りの場を工夫する。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について

①　東日本大震災から１０年以上が経過したが、忘れてはならぬ震災時の心の痛みや苦労を想起させるとともに、復興に携わってきた人々の思い、また郷土愛について考えさせるため「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用する。
②　地域の特性や発達段階を考慮し、１・２年生は「５００人の大家族」「この町のために」「海へ」、３年生は「温かさを分け合って」「仮校舎」「それでも僕は桃を買う」を指導計画の中に位置づけ、学年間の連携を図りながら授業を行う。
③　コロナによるいじめ等が現在社会問題として顕在化していることを踏まえ、「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」を活用することにより、生徒に自分事として問題意識を持たせる。

【視点４】子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価について

○　１時間の学びを振り返り、自己を見つめるためのワークシートを工夫する。
○　振り返りの視点を定め、記録を累積することで長期間での成長の様子を見取る。
○　生徒一人一人の考えが、他の生徒に共有されたり、共感を得たりするような意見を交わし合う活動を通して、自己肯定感を高めることができるようにする。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　農業体験学習や伝統文化を継承する活動で、地域の方をゲストティーチャーとして招き、内容項目と関連を図り指導計画を立てる。
○　生徒会主催の清掃活動を、地域ボランティアの方々と連携して取り組む。
○　道徳科の授業を保護者に参観していただき、その感想や意見を授業改善に生かす。

6「家庭・地域との連携について」

【ねらい】

保護者や地域の方に、道徳科の授業や総合的な学習の時間、学校行事などに積極的に参加してもらえるように依頼し、さまざまな立場から多様な視点で生徒へ声をかけていただく機会を設けることにより、生徒が地域社会に支えられていることに感謝の念を抱くとともに、自分がどのように地域社会に貢献できるかを考えられるようにする。

【概要】

・　道徳科の授業参観を行い、現在学校でどのような授業が行われているのかを見ていただいた。また、学校だよりや学年通信、ホームページ等で情報を発信し、生徒がどのようなことを感じ、学び、成長しているのかを伝え、家庭においても話し合うことができるよう促した。

・　地域のボランティア団体と協働して清掃活動を行うことで地域社会との関わりについて考えさせた。

・　農業体験学習においては田植えや稲刈りの体験活動を行うだけでなく、米の生産者の思いを傾聴することを通して「勤労」「よりよく生きる喜び」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」等の内容項目と関連を図り指導した。

・　文化祭で太鼓の発表を行った。地域の太鼓奏者の方を講師として招聘し、御指導をいただいた。地域の伝統文化を継承することの意義について考えさせた。

【成果と課題】

・　学校から積極的に情報発信をするとともに、総合的な学習の時間や学校行事に保護者や地域の方に関わっていただいた。学級通信をきっかけに、夕食後の団らんの場で道徳的な価値について家族と話したことを担任に伝えにくる生徒が見られ、家庭への広がりが感じられた。

・　清掃活動については、生徒会の呼びかけに対して多くの生徒が自主的に参加し、地域の一員としての自覚を高めることができた。今後も継続していきたい。

・　稲作が村の基幹産業とはいえ、生産者の思いにふれる機会は少ない。また、太鼓の演奏を楽しむことはあっても歴史を知ることはなかった。そこで、地域の方をゲストティーチャーとして招き、農業の苦労や喜び、伝統を継承する理由などについてお話をいただいた。生徒の中には、祖父母に農作業の話を聴いたり、日記に伝統を受け継ぐことの思いを書いたりする姿が見られ、郷土愛を育むことができた。

7　成果と課題

○　毛内先生から一年間、継続して御指導をいただくことで道徳指導の在り方や評価の在り方に関して系統的に理解を深めることができた。

○　課題を「自分事」として捉えさせるとともに、多面的・多角的な考え方を促すため、授業中の記録を廊下に掲示したところ、休み時間に掲示物を眺める生徒の姿が見られた。普段無口な生徒の考えを見て今まで気付かなかった一面を垣間見たり、過去の授業を振り返って価値について友達と再度話し合ったりでき、互いの成長を感じ取ることのできる手立てであった。

○　話し合いや協同作業をするときに、互いに思いやりのある言動が見られるなど、今年度大切にしてきた「他を思いやる」ということが、生徒の行動として表れる場面が目立つようになった。

●　道徳の授業は学級担任が主となるのはもちろんであるが、担任外の教職員による授業や、地域の方々をゲストティーチャーに招くことで、生徒たちの考えがより広がったり深まったりするのではないかと考える。また、互見授業などを通して、ＩＣＴの効果的な活用場面や生徒の思考が深まった板書などについて、積極的に情報交換することが必要である。

湯川村立湯川中学校　道徳教育全体計画

教　育　目　標

～今を極め　明日へと挑み　未来を拓く～

生徒の実態
○指導されたことに対して素直に改善しようとする。
○欠席する生徒が少ない。
●友人関係が稚拙である。
●挨拶などにおいて自主性に欠け、指示待ちになる傾向がある。

教師や父母の願い
○自ら進んで、考えて行動してほしい。
○正しい判断力や責任感を持ち、自分の学習や生活の向上を目指してほしい。
○奉仕の心を持ち、思いやりのある行動をしてほしい。
○規範意識を持ち、時・場・状況に応じて礼儀正しく振る舞ってほしい。

道徳教育の目標
1　人間尊重の精神と、生命に対する畏敬の念を培う。
2　豊かな心を育む。
3　伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と国土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する。
4　公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育てる。
5　他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境保全に貢献する人間を育成する。
6　未来を拓く主体性のある日本人を育成する。
7　その基盤としての道徳性を養う。

道徳教育の努力目標
1　授業を充実し、主体的に学習する生徒の育成に努める。
2　道徳教育と生徒指導の充実に努める。
3　年間３５時間完全実施に努める。

道徳教育の方針
1　教育活動全体を通して道徳教育を行う
2　全職員の共通理解・共通実践のもと実践する。
3　学校・生徒・地域の実態に根ざした教育を実践する。
4　校舎内外の環境の整備に努め、その浄化に努める。
5　家庭や地域に協力を求め、連携を図る。
6　学級・学年・学校・生徒会等の諸行事を実践活動の場として充分に生かすよう配慮する。
7　生徒の理解に努め、生徒と教師の心が通った指導を心がける。

いじめ防止対策推進法との関連
1　授業など学校生活全体を通して、互いの良さを認め合う集団作りに努める。
2　いじめについて真剣に考える機会を設け、生徒が適切な判断のもとで行動できるような指導を心がける。
3　生活アンケートなどを活用し、インターネットを利用したいじめの防止・早期発見・解決に努める。

各学年の目標

〈1年〉　A（1）　B（6）　C（15）	〈2年〉　A（4）　B（6）　C（10）	〈3年〉　C（15）　B（6）　C（11）
1　望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康増進を図り、節度と調和のある生活ができるようにする。 **2　きまりを守り、適切な言葉遣いや挨拶ができるようにする。** **3　友だちと協力しあい、集団の一員として進んで集団生活に参加する態度を養う。**	**1　高い目標に向かって、希望と勇気を持って着実にやりぬく強い意志を養う。** **2　個性や立場を理解し、いろいろなものの考え方があることを理解し、謙虚に他に学ぶ姿勢を養う。** **3　自己が属する集団についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。**	**1　自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。** **2　個性や立場を尊重し、いろいろなものの見え方や見方があることを理解し他に　学ぶ心を持つ。** **3　だれに対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努めるようにする。**

意欲化・意欲付けの場と実践の場

道徳の時間
学校の教育活動全体における道徳教育の関連を図り、それらを補充・深化・統合することに努め、生徒によりよい生き方について深く考えさせ、豊かな道徳性を養う。

各教科
各教科の目標達成を基盤とし、積極的に学ぶ態度を養うとともに、主体的なものの見方・考え方・感じ方を育て道徳性を育てる。

学校環境整備
道徳教育が効果的に実践されるための環境づくりを通し、学級づくりを柱とし望ましい人間関係を育てることにより豊かな情操・校風・伝統づくりに努める。

特別活動
望ましい集団生活を体験させ、知・徳・体の調和のとれた考え方感じ方をともに理解し、個性を発揮して充実感のある学校生活を送らせる。

家庭・地域社会
学校で培われた道徳教育が力強く生かされるよう、家庭をはじめ地域ぐるみの協力を得て道徳教育の根をしっかりとおろす。

道徳の授業における指導の重点
1　ねらいを明確にし、資料の分析を充分に行って生徒の実態も考慮して授業を組み立てる。
2　基本発問を吟味し思考する時間をとるよう努める。
3　意欲を高める資料を活用する。
4　他領域との関連を図り、実践力の育成を図る。
5　指導に当たっては、「性教育」、「食育」などの健康に関わる内容も意識して組み入れる。

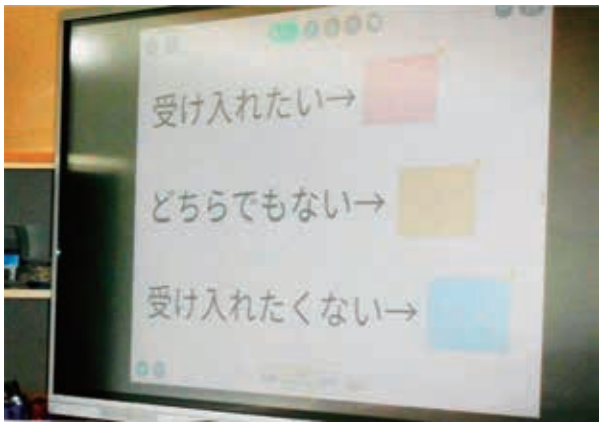
国語・文芸作品を通して人間としての生き方を深く考えさせる。
社会・人間社会と自然環境との関係を考えさせ、郷土や文化に愛情を持つ。
数学・物事を理性的判断によって処理する能力や合理的な生活態度を養う。
理科・自然と人間の関わりの認識を深め、自然愛・生命の尊重の精神を養う。
音楽・美しい音楽に親しませるとともに音楽活動の喜び感動を味わわせ、豊かな心情を育てる。
美術・自然を愛し、美しいものに感動し、崇高なものを感じる豊かさを育てる。
保体・共同の体験を通して自他の役割の自覚を深め、望ましい社会生活に必要な公正・協力・責任の態度を養う。
技家・働くことの大切さや喜びを味わい助け合うことの大切さを感得させる。
英語・外国に対する理解を深め、国際社会の一員としての自覚を高める。

○授業の準備に努め、始業に遅れない。
○教室で騒いだり廊下を走ったりしない。
○互いに協力し、準備・後始末をする。
○感謝の気持ちを育てる。
○自分に合った余暇の過ごし方をする。
○環境美化に自主的・積極的に努める。
○校舎内外の美化につとめる。
○高い目標に向かって自主的に活動に参加する。

令和3年度　　道徳別葉　　（1学年）

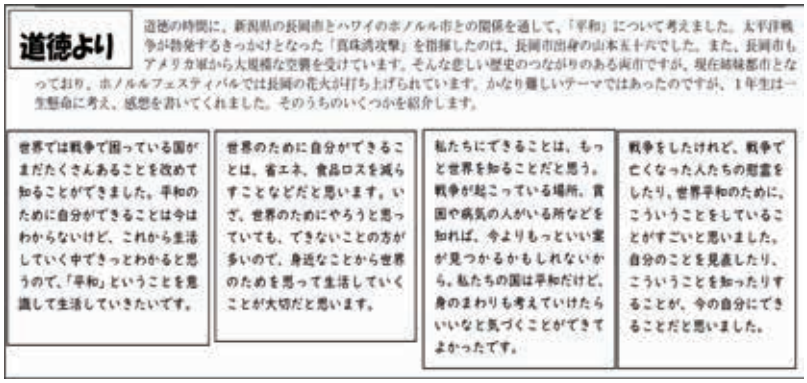
湯川村立湯川中学校 道徳教育の重点目標	◎　人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性ある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。	1年生の重点目標	○素直な心をもち、中学生として規律ある生活態度がとれる生徒を育成する。 （1）節度ある生活と健康で安全な生活をしようとする実践的態度を育成する。 （2）互いの理解と敬愛のもとに時と場に応じた言葉遣いや行動をとろうとする実践的態度を育成する。 （3）身の回りの整備に努め、協力して美しい生活環境を保とうとする態度を育成する。 （4）自分の立場を理解し、与えられた仕事を最後までやり抜こうとする責任ある態度を育成する。 （5）社会の一員としての自覚を深め、自己の責任を果たそうとする態度を育成する。

教育活動/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事		着任式　1学期始業式 入学式　交通教室 避難訓練		市・地区中体連大会 教育相談	花壇つくり 県中体連大会 1学期終業式 芸術鑑賞教育	2学期始業式	修学旅行 薬物乱用防止教室	避難訓練 紫陽祭（収穫祭）	教育相談 三者面談 花壇つくり	2学期終業式	3学期始業式		卒業式 修了式 離任式
特別活動	学級活動	中学生活をはじめよう 学級組織と自分の役割	校内陸上大会に向けて 放射線の利用と私たちの生活 放射線の管理と防護	給食について考えよう 話し合い活動と学級づくり 健康と安全 なぜ、いま学ぶのだろう	夢や希望を大切にしよう コミュニケーションを豊かに 1学期の反省 「長い休み」に自分の力を伸ばそ	2学期の目標	学級生活を見つめよう 後期学級組織 学習の達人になろう	よりよい学級生活 はたらくとは？ 学習発表会、合唱コンクール	自分を見つめ、特色を知る 悩みや不安はだれにでもある	2学期の反省 冬休みの生活	新年の抱負 生き方いろいろ 学習の悩み	将来設計と進路計画 自分を知る友達を知る 学級の歩み	1年間を振り返って もうすぐ2年生
	生徒会活動	生徒会入会式 部活動編成 専門委員会 全校集会　生徒会総会	全校集会 委員会活動	委員会活動 全校集会	委員会活動 校内レク大会 全校集会	全校集会	生徒会役員選挙 全校集会 委員会活動	全校集会 委員会活動 生徒会総会 全校集会	委員会活動 全校集会	委員会活動 全校集会	委員会活動 全校集会	委員会活動 生徒会総会 全校集会	全校集会
総合的な学習の時間		ガイダンス 遠足を有意義なものにしよう	農業体験学習	戦争体験について外部講師より学ぶ 森林学習	集団の中で	集団の中で	集団の中で	集団の中で ボランティア活動	健康教育	福祉について体験する	進路実現に向けて	進路実現に向けて	進路実現に向けて
道徳		1 サッカーの漫画を描きたい A-(4)希望と勇気，克己と強い意志 2 挫折から希望へ D-(22)よりよく生きる喜び 3 人のフリみて B-(6)思いやり，感謝	4「愛情貯金」をはじめませんかB-(7)礼儀 5 さかなのなみだ C-(11)公正，公平，社会正義 6 近くにいた友 B-(8)友情，信頼	7 トマトとメロン A-(3)向上心，個性の伸長 8 あなたはすごい力で生まれてきたD-(19)生命の尊さ 9 ふれあい直売所　C-(10)遵法精神，公徳心 10 あったほうがいい？ C-(12)社会参画，公共の精神	11 花火に込めた平和への願い C-(18)国際理解，国際貢献 12 疾走，自転車ライダー A-(2)節度，節制		13 部活の帰り　B-(8)友情，信頼 14 私は清掃のプロになる C-(13)勤労 15 二人の約束 A-(1)自主，自律，自由と責任 16 むかで競走 C-(15)よりよい学校生活，集団生活の充実	17 使っても大丈夫？ C-(10)遵法精神，公徳心 18 公平と不公平 C-(11)公正，公平，社会正義 19 違いを乗り越えて C-(18)国際理解，国際貢献 20 あふれる愛 D-(19)生命の尊さ	21 富士山から変えていく C-(12)社会参画，公共の精神 22 木の声を聞く D-(20)自然愛護 23 オーロラ —光のカーテン—D-(21)感動，畏敬の念 24 家族と支え合うなかで C-(14)家族愛，家庭生活の充実	25 震災を乗り越えて—復活した郷土芸能— C-(16)郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度 26 奈良軍に生きる C-(17)我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	27 ゆうへ—生きていてくれてありがとう— D-(19)生命の尊さ 28 裏庭でのできごと A-(1)自主，自律，自由と責任 29 旗 B-(8)友情，信頼	30 自分だけ「余り」になってしまう……B-(9)相互理解，寛容 31 鎌崎街道　C-(16)郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度 32 役に立つことができるかな C-(13)勤労 33 小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦　A-(4)希望と勇気，	34 緑のじゅうたん A-(5)真理の探究，創造 35 いつわりのバイオリン D-(22)よりよく生きる喜び
各教科	国語	朝のリレー A-(4) 野原はうたう D-(20)	シンシュン B-(8) 情報を整理して書こう A-(1) A-(3)	ダイコンは大きな根？ A-(5) ちょっと立ち止まって A-(5) 話の構成を工夫しよう B-(9)	詩の世界 D-(20) 言葉を集めよう A-(1) 読書を楽しむ 本の中の中学生 A-(4)　D-(19)	大人になれなかった弟たちに…… D-(19) 星の花が降るころに B-(8) 聞き上手になろう B-(6)	「言葉」をもつ鳥，シジュウカラ D-(20) 根拠を示して説明しよう A-(1) B-(6)	話題や展開を捉えて話し合おうA-(1)　C-(15) 大阿蘇　D-(20) いろは歌　C-(17) 蓬莱の玉の枝C-(17) 今に生きる言葉C-(18)	「不便」の価値を見つめ直す　A-(2) 助言を自分の文章に生かそう　A-(1)　B-(6) 考える人になろう A-(1)	少年の日の思い出 A-(1) 随筆二編 C-(14) D-(21)	構成や描写を工夫して書こう A-(1) A-(3)	一年間の学びを振り返ろう B-(9) さくらの　はなびら B-(9)	
	社会 地理	持続可能な社会の実現に向けてD-(20) 世界の姿C-(18) 日本の姿C-(16)C-(17) 世界各地の人々の生活と環境C-(18)						世界の諸地域 C-(18)					
	社会 歴史			持続可能な社会の実現に向けてB-(9)C-(17) 歴史へのとびらC-(17) 古代までの日本A-(2)C-(17)C-(18)			地域の歴史を調べよう C-(16)				中世の日本 C-(12) C-(17)		
	数学	整数の性質A-(5)B-(9) 正負の数A-(5)	加法と減法A-(5) 乗法と除法A-(5)	正負の数の利用A-(5)B-(9)　文字を使った式A-(5)　B-(9) 文字式の計算A-(5)B-(9)　文字式の利用A-(5)　B-(9) 方程式とその解き方A-(5)B-(9)D-(20) 1次方程式の利用A-(5)B-(9)			比例・反比例A-(5) 比例と反比例の性質 A-(5)A-(5)	比例と反比例の利用 A-(5)　B-(9) 図形の移動 A-(5)　B-(9) 基本の作図 A-(5)　B-(9)	おうぎ形 A-(5) いろいろな立体 A-(5) B-(9)	立体の見方と調べ方 A-(5)	立体の体積と表面積A-(5)　B-(9) データの整理と分析A-(4)　A-(5)　C-(15) データの活用A-(4)　A-(5)　C-(15) ことがらの起こりやすさA-(5)		
	理科	生物の観察と分類のしかたA-(5)D-(19)D-(20)	植物の分類A-(5)D-(19)D-(20) 動物の分類A-(5)D-(19)		気体の性質 A-(5)	水溶液の性質 A-(5)	光の世界 A-(5)	音の世界A-(5) 力の世界A-(5)		火をふく大地A-(2)D-(20)	動き続ける大地A-(2)A-(5)D-(20) 地層から読みとる大地の変化A-(5)D-(20)		
	音楽/(器楽)	We'll Find The Way その先へMy Voice! A-(2)A-(3)B-(8)	主人は冷たい土の中に D-(19) 聖者の行進リコーダー A-(3)C-(15)	春D-(20) ジョーズのテーマ指揮をしてみよう！Let's Create! A-(5)D-(21)		朝の風に君をのせてA-(4)C-(15)　魔王D-(21)　日本の民謡社会の中の音楽C-(13)C-(16)C-(18) 浜辺の歌赤とんぼ歌い継ごう 日本の歌C-(14)C-(17)D-(20) 雅楽「平調 越天楽」C-(17)D-(21)				箏曲「六段の調」 虫づくし，姫松，「六段の調」から“四段”，さくらさくら（箏）My Melody A-(5)B-(7)C-(17) Let's Search For Tomorrow心通う合唱A-(1)C-(15)D-(22)			
	美術	美術との出会いD-(20)D-(21) 絵や彫刻との出会いA-(1)A-(3) 見つめると見えてくるものA-(3)A-(4)		なぜか気になる情景C-(16)D-(20) 鑑賞との出会い美のタイムトラベルB-(9)D-(21)		デザインや工芸との出会いC-(12)　自然の美しさから生まれたD-(20)D-(21) 学びの言葉　松任谷由実A-(5)　文字っておもしろいC-(12)C-(16) 暮らしに息づく土の造形A-(5)D-(20)				屏風，美のしかけC-(17)D-(21) 広がる模様の世界A-(5)D-(20) 材料に命を吹き込むA-(3)			
	保健体育	体育理論C-(12)　D-(22) 体つくり運動A-(2)	陸上競技A-(4) 健康な生活と病気の予防 A-(2)D-(19)	器械運動A-(4)	水泳A-(4)	球技1（ネット型）C-(15)	ダンスA-(3)C-(15)	球技2C-(15) 心身の発達と心の健康 A-(2)B-(8)		武道B-(7)　心身の発達と心の健康A-(3)C-(12) 球技3（ゴール型）C-(15)			
	技術	技術分野のガイダンスA-(4)A-(5) 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み A-(5)C-(15)						社会の発展と材料と加工の技術C-(12)C-(13)	情報の技術の原理・法則 A-(1)A-(2)C-(10)		双方向のあるコンテンツの問題解決 B-(6)C-(12)C-(15)		
	家庭	家庭分野のガイダンスA-(1)A-(2)C-(14) 食事の役割と中学生の栄養の特徴A-(2)D-(19)		中学生に必要な栄養を満たす食事A-(2)B-(6)		地域の食文化 消費者の権利と責任 A-(1)C-(15)C-(16)					生活の課題と実践 A-(1)C-(15)		
	英語	Unit 0　Welcome to Junior High School B-(7)　C-(15) Unit 1 New School, New FriendsB-(7)C-(18)	Unit 2　Our New Teacher B-(7)　C-(15) Unit 3 Club Activities A-(3)　C-(15)	Unit 4 Friends in New ZealandC-(18) Unit 5 A Japanese Summer FestivalC-(17)		Unit 6 A Speech about My Brother A-(4)　C-(18) Unit 7 Foreign Artists in JapanC-(17)　C-(18)	Unit 8 A Surprise Party B-(8)	Unit 9 Think Globally, Act LocallyA-(4)C-(18)	Let's Read 1 Let's Climb Mt. Fuji D-(21)	Unit 10 Winter Vacation C-(18) Unit 11 This Year's MemoriesA-(4)		Let's Read 2 City Lights B-(6)	
ふくしま道徳教育資料集													500人の大家族2-(2) この町のために1-(5) 海へ4-(6)



生徒の多様な考えを引き出したり、考えを視覚化したりするためにＩＣＴを積極的に活用しています。

道徳の時間に記入したものやまとめたものを廊下に掲示して、生徒たちが授業を振り返ったり、テーマについて再考したりしています。



道徳より

道徳の時間に、新潟県の長岡市とハワイのホノルル市との関係を通して、「平和」について考えました。太平洋戦争が勃発するきっかけとなった「真珠湾攻撃」を指揮したのは、長岡市出身の山本五十六でした。また、長岡市もアメリカ軍から大規模な空襲を受けています。そんな悲しい歴史のつながりのある両市ですが、現在姉妹都市となっており、ホノルルフェスティバルでは長岡の花火が打ち上げられています。かなり難しいテーマではあったのですが、１年生は一生懸命に考え、感想を書いてくれました。そのうちのいくつかを紹介します。

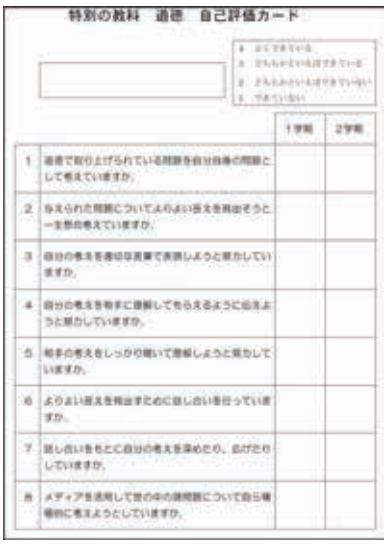
世界では戦争で困っている国がまだたくさんあることを改めて知ることができました。平和のために自分ができることは今はわからないけど、これから生活していく中できっとわかると思うので、「平和」ということを意識して生活していきたいです。

世界のために自分ができることは、省エネ、食品ロスを減らすことなどだと思います。いざ、世界のためにやろうと思っていても、できないことの方が多いので、身近なことから世界のためを思って生活していくことが大切だと思います。

私たちにできることは、もっと世界を知ることだと思う。戦争が起こっている場所、貧困や病気の人がいる所などを知れば、今よりもっといい案が見つかるかもしれないから。私たちの国は平和だけど、身のまわりも考えていけたらいいなと気づくことができてよかったです。

戦争をしたければ、戦争で亡くなった人たちの写真をしたり、世界平和のために、こういうことをしていることがすごいと思いました。自分のことを見直したり、こういうことを知ったりすることが、今の自分にできることだと思いました。

学級通信で道徳科の授業の様子を家庭に伝えています。家庭の中でも道徳的な話題について語り合っていただけるようにお願いしています。



特別の教科　道徳　自己評価カード

		1学期	2学期
1	道徳で取り上げられている問題を自分自身の問題として考えていますか。		
2	与えられた問題についてよりよい答えを見出そうと一生懸命考えていますか。		
3	自分の考えを適切な言葉で表現しようと努力していますか。		
4	自分の考えを相手に理解してもらえるように伝えようと努力していますか。		
5	相手の考えをしっかり聞いて理解しようと努力していますか。		
6	よりよい答えを見出すために話し合い活動していますか。		
7	話し合い活動をとこ自分の考えを深めたり、広げたりしていますか。		
8	メディアを活用して世の中の諸問題について自ら積極的に考えようとしていますか。		

年２回、道徳のアンケートを行い、　指導に役立てています。

南会津地区道徳教育推進校「下郷町立下郷中学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	下郷町立下郷中学校
所　在　地	南会津郡下郷町中妻大百刈５
校　長　名	我妻　雄比古
教　育　目　標	○　知性 （進んで学習に励む生徒） ○　品格 （適切な言動のできる生徒） ○　健康 （心身ともに健康な生徒） ～　当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成　～
学級及び児童生徒数	学　級　数　４ 生　徒　数　１０５名

2　研究テーマ

「ふるさとに学び，よりよい生き方を追究しようとする生徒の育成」
～「人・もの・こと」をつなぎ，家庭や地域と連携した道徳科の授業を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、教育目標に「知性」「品格」「健康」を掲げ、その達成に向けて「優しさの中で逞しい人づくり」を合言葉に教育活動を進めている。その人づくりの土台となるのが学校教育であり、道徳教育であるという認識を全職員で共有し、教科指導や生徒指導、学校の諸活動等の土台を道徳教育と関連させ、道徳教育の充実が学校の教育活動全体の活性化に生かされるよう協働体制で取り組んでいくこととした。

下郷町には、豊富な観光資源、伝統文化等、さらには豊富な人材がある。だが、本校の生徒は地元の下郷町を好きと思っていても、郷土のよさを深く実感している生徒は少なく、８割以上の生徒が将来は町外に出て暮らしたいと考えている。こうした実態を踏まえると、地域の歴史や文化、自然を学ぶことは、郷土への愛着と誇りを生徒の心に根付かせて行くことにつながる。

そこで、道徳教育において、「郷土愛」を主軸に「５研究推進にあたって」の取組を行うことで、「地域への帰属感や連帯感」に目覚め、「家族の大切さ」に気付く生徒の育成につながるとともに、「将来の様々な課題に向き合う際の自信と解決へ向けての力」が身に付くであろうと考えた。

以上の理由から、研究テーマを「ふるさとに学び、よりよい生き方を追究しようとする生徒の育成」と掲げ、全職員で協働して研究に取り組んでいくこととした。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　　考
４月下旬	研究主題，研究内容，意識調査等の検討	
７月初旬	生徒実態調査（事前アンケート）	
７月１６日（金）	第１回研究授業の実施・事後研（２年）	
９月１４日（火）	第２回研究授業の実施・事後研（３年） 指導助言　福島大学人間発達文化学類 特任教授　佐藤和彦 様	
１０月５日（火）	第３回研究授業の実施・事後研（１年） 指導助言　福島大学人間発達文化学類 特任教授　佐藤和彦 様	

１１月１５日（月）	道徳教育地区別推進協議会 授業公開　２年 指導助言　福島県教育庁義務教育課 肥沼志帆 指導主事	
１１月下旬	生徒実態調査	
１２月	研究のまとめ	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について
① 作成上の工夫点、配慮点 ○　生徒の実態、保護者・教員の願い等から学校の重点目標を掲げ、さらに各学年の重点目標を３項目ずつ設定し、重点とする内容項目の焦点化を図った。 ○　別葉については、学校行事・特別活動・総合的な学習の時間との関連性が見える形式で作成した。特に、本年度の研究「ふるさとに学ぶ」の具現化を図るため、「郷土愛」と総合との関連性を明確にした。 ② 活用上の工夫点、配慮点 ○　道徳科を中心として、学校教育全体で道徳教育の推進を行えるよう、指導方法や指導体制等を工夫する。
【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫
①　生徒の実態から、生徒の課題意識を持たせる「中心発問」の工夫 ②　議論が深まるよう、「心情円」や「ハート図」などの思考ツールを活用し、自分の考えを他者に伝え、多様な考えに触れる活動の工夫 ③　自己を見つめ、実生活の自分と主題を重ねることができる振り返りの工夫
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について
①　「ふくしま道徳教育資料」における「郷土愛」に関連する資料の選定と授業の実践 ②　「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」を活用し、新型コロナウイルスに関する正しい知識と偏見による差別やいじめ、誹謗中傷をしない態度の育成 ③　東日本大震災の記憶が少ない生徒に、震災関連の資料を活用し、考えさせることで、福島県民としての郷土を愛する心を育成
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
①　生徒の考えの変化を「可視化」する工夫と振り返りの時間の十分な確保 ②　「学校生活ではこういう場面はあるか」「自分ならどうするか」など、生活と照らし合わせて、自分事として考えさせる発問の工夫
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について
○　下郷町クローバープランの「我が町の子どもを育てる７か条」を全家庭に配付し、各家庭と連携した基本的な生活習慣の確立や情報モラル等の育成 ○　地域の豊富な資源を生かした道徳科の授業の実施 ○　ゲストティーチャーの招聘や地域人材の活用 ○　地域行事への参加

6「家庭・地域との連携」について

＜地域の特色を生かした道徳教育の充実＞

【ねらい】

地域の自然や伝統、文化などの体験活動を意識した道徳教育の実施や地域人材を活用した道徳科の授業を通して、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図る。

【概　要】

○ 総合的な学習の時間の「地域理解学習」と関連付けた道徳教育の実施

1年生：各地区の地域おこしの学習
2年生：「町をよりよくする」をテーマとした地域おこしの実践。地域人材をゲストティーチャーとして招いての地域理解講話。
3年生：地域人材をゲストティーチャーとして招いてのスポーツ体験学習。地域の焼き物体験教室への参加。

○ 地域教材の開発･活用

【成果と課題】（成果○　課題●）

○　総合的な学習の時間の「地域理解学習」と関連付けたことで、自己の生き方や郷土について考えを深めることができ、道徳的実践力の育成に結び付いた。

○　地域の先人を題材とした教材を作成し、授業で補助資料として活用した。地域の伝統、文化を守ることを決意した先人の生き方や勇気に触れ、郷土愛や人間としての生き方について自覚を深めることができた。

●　地域の特色を生かした道徳教育を推進するために、総合的な学習の時間だけでなく、各教科や特別活動、学校行事等との関連をより密にし、計画的・発展的に指導を行っていく必要がある。

7　成果と課題（○成果　●課題）

○　本校の教育目標「知性」「品格」「健康」の育成をめざして道徳教育の推進を図った。学校の諸活動の土台となるのが道徳教育であることを全職員で再確認し、その充実を図るために協働体制で取り組むことができた。

○　研究テーマ「ふるさとに学ぶ」の具現化に向け、「郷土愛」を主軸に研究の推進を図った。総合的な学習の時間や学級活動との関連を明確にした別葉を作成するとともに、地域の豊富な資源を活かした道徳科の授業に取り組んだことは、効果的な教育実践として成果が見られた。

○　総合的な学習の時間の地域理解学習と関連付けながら道徳教育を推進したことは、郷土に対する認識を深め、郷土の発展のために努めようとする実践意欲と態度を育てる上でたいへん効果的であった。

○　年4回の授業研究会のうち、2回にわたり福島大学の佐藤和彦特任教授に指導助言をいただいた。本校の道徳教育への取組の進捗を継続的・客観的にご指導いただき、方向性を見失わずに研究を行うことができた。

●　授業改善，授業力向上に力を注いだため，学校教育全体を通した道徳教育の充実への課題が残った。生徒の発達の段階を踏まえながら、主体的に道徳性を養うことができる道徳教育の在り方について研究を深めたい。

●　「家庭との連携」の取組に工夫が必要であった。保護者に向けた道徳教育アンケートの実施や授業への参加などの連携を図る手立てを考えていきたい。

令和３年度　下郷町立下郷中学校　道徳教育全体計画

【生徒の実態】
◯部活動や奉仕活動などに一生懸命取り組むことができる。
○素直な心をもち、素直に助言に耳を傾けることができる。
△競争意識や積極性をなかなか発揮できていない。
△家庭学習の習慣や自己表現力がなかなか身につかない。

【目指す生徒像】
○積極的に行動ができる主体的な生徒
○提案ができる創造的な生徒
○自己表現を目指す意欲的な生徒
○他社尊重ができる思いやりのある生徒
○連帯的精神、協働の心に満ちた共生的な生徒

学校教育目標
◯　知性　（進んで学習に励む生徒）
◯　品格　（適切な言動のできる生徒）
◯　健康　（心身ともに健康な生徒）

～　当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成　～

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・その他関係法令
・県教委指導目標
・町教委指導目標

道徳教育の重点目標

１　命の重さを認識し、かけがえのない命を自他共に尊重する生徒の育成　【Ｄ－（19)】
２　自ら高い目標を設定し、その達成のために困難や失敗を乗り越えて最後までやり抜くことができる生徒の育成　【Ａ－（４)】
３　様々なものの見方や考え方を知り、それを認めるともに、それぞれの個性や立場を尊重し、周囲の助言に謙虚に耳を傾け、自ら成長できる生徒の育成　【Ｂ－（９)】
４　地域社会の一員として郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に畏敬の念を深め、進んで郷土の発展に努める生徒の育成　【Ｃ－(16)】

学年別重点目標

１年	１　家庭や学校における人間関係について理解を深め、感謝と思いやりの心をもった生徒を育てる。　【Ｂ－６】 ２　自主的に考え、判断し、誠実に実行して、その結果に責任をもてる生徒を育てる。　【Ａ－１】 ３　郷土や地域の伝統や文化を大切にし、先人や高齢者に畏敬の念をもてる生徒を育てる。　【Ｃ－１６】
２年	１　相手の個性や立場を尊重し、他人から多くのことを学ぶ意欲や態度を身につけた生徒を育てる。　【Ｂ－９】 ２　誰に対しても公正、公平で、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする意欲や態度を身につけた生徒を育てる。　【Ｃ－１１】 ３　郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり郷土の発展のために自分が寄与しようという態度を身に付けた生徒を育てる。　【Ｃ－１６】
３年	１　最高学年としての自覚を深め、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する生徒を育てる。　【Ａ－３】 ２　人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすことができる生徒を育てる。　【Ｄ－２２】 ３　郷土や地域を愛し、地域社会の一員としての自覚をもち郷土の発展に努めようとする実践意欲を身に付けた生徒を育てる。　【Ｃ－１６】

体験的な活動

・修学旅行
・校内陸上大会
・校内合唱コンクール
・生徒会総会
・生徒会専門委員会
・ﾌﾟﾘﾃｨｯｼｭﾋﾙｽﾞ研修
・職場体験，職場訪問
・文化祭

道徳の時間

・学校全体の道徳教育の要としての役割を果たし、計画的・発展的な指導を行う。
・生徒が主体的に自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫する。
・生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるよう、討論したり書いたりするなどの言語活動を充実させる。

学級経営

学校生活の基盤として、生徒一人一人を理解し、生徒同士が互いに認め合い、何事にも協力して取り組むことができる親和的な学級集団づくりに努める。

各教科

国語	様々な作品を通して、人間について深く考える態度を養う。
社会	社会認識を高めさせることを通して、正しい判断力を養う。
数学	論理的思考の追求を通して、客観的・合理的に物事を判断し行動する態度を養う。 数学の不思議さを味わうことにより、豊かな感性を養う。
理科	科学的な見方・考え方を伸ばし、自然の美しさ、偉大さ、神秘さに気づかせ、自然に対する畏敬の念を育てる。
音楽	情操を養い、豊かな心情を育てる。
美術	主題の発想から表現の確認及び完成に至る全過程を見通し、生徒が夢と目標を持ち自己実現を果たしていく態度の育成を図る。
保体	心と体を一体としてとらえ、体育と保健を一層関連させ、明るく豊かな生活を営む態度の育成を図る。
技家	家族に対する敬愛の気持ちを深めると共に、生活を創造・工夫する力を高め、家庭生活を豊かにできる態度を養う。
英語	言語や異文化に興味・関心を持ち、コミュニケーションを通して国際社会に貢献できる資質の基礎を養う。

家庭・地域との連携

・下郷中ポータルサイト、各種たより、保護者会等を通じて保護者との連携・協力を図り、共通理解のもと道徳性の育成に努める。
・各種機関などとの連携を密にし、健全育成に努める。
・情報モラル等（SNS の使用）について、協力して取り組んでいく。

学級・学校環境

・教師と生徒間、生徒相互の好ましい人間関係を作るような親和的な集団づくりに努める。
・生徒会を中心に、朝のあいさつ運動を積極的に推進する。
・清掃活動を通して心なごむ環境を作り、道徳教育に資するように努める。
・図書室を整備し、読書を通じて道徳教育に資する。
・道徳的な掲示を工夫する。

各学校との連携

・四つ葉のクローバープランを中心としながら、小中連携による道徳教育の充実を図る。
・道徳の授業については、小中間で積極的に授業研究会に参加し、授業改善を図る。
・四つ葉のクローバープラン全体会
・入学説明会
・小中交流会等

特別活動

学級活動

学級での生活をよりよくするために話し合いを通して合意形成し、協力して実践するとともに、話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方について意思決定し、実践することができる生徒の育成

生徒会活動

異年齢の生徒とともに、学校生活の充実・向上に向け、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組むことができる生徒の育成

学校行事

よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養うことができる生徒の育成

生徒指導

・あいさつの推進により自己有用感を高める。
・日常生活の具体的な場面を通して、個人及び集団生活に必要な基本的生活習慣を身につける。
・生徒の自主的な活動の場面を通して、道徳的実践力を身につけるための日常生活指導に努める。

総合的な学習の時間

・　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる生徒の育成
・　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を身につけた生徒の育成

月		教材名	内容項目	主題名	学校行事	学級活動	総合的な学習
4月（2時間）	23	ハイタッチがくれたもの	C-(15)　よりよい学校生活，集団生活の充実	私たちでつくる校風	第1学期始業式 入学式 全校オリエンテーション	○学級づくりをしよう ・学級目標 ・学級組織編成	○地元の地域を知ろう
	11	美しい鳥取砂丘	C-(10)　遵法精神，公徳心	規則の役割			
5月（4時間）	6	五月の風―カナ―	A-(1)　自主，自律，自由と責任	自分を信じて	連休指導 全会津陸上 生徒会総会	○学級をよりよくしよう ・学級目標を振り返って	○地元の地域を知ろう
	7	五月の風―ミカ―	B-(8)　友情，信頼	本当の友達			
	2	そうじの神様が教えてくれたこと	C-(13)　勤労	働くということ			
	4	最後のパートナー	D-(19)　生命の尊さ	支え合う生命			
6月（4時間）	5	「自分」を諦めない。立ち上がった瞬間が自信になる	A-(4)　希望と勇気，克己と強い意志	諦めない心	支部・全会津中体連総合大会	○学級をよりよくしよう ・学級の現状を分析しよう ・改善策を考えよう	○地元の地域を知ろう
	25	コトコの涙	B-(9)　相互理解，寛容	わかり合うこと			
	8	リスペクト　アザース	C-(11)　公正，公平，社会正義	個性を尊重する社会			
	19	さよなら，ホストファミリー	C-(17)　我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	日本人としての誇り			
7月（3時間）	34	避難所にて	A-(2)　節度，節制	節度・節制の大切さ	夏休み指導	○1学期を振り返る ・自分自身を評価しよう ・友達の良いところを見つけよう	○地域の課題を見つめよう ○職業調べ
	12	「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」	C-(11)　公正，公平，社会正義	他者に寄り添う			
	1	自分の弱さと戦え	D-(22)　よりよく生きる喜び	自分の弱さの克服			
9月（4時間）	3	挨拶は言葉のスキンシップ	B-(7)　礼儀	心を形に	職場学習事前・事後指導 職場学習	○2学期はどんな学期にしたい？	○職場体験 ○地域のためにできることを考えよう
	18	行動する建築家　坂　茂	C-(12)　社会参画，公共の精神	社会のためにできること			
	16	小さな工場の大きな仕事	C-(13)　勤労	社会への貢献			
	31	命を見つめて―猿渡瞳さんの六百四十六日―	D-(19)　生命の尊さ	懸命に生きる			
10月（4時間）	15	「自分」ってなんだろう	A-(3)　向上心，個性の伸長	自己を見つめる	中間テスト 避難訓練	○文化祭を成功させよう。 ・2年生として、文化祭でできることは？	○地域のためにできることを実践しよう
	26	オーストリアのマス川	C-(10)　遵法精神，公徳心	法やきまりの意義			
	17	体験ナースをとおして	D-(19)　生命の尊さ	輝く生命			
	14	樹齢七千年の杉	D-(21)　感動，畏敬の念	自然の偉大さ			
11月（4時間）	21	初心	A-(4)　希望と勇気，克己と強い意志	初心に返る	三者面談	○最上級学年になる心構え	○地域のためにできることを実践しよう
	22	ライバル	B-(8)　友情，信頼	真の友情			
	35	きいちゃん	C-(14)　家族愛，家庭生活の充実	家族のきずな			
		福島を「フクシマ」にしない	C-(16)　郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	郷土を愛する			
12月（3時間）	9	戦争を取材する	A-(5)　真理の探究，創造	真実を追い求める		○校内球技大会を学び多いものにしよう	○地域のためにできることを実践しよう
	12	和樹の夏祭り	C-(16)　郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	郷土を思って			
	27	よみがえれ，えりもの森	D-(20)　自然愛護	自然環境を守る			
1月（2時間）		大切なひと	B-(9)　相互理解，寛容	理解するということ	校内スキー教室	○新年の抱負を語ろう	○実践したことを振り返ろう
	29	門掃き	C-(12)　社会参画，公共の精神	美しいしきたり			
2月（3時間）	13	ネット将棋	A-(1)　自主，自律，自由と責任	インターネット上の責任ある言動	卒業式練習	○3年生に感謝を伝えよう	○実践したことを振え返ろう
	33	恋する涙	B-(8)　友情，信頼	友情と好意			
		福島に生まれて	C-(16)　郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	郷土を愛する			
3月（2時間）	28	ダショー・ニシオカ	C-(18)　国際理解，国際貢献	真の国際協力	修了式	○1年間を振り返ろう	○実践したことを振え返ろう
	32	足袋の季節	D-(22)　よりよく生きる喜び	強く気高く生きる			

・・・重点内容項目
・・・「ふくしま道徳教育資料」

【資料】

（１）郷土理解学習

（２）教職員向け道徳通信の発行

下郷中学校 道徳通信

「懸け橋」

「ふるさとに学び、よりよい生き方を追究しようとする生徒の育成」

～「ひと・もの・こと」をつなぎ、家庭や地域と連携した道徳科の授業を通して～

第２回校内授業研究会の報告

さて、9月14日に実施しました「第２回校内授業研究会」では、大変お世話になりました。授業者は、3年2組担任の宮島先生で、「B－（9）友情、信頼」の授業を提供していただきました。

（教材名「違うんだよ、龍司」）

○ICTのフル活用

「さすが、宮島先生！」と言わんばかりのICT活用の実践に富んだ授業でした。授業内で使用していたソフトは、Google の「form」「JamBoard」「スプレッドシート」というものです。

※「form」

導入段階で、友達との関係についてアンケートを行い、リアルタイムで子どもたち一人一人の意見が反映され、グラフ化される。

本時では、「自分自身では、友達の気持ちを理解しているが、友達からは自分の気持ちを理解してもらっていない」というズレが可視化されたことをきっかけに、子どもたちも本時の内容にぐっと関心が高まっていました。

※「JamBoard」

登場人物の関係について考える際に、自分の考えがリアルタイムで学級全体と共有されます。全員の考えを全体で共有することを可能とし、全体での発表という時間が省く、効率的に授業が展開されていました。また、ここでは、生徒からの情報が、匿名になるため、「これは、だれの考えだろう」「この考えをもう少し聞きたいな」など、まさに道徳指導の目的である「考え」や「議論する」活動に向けて、生徒たちの意欲が高まっている様子を見ることができました。

※「スプレッドシート」

Google版のエクセルです。共有することで、１つのファイルを同時編集することができます。本時では、中心発問の「真の友情とは、どのようなものだろうか」という問いに対する考えを全員で記入し、１枚のシートを作り上げていました。

宮島先生の時間が終わると、すぐに生徒からの感想が寄せられ、まだ、生徒もそれを見ながら、各々の考えを内面で考え・議論している様子も表情に表れていました。（中略）

☆補助発問とゆさぶり☆

私自身が、本時で一番注目したことは、補助発問と揺考のゆさぶりです。本時の展開部の「『ちょっとな』と言われたとき、あなたならどのように言葉をかけるか」という問いにおいて、「そっとしておいた方がよい」や「気分転換に誘う」「余計なことをすると、嫌がられるから」と、多角的に読み物を自分自身に照らし合わせて思考し、時で議論する子どもたちの姿が印象的でした。

この議論に至るまでに重要であったと思われるのが、その前段階の補助発問であると思います。

『僕』と『修平』の関係は対等だと言えるか？」という補助発問で考えられたことで、「友達」という概念が、一面的な「友達」で完結するのではなく、「依存する程度の低やかりの友達」、「ただ昔から一緒にいる仲」、「お互いのことをわかり合った親友」等、「友達」という表現にも、新たな深さが生徒たちの中で認識されていました。

さらに、「JamBoard」によって、リアルタイムに意見が共有され、頭内や個人で完結しそうになった思考が、触し出された他の頭の考えにより深まり、それまでに抱いていた思考が揺さぶられたことで、新たに考えるきっかけを与えていたように感じました。

☆事後研究会☆

福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センターの特任教授である佐藤利彦様より、以下の指導助言をいただきました。

○タブレットの有効性と落とし穴

・情報がタブレット上に蓄積されるため、板書との向立が難しいが板書に学びの軌跡を。

・JamBoardで集約された意見を整理し、もう一度生徒に投げかける。そこで「○○さんの考えに対して、こう思う」と「語り合い」が生まれる。

○中心発問・補助発問を吟味し、いま一度おさえる。

流れとして、一度中心発問を投げかけた後、補助発問で深化させ、再び中心発問に戻ってくる技法もあり。

○多面的・多角的に考えさせること

今回だと、「僕」「龍司」「修平」それぞれの立場が多面的となり、それぞれがどう考えるかという活動もある。

私は、新たな視点で、今日までや今後の授業へのヒントをいただくといきっかけとなりました。

「ICTを活用した道徳の授業」という、想像もしていなかった取り組みでしたが、タブレットを活用することで、「時間的なロスがない」「生徒の振り返りが早くでき、新たな考えや議論へとスマートにつなぐ」など、きちんと整理された流れがとても印象的でした。おそらくこの実践が、「新しい道徳指導」への新たな実践となり、違う「視点」「技法」「発問」等、新たな学びに向けての課題が見えてきたことに、下郷中学校の実践が貢献していることを感じさせられました。

第２回校内授業研究会が有意義なものになりましたこと、宮島先生はじめ、諸先生方のお陰です。本当にありがとうございました。

さて、次回、第３回校内授業研究会は、10月５日（水）に行います。授業者は、瀬田先生です。次回も、お時間に余裕がある先生方は、ぜひ、ご参会いただき、沢山の感想や意見をいただければと思います。

（３）地域資源の教材化

大内を残して

相双地区道徳教育推進校「新地町立尚英中学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	新地町立尚英中学校
所　在　地	相馬郡新地町谷地小屋字愛宕３８番地
校　長　名	佐藤　武
教育目標	・自ら学び、創造的に考えを深めていく生徒 ・思いやりがあり、粘り強く取り組む生徒 ・心身ともに健康で、たくましい生徒
学級及び児童生徒数	学　級　数　１１ 生　徒　数　２２２名

2　研究テーマ

対話を通して学び合いながら、自己の思考過程をまとめ、自信を持って表現できる生徒の育成

3　研究テーマ設定の理由

本校は平成２２年度以降、数々の ICT 活用教育の実証校に認定され、新地町の小・中学校が連携し、次世代教育の実証研究を行なってきた。現職教育では、ICT 活用を研究テーマに位置づけ、授業の様々な場面で ICT 機器の活用を図り、質的改善を目指してきた。

生徒は素直であり、ICT 機器を有効に活用して意欲的に学習課題に取り組む一方で、根拠を基に自分の考えや意見をまとめ発表することや、論理的考察を要する課題に対して筋道や見通しを立てて解決する力に課題がある。また学校アンケートでは、自分のよさを肯定的に認めることに関して低い結果が出ている。

そこで本研究では、これまで培ってきた ICT 活用の技能を有効に活用し、自己の思考を可視化しながら対話をする中で、お互いに学び合い、自分の意見をまとめ発表することで、自己肯定感を高めていくことを目指し、研究テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
４月２６日（月）	校内研修　現職全体協議会（研究の見通しをたてる）
６月２４日（木）	福島大学附属中学校授業研究会参加（２名）
７月２８日（水）	校内研修　福島大学附属中学校教諭の公開授業をもとにした研修 指導助言　相双教育事務所学校教育課　小澤建二　指導主事
８月１０日（火）	校外研修　モラロジー道徳教育研究会参加（４名）
９月１７日（金）	授業研究Ⅰ　道徳と情報モラル公開授業　授業者　教諭　武口隆太郎 指導助言　静岡大学教育学部学校教育講座准教授　塩田真吾　様
１０月１１日（月）	校内研修　研究授業に向けての Zoom 会議① 指導助言　福島県教育庁義務教育課　肥沼志帆　指導主事
１０月１４日（木）	校内研修　研究授業に向けての Zoom 会議② 指導助言　相双教育事務所学校教育課　小澤建二　指導主事
１０月１９日（火）	授業研究Ⅱ　授業者　教諭　西坂勇輝 指導助言　福島大学　特任教授　佐藤和彦　様
１１月　１日（月）	校内研修　研究授業に向けての Zoom 会議③ 指導助言　相双教育事務所学校教育課　小澤建二　指導主事
１１月　８日（月）	校内研修　研究授業に向けての Zoom 会議③ 指導助言　福島県教育庁義務教育課　肥沼志帆　指導主事 相双教育事務所学校教育課　小澤建二　指導主事
１１月１０日（水）	道徳教育地区別推進協議会授業実践　授業者　教諭　平塚健次郎 指導助言　福島県教育庁義務教育課　肥沼志帆　指導主事

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ①生徒の実態や教師・保護者の願い等から、重点内容項目を明確にし、学校教育全体を通して道徳性の育成を図る。 ②別葉は、他教科等との関連を踏まえて、重点内容項目が指導できるようにした。また、生徒の実態に応じて、特に育てたい内容項目を選び、それに関連する学習活動を挙げた学年毎の別葉を作成した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○担当者が、重点内容項目や各教科や学校行事との関連が一目でわかるようにした。
【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫
①学習支援ツールを有効活用し、自らの考えを可視化する指導の工夫 ・話合いの際に学習支援ツールを使うことによって、個人の意見をクラス全体で可視化し、様々な考え方を共有することができるようにする。 ②話合いを深めるための発問の工夫 ・生徒が道徳的価値の問題を自分事としてとらえ、多面的・多角的に考えることができるように発問を工夫する。 ・同じ内容項目の授業を同じ教員が行い、授業後に改善点を話し合い、さらに発問を洗練させていく。 ③話合いを活性化させるための学習形態の工夫 ・思考ツールを使用して個々の考えを可視化するだけでなく、それを使用して効果的な話合いができるように学習形態を考え、話合いをコーディネートする。
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について
①「ふくしま道徳教育資料集」から、本校の重点内容項目に一致するものを精選し、自分事として問題をとらえ、考えることができるように発問や学習形態を工夫する。 ②福島県独自の資料を活用することで、地域に対する愛着や感謝の心を深めることができるようにする。 ③学年間で「ふくしま道徳教育資料集」の効果的な活用方法について、話合いと教材研究を行う。
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
①協働学習支援ツール上にあるワークシートに個別にコメントを入れることで、一人一人の学習状況や道徳性に係る成長の様子を受け止め、励ますことができるようにする。 ②学習支援ツール上に蓄積された生徒のワークシートをもとに、学期ごとの生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をとらえ評価をする。 ③教員間で、生徒のワークシートに対するコメントや評価について情報を共有し、より個に根ざした評価の実現を図る。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について
①町発行の「ことばはこころの鏡」を学校と家庭で使用し、「人に優しいことば」のあふれる町づくりをする。 ②情報モラルについて保護者にアンケートを取り、学校・生徒・家庭が連携していくことができるようにする。 ③ホームページや通信等で、生徒の学習の実態を発信し、家庭や地域から協力が得られるようにする。

6「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

・　新地町では、学校・家庭・地域が連携し、「人に優しいことば」についてアンケートを取り、言葉を精選し、「ことばはこころの鏡」と題したパンフレットにしている。それを授業で活用し、道徳教育の充実に生かす。

【概要】

・　パンフレットを道徳の授業で活用し、「人に優しいことばを」人との関わりの中で生かしていくことができることを目指した。

【成果と課題】

○　パンフレットの作成の段階で学校・家庭・地域が関わり合い、「人に優しい言葉」について毎年考え、改訂を重ねることで、道徳教育の充実について、連携ができている。

●　１回限りの使用ではなく、道徳の授業の内容項目の中でどこに生かせるかを、別葉作成の際に考えていく必要がある。

7　成果と課題

○　導入部分でフォームのアンケート機能を活用し、その結果を即時フィードバックすることで、生徒は自分事として課題を捉えることができ、その後の授業展開がスムーズになった。

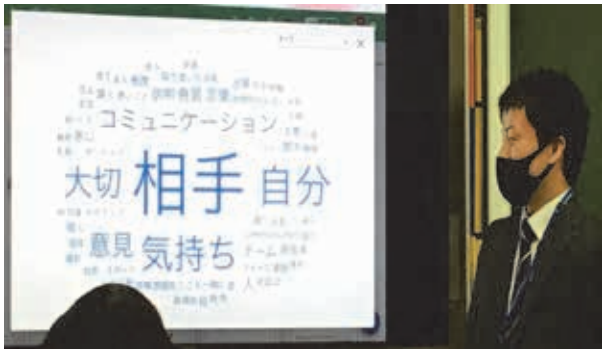
○　協働学習支援ツールを使って個々の意見を可視化することにより、話合い活動がスムーズになり、様々な意見を共有する中で、物事を多面的・多角的に捉えることが可能になった。また、発表をすることに抵抗がある生徒も、意見を書き込みする中で、それがグループ内で共有され、話し合いが活発になった。

○　１つの教材を使って、同じ教員が学年全クラスで授業を行った。授業までに発問の仕方や授業構成について、教員間で何度も話し合い、授業後は指導主事も交えて事後研究を行い、授業改善を図った。回数を重ねるごとに発問が精選され、生徒の話合いが活発になった。

○　板書については、指導主事と協議を重ね、生徒にとって内容を簡潔に整理しながら、話合いの内容を深めるような、構造的な板書作りを目指して授業を行うことができた。その板書が生徒の話合い活動のスムーズな進行につながった。

●　「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業を行ったが、生徒にとって内容が難しかったり、実態に合わなかったりしたので、教材の内容を自分事として捉え、深い考えに結びつける発問を作るのには、まだ改善の余地が残った。

●　別葉については、有効活用が図られなかった。学校・学年の実態を捉え、授業者が有効に活用していくことができるように努めたい。



令和３年度　道徳教育全体計画

新地町立尚英中学校

教育目標

１．自ら学び、創造的に考えを深めていく生徒
２．思いやりがあり、粘り強く取り組む生徒
３．心身ともに健康で、たくましい生徒

諸法規

憲法、学校教育法等の法令
県・教育事務所・町教委の方針、指導の重点
学習指導要領
いじめ防止対策推進法

生徒の実態

・基本的生活習慣の確立が十分でない。
・互いに思いやり認め合う気持ちに欠ける。

重点目標

認め合い、自ら考え・行動できる生徒

教師・保護者の願い

・夢や目標を持ち生き生きと生活してほしい。
・努力することの大切さを実感させたい。

社会の要請

・命を大切にする心を身につけてほしい。
・規範意識を確実に身につけてほしい。

各教科

全教科	言語活動を通して、自己を見つめる機会とし、発達段階に応じて自己の考え方を深めさせる。
国語	読書の習慣を身につけさせ、人間の生き方に対する考えを深めさせる。豊かな表現力を養い、相手の話をよく聞く態度を育成する。
社会	人権の尊重が民主社会の基本であることを理解させ日々の授業で意識させる。郷土や国家に対する愛情、平和な国際社会に貢献する態度を養う。
数学理科	物事を筋道たてて考える態度を養う。自分の考えを持ち、学びあいの中から、問題を解決するために根気強く努力する態度を養う。 人間生活と自然環境との関係を考えさせ、生命の尊重、自然愛を中心にした豊かな心とを培う。
音楽	美しい音楽に親しませ、表現や鑑賞活動を通して、お互いに協力しあう中で、豊かな人間性とより創造的な生活への意欲を養う。
保体	心身の健康に努め、体力を増強させ、生命尊重の心を育て、苦しみを克服する力や強い意志を養う。
美術	表現や鑑賞活動を通して、美的情操を養う。創造活動を通して、最後までやり抜く力を養う。
技術・家庭	働くことの喜びを味わい、お互いに助け合いながら仕事に努め、協力・責任・情操の陶冶に努める。
英語	言語に対する関心や外国に対する理解を深め、国際社会の一員としての自覚を高める。

道徳教育の重点目標

「良好な人間関係を築き、思いやりにあふれる心や態度」の育成をめざす。
１．誰に対しても分け隔てなく接し、他の人に対して思いやりの心を持つことができる。
２．友情の尊さを理解して互いに励まし合い、高め合うことができる。

学年の重点目標

１年　主体的に相手の立場を考え、感謝と思いやりの心を持って生活し、互いに認め合おうとする実践意欲と態度を育てる。

２年　主体的に相手の立場を理解し、思いやりを持って生活し、互いに認め合おうとする態度を育てる。

３年　主体的に相手に対する理解を深め、互いに向上し、認め合おうとする態度を育てる。

特別活動

学級活動	道徳の時間に養われた道徳的理解・判断・心情を学校における人間関係の中で生活に即して実践させる。学校生活の充実を図るために、諸問題の解決を通して自主・自立の精神を養う。
生徒会活動	集団生活を通して、協力・奉仕の精神を養い、社会的意識や実践力を高めさせる。集団の一員としての自覚を高め、自主的な生活態度を身につけると共に、奉仕活動を活発にする。
学校行事	学校生活の充実と発展に資する豊かな体験を通し、道徳の時間に養われた道徳性を実践させる。

道徳科の指導方針

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を養う。信頼関係や温かい人間関係を基盤として、生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫し、いじめの未然防止につなげる。生徒の発達の段階を踏まえて計画的な指導を充実させ、問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な指導方法を工夫する。生徒が自立した個人として、よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、自ら考えられるよう適切な支援を行う。

評価について

道徳性は、多様な生徒の人格全体に関わるものであり、評価に当たっては、個人内の成長の過程を重視する。
・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。
・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
発言が多くない生徒や文章の記述が苦手な生徒については、発言や記述ではない形で表出するものに着目する。また、評価に当たっては、記録物や実演自体を評価するのではなく、個人の成長の様子を見取る。

家庭との連携

・PTA 活動、授業参観、三者懇談、家庭訪問等相互理解の機会を生かし、啓蒙に努める。
・PTA 会報、学校だより、学年・学級通信等により保護者との連携を深める

学級・学校環境

・よりよい人的環境作りのため、教師自ら人間尊重の精神を持ち、校風作りに努める。
・清掃活動の充実を図り、学校、学級の美化に努め、公共物を大切に扱う態度を育てる。
・様々な場面において「私たちの道徳」を活用し、生徒の心に響く指導を行う。

地域社会との連携

・道徳の時間における事前・事後の指導により、職場体験学習での連携の深化に努める。
・ゲストティーチャーなどの活用により、地域の人材との連携に積極的に取り組む。

その他の活動

・日常生活に必要な基本的生活習慣を身につける。
・好ましい人間関係を育てる。

生徒指導　　学級経営

新地町立尚英中学校　令和３年度　道徳教育の全体計画・別葉
【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学２年生)】○：実施月

内容項目 ＼ 教科・領域等		国語 (光村図書)	社会 地理(帝国書院) 歴史(東京書籍)	数学 (東京書籍)	理科 (東京書籍)	音楽 (教育出版)
A　主として自分自身に関すること	(1)自主、自律、自由と責任					
	(2)節度、節制					
	(3)向上心、個性の伸長	表現のしかたを工夫しよう①				合唱コンクール⑨
	(4)希望と勇気、克己と強い意志	根拠を明確にして意見を書こう⑫		連立方程式⑥		翼をください④ 夢の世界を④
	(5)真理の追究、創造			三角形と四角形⑫		
	(6)思いやり、感謝					
B　主として人との関わりに関すること	(7)礼儀	気持ちを込めて書こう⑨				
	(8)友情、信頼	走れメロス①				合唱コンクール⑨
	(9)相互理解、寛容	話合って考えを広げよう⑫				
	(10)遵法精神、公徳心					
	(11)公正、公平、社会正義		歴：近世の日本⑥ 歴：開国と近代国家の歩み⑫			
C　主として集団や社会との関わりに関すること	(12)社会参画、公共の精神		歴：開国と近代国家の歩み⑫			
	(13)勤労					
	(14)家族愛、家庭生活の充実	盆土産、字のない葉書⑨				
	(15)よりよい学校生活、集団生活の充実			一次関数⑦		
	(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度					
	(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	枕草子⑤ 新しい短歌のために⑨ 言葉の力⑦ 平家物語⑩	歴：開国と近代国家の歩み⑫	三角形と四角形⑫		荒城の月⑦ 歌舞伎「勧進帳」① 長唄「勧進帳」①
	(18)国際理解、国際貢献	アイスプラネット④ モアイは語る⑪		連立方程式⑥		交響曲第５番⑤ フーガト短調⑤ オペラ「アイーダ」⑪
D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	(19)生命の尊さ			確率②	植物のからだのつくりとはたらき⑨	
	(20)自然愛護		地：九州地方⑨ 地：近畿地方、中部地方⑩ 地：東北地方⑪		植物のからだのつくりとはたらき⑨	夏の思い出⑦
	(21)感動、畏敬の念	君は「最後の晩餐」を知っているか。⑪				
	(22)よりよく生きる喜び	科学はあなたの中にある②				

新地町立尚英中学校　令和３年度　道徳教育の全体計画・別葉
【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学２年生)】○：実施月

美術	技術・家庭 (東京書籍・開隆堂)	保健体育 (東京書籍)	英語 (東京書籍)	学校行事	特別活動 総合的な学習の時間	地域・家庭との連携、その他
	家庭生活と消費⑫① 持続可能な社会②③	体つくりの運動④ 柔道⑪	Let's Talk① Let's Talk③	定期テスト	特：人はなぜ学ぶのか⑪ 特：情報のモラルについて考えよう①	
	持続可能な社会②③	健康な生活と病気の予防②			特：2年生の生活設計を立てよう④	
		運動全般		個別面談⑦⑪	特：自己の進路計画を立てよう②	
			Stage Activity①	定期テスト	特：人はなぜ学ぶのか⑪	
			Stage Activity②			
		球技⑤⑥⑨②③ ダンス⑨	Let's Write②	職場体験⑨		
	目的に応じた衣服の選択④⑤	柔道⑪	Let's Write①		特：集団や社会の一員としての心構えを考えよう⑥	
		球技⑤⑥⑨②③ ダンス⑨	Let's Talk⑤	校外学習④ 球技大会⑦ ゆずの香り祭⑩	特：合唱コンクールを盛り上げよう⑩ 特：性について考えよう⑩	
何でこれが美術なの⑨		球技⑤⑥⑨②③ ダンス⑨	Unit4			
				職場体験⑨		
		球技⑤⑥⑨②③			特：集団や社会の一員としての心構えを考えよう⑥	
一目で伝えるための工夫①⑫	持続可能な社会②③		Unit3 Let's Talk④			
			Unit3	職場体験⑨	特：職業とは何だろう⑨	勤労感謝の日⑪ PTA 親子作業⑪
			Unit0			母の日⑤ 父の日⑥
		球技⑤⑥⑨②③	Let's Talk② Unit4	ゆずの香り祭⑩	特：学級組織を考えよう④ 総：職場体験発表会⑩	PTA 親子作業⑪
					総：修学旅行事前調査②	敬老の日⑨
浮世絵はすごい④ 手から手へ受けつぐ⑫ 水と筆を操る③		柔道⑪	Unit2 Unit7 Stage Activity3	ゆずの香り祭⑩	総：修学旅行事前調査②	
			Unit1 Unit2 Unit7		総：修学旅行事前調査②	
		傷害の防止⑫	Let's Read 3	避難訓練⑤⑪	特：間食と夜食の取り方⑫ 特：朝食の大切さを考えよう②	
		傷害の防止⑫	Let's Read 3			
			Let's Read 1 Let's Read 2 Unit5			
			Unit6		特：進路への不安や悩みを話そう②	

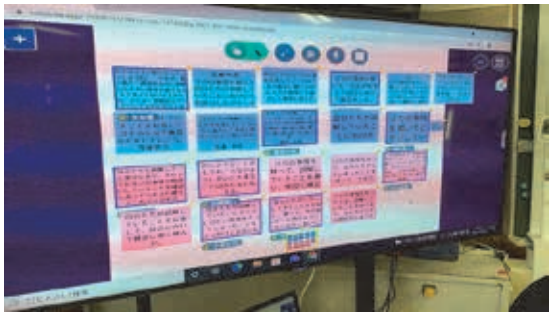
【資料】本校の特徴的な道徳教育への取組

（１）　協働学習支援ツールを使用することで、クラス全体で意見を可視化し 様々な考えを共有できるようにする。

○　自分の考えを表出しにくい生徒でも、クラスメイトの意見を参考にすることができるので、多面的に物事を考えるきっかけとする事ができた。

○　ペア・グループ学習をする際に、相手の意見が可視化されているので、相手に質問をすることで意見を深めたり、話合いを活発にしたりすることができた。

○　教師にとっても、生徒がどんな考えを持っているのか、一目で把握できるので、意図的指名がしやすくなった。

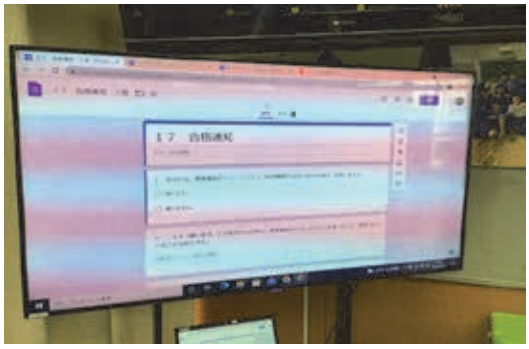


（２）　生徒が道徳的価値の問題を自分事として捉え多面的・多角的に考えることができるように発問を工夫する。

○　導入部分の発問をアンケート形式にし、その結果を即時フィードバックすることで、道徳的価値について自分事として捉えさせることができた。

○　同じ題材を使い複数クラスで授業をし、その授業を全教員で参観したことで、事後研究会で様々な意見が出され、それが次の授業での発問の改善につながった。

○　Zoom 等で指導主事との打ち合わせを何度も行い、発問の改善を図ったことで、生徒の話合いの質が変わった。



いわき地区道徳教育推進校「福島県立好間高等学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	福島県立好間高等学校
所　在　地	いわき市好間町上好間 字上川原２５番地
校　長　名	和田　直也
教育目標	規律ある学校生活を通して、豊かな人間性と学力を育み、地域社会に貢献するとともに、自らの理想を目指して努力し続ける人間を育てる。
学級及び児童生徒数	学　級　数　６（普通科） 児　童　数　２０３名

2　研究テーマ

特別活動等を通した体験活動の活性化とともに、これまでの生徒指導・進路指導を補完し、予測困難な社会変化の中で自らの人生を切り拓き、よりよく生き抜いていくための力を育むための道徳教育の展開について探究する。

3　研究テーマ設定の理由

地域に根ざした学校である本校は、教育の根幹を人づくりに置き、地域社会からの要請に応えるべく、社会に貢献できる人材育成を目指す「鍛える教育」を掲げ、生徒の実態を踏まえながら「自らを律する力」「自ら学ぶ力」「よりよく生きるための心と身体」を鍛える教育を推進してきたところである。

この実践を土台としながら、激しく変化するこれからの社会を生き抜いていくための基礎となる能力や態度を育み、生徒一人一人が進路希望実現を果たしていくために、その手立ての一つとして、生徒指導・進路指導・特別活動の更なる充実化と併せて、それらを補完する道徳教育の推進を図りたい。

具体的な実践形式としては、総合的な探究の時間やＬＨＲの時間等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す体験活動等を取り入れながら、生徒に自己有用感を獲得させていく。また、様々な環境の中で周囲と折り合いをつけながら、よりよく生き抜いていく基礎として、多様な価値観を理解する寛容さや思いやりの心、積極的に他者と関わる主体性や対話力を育むことを目指す。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	外部講師
４月２０日（火）	事業内容と今後の計画についての打合せ	
４月２０日（火）	着こなしセミナー（１学年）	トンボ学生服
４月２７日（火）	スマホ・ケータイ安全教室（全学年）	ＮＴＴドコモ
５月１２日（水）	いわきの街をきれいにする運動（全学年）	
５月２８日（金）	交通安全教室（全学年）	タイヘイドライバーズスクール
６月２１日（月）	道徳科授業充実パワーアップ研修会への参加（道徳教育推進教師）	
７月１４日（水）	薬物乱用防止教室（全学年）	いわき中央警察署
７月１９日（月）	保健講話（全学年）	静岡県立大学助教
８月	「モラル・エッセイ」コンテストへの参加（３学年国語表現選択者）	神奈川県立保健福祉大学准教

８月３１日（火） ９月２７日（月） １０月　５日（火） ～７日（木） １０月１２日（火） １０月２０日（水） １０月２８日（木） １０月２９日（金） １１月　９日（火）	職業人講話、先輩の話を聞く会（全学年） 道徳教育推進研修(NITS)への参加と伝達講習 （道徳教育推進員より全職員） インターンシップ（１学年） 鈴木文健氏による奉仕作業参加（１学年） いわきの街をきれいにする運動（全学年） 地区別推進協議会の打ち合わせ ミニ文化祭（全学年） 道徳教育地区別推進協議会	東進工業株式会社いわき好間工場 東京学芸大学教職大学院教授 齋藤嘉則先生

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について
本校の生徒は総じて純朴で真面目であるが、親からの愛情の不足、承認欲求の欠如により、自分に自信がもてない傾向にある。そこで「心と身体を鍛える教育」に焦点をあて、何かに挑戦し、他者との望ましい関係性を築く態度を身につけさせたい。 また、将来社会の一員として地域の発展に貢献するため、地域の求める人材を育むとともに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につけさせる。 以上のことを踏まえ、「特別活動」「総合的な探究の時間」「各教科」等の学校全体の教育活動を通して道徳教育を実践することを全職員で確認し推進していく。
【視点２】児童生徒の心に響く指導の工夫
① 生徒自身が興味関心をもち、主体的に考えられるような課題を見つける。 ② グループ活動を通して、多様な見方や考え方に触れ、物事を多面的・多角的にとらえる視点を培うようにする。 ③ 自分の考えを明確にもつとともに、他人の考えを取り入れながら、課題解決への最適解を検証し、自分の考えをさらに深める。
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」の活用について
資料集を活用することで、自己肯定感の向上、人とのつながりの大切さや命の尊さについて考えさせたい。
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
① 各行事後の感想や生徒一人一人の活動の様子、普段の学校生活における他人とのかかわりの様子を評価しながら、各自の主体性や積極性を培う指導・助言につなげる。 ② 物事を多面的・多角的に考え、自分の価値観に気づき、よりよい生き方への目標をもとうとする態度が養われているかを指導者側の自己評価の指標とする。 ③ 本校のルーブリックを作成し、生徒自らが自己の変化（成長）を意識できるような手立てを講じる。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について
① 地域・社会の関わりの中で、協働しながら課題を解決していく力を身につけるために、地域のボランティア活動へ積極的に参加するなど、人とのコミュニケーションを通じて、道徳的な判断力や道徳的実践意欲と態度を育てる。 ② 「モラル・エッセイ」コンテストへの参加を通じて、社会の一員としての自分が存在する意義を考え、自己を見つめる機会とする。

６　「家庭・地域との連携」について

（１）活動のねらい

コロナ禍で今年度初めから学校内外の活動が制限され、生徒の活動に大きな影響を受けた。１０月から徐々に警戒レベルが引き下げられたが、その中で、感染防止対策を実施しつつ、「家庭・地域との連携」に取り組んできた。

生徒は地域に出ていくことで学校内とは違った環境に触れ、それにより自己有用感を高めることができるであろうというねらいで、活動を設定した。

（２）活動の概要

・いわきの街をきれいにする運動・インターンシップ
・鈴木文健氏による奉仕作業参加

（３）成果と課題（成果○　課題●）

○　生徒からは、地域に出て行くことで「視野が広がった」という意見が多かった。また、地域の方から声をかけてもらったことで、達成感や自己有用感が高まった。

○　インターンシップでは、受入企業からの評価が昨年度と比べて良かった。生徒の感想も前向きなものが多く、自己肯定感が高まった。

○　鈴木文健氏による奉仕作業はテレビで、その他の生徒の様子はＨＰで発信することで、生徒が主体的に活動する姿を地域や家庭に広めることができた。

●　家庭との連携という視点では、学校行事や探究活動で実施することができず、十分な成果が得られなかった。

●　学年が上がるにつれて、生徒の自信につなげるため、自己有用感や自己肯定感をさらに向上させていく取組の工夫をしていきたい。

７　成果と課題（成果○　課題●）

○　高校では、特別な教科「道徳」が設定されておらず、学習指導要領で「教育活動全体を通じて行うことによりその充実を図るもの」としている。今年度推進校に指定されたことにより、教職員が改めて高校における道徳教育の推進について意識することができた。

○　キャリア教育の出口である高校教育において、地域の資源を活用した取組の必要性を確認することができた。

○　取組の振り返りアンケートで、生徒の考えや変容を確認することができた。

○　義務教育課やいわき教育事務所の指導主事から直接指導助言を受けることができ、様々な視点からの取組を行うことができた。

○　「モラル・エッセイ」に取り組むことで、生徒自身が自己を見つめ直す機会にすることができた。

●　地区別推進協議会がオンライン中継となり、地区の先生方に生徒の活動を直に見てもらえなかった点、また、各校で視聴した異校種の先生方の感想を直接聞くことができなかった点は残念であった。

●　他高校での実践を知る機会や高校の道徳教育に関する研修会等の情報がほとんどなく、またコロナ禍での移動制限があり、取組に対する難しさを感じた。

●　高校の推進校として、本校の実態に応じた道徳教育を推進してきたが、小中学校の道徳教育との系統性を考え、連携していくことについては難しさがあった。今後研修を深めていきたいと考える。

令和3年度　道徳教育の全体計画

福島県立好間高等学校　全日制の課程　普通科

＜生徒の実態＞

・基本的には純朴で、真面目に取り組む生徒が多い。
・服装頭髪の状況は良好であるが、言葉遣いや欠席遅刻など基本的生活習慣が十分身についていない生徒が少なくない。
・自らを高める意欲や規範意識が低い生徒、自己中心的で判断力が乏しい生徒、基礎学力が十分でない生徒もいる。
・家庭環境が複雑な生徒が多い。

＜学校・地域の実態＞

・地域の本校への関心や期待は高く、教育活動へも理解がある。
・PTA活動や同窓会活動も活性化しており、協力的である。
・小中高連携のPTA組織があり、地域で子どもを指導していく体制がある。

＜学校の教育目標＞

・校訓：「すぐれた知性」「豊かな情操」「強固な意志」
・教育目標：規律ある学校生活を通して、豊かな人間性と学力を育み、地域社会に貢献するとともに、自らの理想を目指して努力し続ける人間を育てる。

＜道徳教育の重点目標＞

・基本的生活習慣及び規範意識の確立を図り、社会の一員としての生きる力を育む。
・基礎学力を高め、成就観や達成感を体得させることで、未来に対して前向きに取り組もうとする態度を育む。
・さまざまな学習活動や特別活動等の場を通して、自他の生命や人権を尊重する精神と協力し合う姿勢を育む。
・キャリア教育を推進し、望ましい職業観や勤労観、コミュニケーション能力を育む。

＜目指す生徒像＞

・自ら律し、自ら学び、自らの夢に挑戦する生徒
「自律・自学・自己実現」

＜学校経営・運営ビジョン＞

・よりよく生きるための品格と進路実現への確実な力の育成

生徒を「鍛える教育」の実践

1．自らを律する力を鍛えます
「規律ある学校生活」の中で安全な学校づくりを行う。
2．学ぶ力を鍛えます
基礎学力の確かな養成等を通して進路希望実現100％を図る。
3．心と身体を鍛えます
特別活動の活性化とともに、道徳教育の推進を図る。
4．保護者や地域との連携で鍛えます
保護者・地域等との連携を密にする。

＜家庭・地域との連携＞

・学校からの情報を保護者に確実に伝え、強い信頼関係をもって生徒の指導にあたる。
・三者面談を計画的に行うなど、協力関係を構築することに努める。
・学校評議員や地域との連携を深め、「開かれた学校づくり」を推進する。
・HPの随時更新等により、情報公開と発信に努める。

＜生徒指導等における関連＞

・美化に努め、学びの環境を整える。
・服装、頭髪指導を徹底し、品位ある生徒を育てる。
・毎日の登校指導及び挨拶の励行を指導し、欠席と遅刻の防止を図る。
・教育相談や面談を充実し、問題行動の未然防止を図る。
・交通安全教育を充実させ、事故の絶無を図る。

＜特別活動等における関連＞

HR活動、生徒会活動、学校行事

・生徒一人一人の主体的な活動を実現し、自己の役割を自覚することで、集団生活の意義を学ばせる。
・集団の一員として、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

＜各教科・科目及び総合的な探究の時間との関連＞

国　　語：適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、生活や人生についての考えを深め、よりよく生きる態度を育てる。
地歴公民：日本及び世界の歴史的過程と生活文化についての理解と認識を深め、国際社会に生きる日本国民として必要な自覚と資質を養う。現代社会の諸課題を考察することで、人間としての生き方在り方についての自覚を深める。
数　　学：基礎・基本的な学力や数学的思考力・判断力を身につけ、冷静な判断力と社会人としての生きる力を育てる。
理　　科：自然の事物・現象及び自然と人間との関わりについて理解し、生命を尊重し、環境の保全に寄与する態度と科学的な自然観を育成する。
保健体育：健康・安全の理解と運動の実践を通して、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。ルールやマナーを守り、集団に参加して協力し合う態度を養う。
芸　　術：生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養い、道徳性の基盤を育成する。
外 国 語：英語を学習することを通して、言語や文化に対する理解を深める。国際的視野に立ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
家　　庭：家族・家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、男女が協力して主体的に家庭や社会を築いていくための実践的態度を育成する。
情報・商業：情報及び情報技術を活用させるための知識と技能の習得を通して、モラルやマナーを理解し、情報科社会に参画する態度を育成する。社会性や社会人としての倫理観の育成を図る。
総合的な探究の時間：　基礎学力の養成とキャリア教育を二本の柱とする。
（1）基礎学力養成：「基礎学力養成問題集（ステップ1・2・3）」の学習を通して、達成感を体得し、将来にわたって自ら学ぼうとする態度を育成する。
（2）キャリア教育：　外部講師による講演会等を通して、望ましい職業観や勤労観、コミュニケーション能力を育成する。

＜資料：保護者向けの学校通信＞

令和３年度　いわき地区道徳教育推進校に指定されて（報告）

好間高等学校長

本校は今年度、いわき地区道徳教育推進校に指定され、学校行事や総合的な探究の時間を道徳の視点で捉え直し、実践してきました。その中での、生徒の様子や感想をいくつか紹介したいと思います。

○交通安全教室

○いわきの街をきれいにする運動

（交通安全教室の感想の一部）
・スマホを触りながら乗らないようにしたい。
・傘差し運転は大変危険だと分かった。
・危険性を身近に感じた。
・人がはねられるのはすごく怖い。

○鈴木文健氏による奉仕作業参加

○道徳教育地区別推進協議会

（鈴木文健氏による奉仕作業参加の感想の一部）
・好間町がきれいになってうれしい。
・街のボランティアにも参加してみたい。
・想像を超えるゴミの量にびっくりした。
・ゴミを見つけたら少しでも拾いたい。

高校では、「道徳」という教科はありませんが、教育活動全体を通じて道徳教育を行っています。ご家庭においても、「自分自身」、「人との関わり」、「集団や社会との関わり」、「生命や自然」について、話し合う時間をぜひとってください。そして生徒一人ひとりがよりよい社会の一員となれるようにご助言いただければと思います。

＜資料＞

鈴木文健氏とのごみ拾い活動を通して

令和３年１０月１２日（火）第５校時

１　活動のねらい

生徒たちが生き生きと高校生活を送るためには、自ら考え、判断し行動する能力が求められる。本校生徒の実態から、実際の活動を通して、具体的に考えたり実感したりすることでより深い学びができると考え、テレビ番組企画で県内の清掃活動を続ける俳優の鈴木文健氏との地域のごみ拾い活動を行うことを計画した。

活動を通して「働くことの意味」や「地域に貢献する喜び」を学び、主体性・積極性・コミュニケーション力がよりよい人間関係の構築に不可欠であることを理解し、相互理解を大切にして望ましい学校生活が送ることができるようにしたい。

また、このごみ拾い活動が、「地域の美化」とともに「活性化のきっかけになっている」ことを理解し、地域貢献活動により地域の発展のために参画できる充実感を体験的に学ばせ、今後の高校生活や自己の進路選択への意欲を高めさせたいと考えた。

２　活動の実際

（１）　生徒たちは、初めは遠慮がちに活動していたが鈴木氏の前向きで温かな言葉かけに背中を押され、次第に積極的に活動できるようになった。

「ごみ拾い」というひとつの活動でも、生徒の認識にはそれぞれ差があり、実際の活動を通して互いの認識の共通点や相違点に気づき、尊重し協力し合って、よりよい活動を創りあげていくことの大切さを実感することができた。

（２）　活動を進める中で、生徒同士で「どうしてこの場所にこんなごみがあるのだろう」「捨てる人の気持ちがわからない」などの意見が出て、その解決策について自然と話し合う姿も見られた。

（３）　活動前は、「自分達の学校の周りにはそんなにごみは落ちていないだろう」と考えていた生徒が自分達が拾ったごみを分別したものを見て「ごみがこんなに落ちているんだ」「もっときれいにしなければ」という認識に変わった。

さらには、「ごみ拾いだけでなく、地域のために何かできることはないだろうか」という意見が出され、活動によって生徒の気持ちが大きく動いたことを感じた。

（４）　最後に鈴木氏と、今回の活動のまとめの時間を設け、皆で感想や意見を共有することにより、さまざまな考えを自分の中に取り入れ、それをふまえて自分の考えを改めて構築することができた。

３　成果

総合的な探究の時間や学校行事等での学習において、生徒にどのような道徳性を育むのかを明確にして展開することで、教師の見取り方やはたらきかけの仕方が変わり、生徒にもよい変容が多く見られた。

石井小学校第４学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１２月１日（水）第５校時
授業者：二本松市立石井小学校　教諭　村松直子

授業テーマ	心のものさしを用い、友達や保護者、自分との対話を通して、多様な視点や考え方に触れながら、家族の一員としての自分について考えを深めることができる授業

１　主題名　家族の一員として　Ｃ―（１５）家族愛、家庭生活の充実

２　教材名　お母さんのせい求書（出典：みんなの道徳４年　学研）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

家庭は、子どもにとって生活の場であり、団らんの場である。子どもは家庭で、家族との関わりを通して愛情をもって保護され、育てられており、最も心を安らげる場である。家族の一員として、家庭生活により積極的に関わろうとする態度を育てることが大切であり、自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって、協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつことができるようになる。

（２）　児童の実態について（子ども観）

本学級の子どもたちは、家族に大切にされており、しっかりとした家庭生活の基盤を感じる。休日には家族と一緒に楽しく過ごしているようである。家族が大好きで、頼りにするとともに、手伝いも積極的に行っている子どもが多い。しかし、家族の存在が当たり前である子どもたちにとって、家族の思いや願い、苦労などについて、改めて考える機会は少ない。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、たかしとお母さんとの話である。お手伝い等の代金５００円を請求したたかしに対して、お母さんはお金と共に０円の請求書を渡す。たかしの目は涙でいっぱいになる。指導に当たっては、学習テーマを「家族の気持ち」とし、自分が普段当たり前のように守られ支えてもらっている家族の愛情や苦労、そして、自分も家族の一員として家族をどう思いどう在るべきかについて考えることができるようにしたい。本時では、数名の保護者を招き、実際の声を聞くことで、子どもたちが実感をもって考えを深められるようにしたい。また、心のものさしを用い、母親の心を想像したり自分の立場から考えたりすることによって、その喜びや苦労についてより具体的に考えられるようにし、自分も家族の一員として、これからも家族を支えていこうとする態度を育てていきたい。

４　本時のねらい

友達や保護者とともに家族の気持ちについて考えることを通して、家族の支えに気付き、自分も家族の一員として家族を助け、共に温かい家庭をつくろうとする態度を育てる。

５　実際の板書

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （○主な発問◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	１　本時の課題をつかむ。 （１）家族のために自分がしていること家族がしていることを振り返る。 （２）本時の課題をつかむ。 家族の気持ちって…	5	○　家族のために自分がしていること、家族がしてくれていることを出し合う。 ○　家族は、どんな気持ちでしてくれているのかと問いかけ、本時の課題につなげる。
展開	２　教材文を読んで考える。 （１）なぜお母さんの請求書は０円だったのかを考える。 ○　どうしてお母さんの請求書は０円なのかな。 ・　当たり前のことだから ・　子どものためだから ・　子どもが大事だから ・　子どものためにやることが喜び （２）お母さんはどんな気持ちでたかしの世話をしているのかを考える。 ○　お母さんは、どんな気持ちでたかしのお世話をしているのだろう。 ・　元気に育ってほしい ・　子どもの成長がうれしい ・　笑顔を見るとうれしい ・　心配もある ３　自分を振り返って考える。 （１）自分の家族の「うれしさ、楽しみ」と「大変さ」について考える。 ◎　心のものさしがおうちの人の心の中だとして、嬉しい気持ちや楽しみな気持ちと大変さと、どちらが多いと思う？また、どんな大変さ、嬉しさや楽しみがあると思う？ ・　仕事が忙しいとき ・　体調が悪いとき ・　仕事と家事もやるのは大変 ・　やることがいっぱいで大変 （２）自分は家族のためにどんなことをしているか振り返る。 ○　自分は、おうちの人のためになることを、どのくらいしているかな。	15 20	○　お母さんの請求書を見たときのたかしの気持ちを押さえる。 ○　子どもが大事や大切という言葉が出たら、大事や大切とはどのようなことか立ち止まって考える時間をつくる。 ○　お母さんの気持ちについて、前向きな内容しか出されない時には、「お母さんはいつもうれしい気持ちで、楽しくお世話をしているんだね。」と問い返し、お母さんの苦労や大変さについても考えられるようにする。 ○　心のものさし（うれしい、楽しみ－大変）を用い、お母さんの気持ちについて具体的に考えられるようにする。 ○　「大変さ」については、グループで自分の考えを話し保護者の話を聞く。「うれしさ、楽しみ」については、保護者の話を聞く。その後、全体の場で、話を聞いて考えたことや思ったことを共有する。 ※　友達や保護者、それぞれの立場からの多様な感じ方、考え方を受け止め、自分の思いや考えと比べて考えている。（発言・態度） ○　心のものさし（いつもしている－していないことが多い）を用い、合わせて理由や経験も書き、自分の家族への関わり方についてじっくり見つめられるようにする。 ※　自分の生活を見つめ、家族に対する自分の思いを振り返って考えている。（発言、ワークシート）
終末	４　保護者からの手紙を読む。	5	○　保護者からの手紙を準備する。参加している保護者には、我が子へ直接手渡ししてもらう。

7　考察

児童の心に響く指導の工夫の視点から

（１）「保護者と共に考える授業の展開」について

○　知らない誰かの話ではなく、友達のお母さんやおばあさんの話なので、内容をより身近なこととして捉え、実感をもって聞き、その気持ちを感じることができた。

○　これまでに何度か保護者に授業に参加してもらったことで、子どもたちも保護者も共に学ぼうとする姿勢が自然にできている。「今日は、〇〇さんのお母さんと一緒に話すんだ」と張り切る様子もあり、温かい雰囲気の中、子どもたちと保護者が互いの話をじっくり聞いたり、それについて自分の考えをもったりすることができた。

○　参加した保護者からは、「各家庭それぞれの子どもへの愛情が伝わってくる温かい時間だった」「参観型の授業では感じ取れない子どもの考え、気持ちを知ることができてとてもよい機会だった」「改めて子どもの気持ちや親の気持ちに向き合うことで、より家族の絆が感じられた」などの感想があり、子どもと共に考えたり話したりすることのよさを感じてもらうことができた。

●　回を重ねると、毎回参加できる保護者が限られてしまう。子どもたちにとって安心感につながるが、参加できない保護者や保護者が参加できない子どもへの配慮が必要である。

（２）「自分を振り返る時間の確保と、心のものさしの活用」について

○　毎時間、振り返りの時間を十分に確保することを積み重ねてきたことで、自分自身をしっかりと見つめられるようになってきた。迷う自分や弱い心にも向き合い、自分に素直に語りかける姿があった。

○　心のものさしを活用したことで、白か黒かではなく、その間にある葛藤や迷い、複雑な気持ちにまで迫って考えることができた。

（３）「体験的、実践的な道徳教育」について

○　保護者からの手紙を読むことで、子どもは、自分が思っている以上に親が自分を大切に思ってくれていること、自分が家族のためにしていることが家族の喜びにつながっていることに気付き、感謝の気持ちとこれからの生活への意欲を新たにしていた。日々の生活の中で立ち止まり、改めて親の愛情を感じたり家庭での自分の在り方について振り返って考えたりする機会は、学校だからこそつくることができるものである。

○　帰宅後子どもは、手紙のお礼や感想をそれぞれ自分の言葉や方法で伝え、家庭でも保護者の思いや温かい言葉を聞くことで、子どもと保護者がさらにつながる機会となった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　本時では、手紙で保護者が普段感じている我が子のよさを伝えることができ、子どもたちは親が感じている自分のよさや家族の役に立っている自分を知ったことで、大きな励みになった。

○　自分を見つめ、書いたものを友達や保護者に進んで見せて、読み合う時間を設定したことで、多様な考えや経験に触れることができた。「同じようなことがあった。」「その気持ち分かる。」等、素直な感想を述べ合う姿が見られ、友達に受け止めてもらえることや友達の考えを知る安心感も得られた。

○　全校生が月ごとに同じテーマ（友情、思いやり、自分のよさ等）について、「自分の考えや経験を書き、保護者からコメントをもらう」という取組を行っている。道徳科に重ねて自分を振り返る機会となっている。保護者からのメッセージにより、子どもたちの気持ちが温められている。

●　自分の考えを言葉で表現することが苦手な子どもについては、授業において個別に声をかけたり活動や作業の様子を見取ったりしている。日常生活における教師や友達との関わりから、意図的に認め励ます場面をつくっている。

船引南小学校第４学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１２月３日（金）第５校時
授業者：田村市立船引南小学校　　教諭　藤間　薫

授業テーマ	**柔軟な発問で「つなぎ」、多様な考え方を生かす言語活動を通して、多面的・多角的に「見つめ」させる授業** **～「テーマ発問」で「子どもの問題追求的な思考」を仕立てるひと工夫～**

１　主題名　動物といっしょに生きる　Ｄ－（19）　自然愛護

２　教材名　「鳥にのこしたかきの実」（出典：小学道徳４年　光文書院）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

古来日本人は、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んできた。自然に親しみ、動植物の知恵や恩恵を受けながら、自然と一体となり、四季折々の美しさに情操を豊かに育んだり、動物に心癒されたりしながら生活している。また自然の中で形成されてきた文化財については、自然と人間とのよりよい関係性を象徴するものとして、大切に継承されてきている。現在環境破壊が地球規模で進む中、持続可能な社会の実現が求められているこの時代では、「自然愛護」は特に身に付けなければならない価値と言える。

（２）児童の実態について（子ども観）

子どもたちは、「相互理解、寛容」や「国際理解、国際親善」等の他の内容項目の道徳科の授業や総合的な学習の時間において、SDGs の視点から現代的な課題を自分たちの身近な問題と結び付けて発展的に考えていく学習を経験してきている。今回の「自然愛護」については、こうした現代的な課題と特に関連深い内容であるため、事前事後の学習における自然環境への課題意識の高まりも期待できる。このように知識や理解としての環境保全についての関心は高い。しかし、人間は自然や動植物を守る高次の存在であり、地球に住む生物の一員としての仲間意識や同列の存在であるという意識が低い傾向にあることが「人間が一番」「餌をやってやる」「危険な動物はいなくなればよい」などの普段の何気ない言動からうかがえる。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

柿を全て取ろうとした正夫が、鳥たちのために柿を残しておくのが大切と祖父に教えられたのをきっかけとして、動植物を大切にしていく意味を考え始める内容である。

導入では、写真から問題の所在を考え「テーマ発問」により、子どもたちの「問題追求の意欲」を高める。展開では、鳥側の視点で考えさせた上で、観念的理解に留まる正夫の様子を共感的に考えさせる。展開後段では、生活経験をもとに、テーマに迫る話し合いを展開させる。尚、動植物の保護・環境保全については、安易に結論を出さずに多様な見方や考え方があり、多面的・多角的な視点から考え続ける姿勢を促していく。

４　本時のねらい

対話や考えを深める学習を通して、自然や動物も人間と同じように生きていることが分かり、動植物を大切にしていこうとする心情を育てる。

５　実際の板書

6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点　　※　評価
導入	**1　問題と出会う。** ○　２枚の写真を見て、どう思うか。 ・　美しい ・　人間も動物もまずいことをしている。 **人間と動物はいっしょに生きることはできるのだろうか。**	5	○「道徳ホームワーク」により、事前に問題意識を高めさせた上で、意見を交流させておく。 ○　気がかりや疑問をもとに、子どもと対話しながら、問題を把握させる。
展開	**2　教材文を読んで話し合う。** ○　もしも鳥が柿を全部取ってしまったなら、わたしたち人間はどう思うか。 ・　頭にくる ○　正夫はどんな気持ちから「もう少しだけ取りたい」と言ったのか。 ・　自分の気持ちが優先 **3　これまでの経験をもとに振り返り、自分自身を見つめる。** ○　みんなも鳥を大切にすることはできそうか。 ・　大切にできるかも。 ◎　この写真（クマ）を見て、どう思うか。 ・　かわいそう。 ・　安全のため仕方なかった。 （１）ワークシートに記入する。 （２）心のボタンに考えを示す。 （３）お互いの考えを聞き合う。 ○　人間と動物はいっしょに生きることはできるのだろうか。 ・　工夫すれば、できるかも。 ・　このままでは難しい。 ・　もう少し考えたい。	３５ （15） （20）	○　テーマ発問を軸として、鳥の行動によって、人間はどう感じるかを自分と重ねて考えさせる。 ○「もう少しだけ」という言葉に着目させながら正夫の心情をハートカードで共感的に考えさせることで、微妙な心の動きを表出させる。 ※　正夫の心情について、自分の考えと友達の考えを比べて考えている。 （ワークシート・発言・観察） ○「つなぎの第一、第二発問」で教材離れをスムーズに行わせる。 ○「心のボタン」で自分の考えを表させ、理由を語らせる。さらに友達の考えとの共通点や相違点を確かめさせることで、テーマについての考えを深めさせる。 ○　話し合いの中で深まった考えをワークシートで整理させる。 ※　自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。 （ワークシート・発言・観察）
終末	**4　本時の振り返りをする。** ○「自然について不思議」と思ったことはあるか。 ・　２年「たんぽぽの知恵」	5	○　動物だけでなく、植物についての視点も広げさせる。 ○　既習事項を想起させることから、ホームワークでさらなる「自然の美しさや不思議さ」を探す意欲につながる提示をする。

7　考察

児童生徒の心に響く道徳科授業の工夫の視点から

（１）　「思考ツールの活用」について

○　登場人物の心情を考える際に、多様な色に置き換えて表出することができる「ハートカード」を活用した。塗る色を選んだり、心模様を考えたりしながら、人物の複雑な心の動きや微妙な部分について、じっくりと深く考えさせることができた。

○　「心のボタン」は、両脇に選択肢を置くことで、どちらに近いかを考えさせる「ひと工夫」である。自分の立場や意見の度合いが見えるので、他人との比較がしやすく、個々の考えの違いが明らかになるので、多面的・多角的に考え、自分の考えを深めさせるのに有効であった。

○　登場人物の挿絵をシルエットにすることで、自分自身をシルエットに投影しやすくなり、自分事として考えた意見を引き出すことができた。

（２）　「教師のコーディネートによる子どもの意見の表出」について

○　「動物に対する自分の思いを洗い出させる」事前のホームワークや「教材の事前読み」を実施した上で本時に臨ませた。そのことで「自然愛護」についての問題意識を高めさせることができた。

○　子どもの問題意識をもとに、「テーマ発問」を投げかけた。教材に対する発問を精査し、「心のボタン」を活用した対話の時間をより長く確保することができた。

○　教師の発問は「簡潔に」を心がけた。今回は、「答えが一つではない」テーマであるため、存分に意見を交流させながらも、ねらいを達成するための問い返しをおこなった。

【心のボタンを選ぶ】

●　板書の際には、意見を集約して示すなどの工夫が必要であった。

（３）　「他教科や SDGs の視点」について

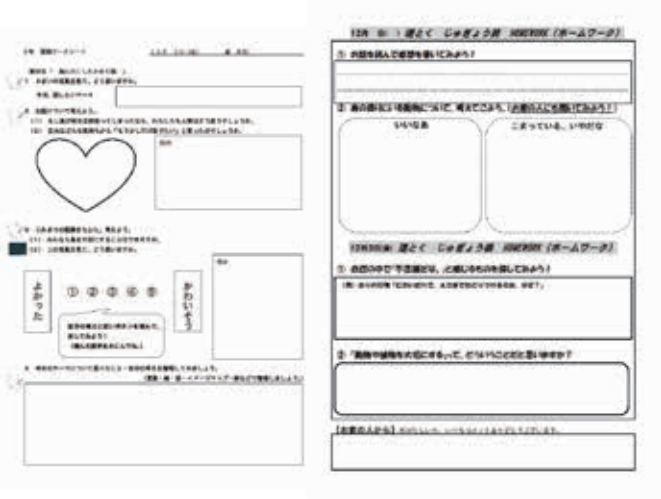
○　SDGs や他教科での学習を導入と振り返りで取り上げたことは、道徳的価値を発展的に深めさせるのに有効だった。内容項目の対象範囲は「動植物」である。授業では「動物」に絞って展開させたため、最後の説話で「植物」を提示することで両対象に触れて考えさせることができた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　「ハートカード」や「心のボタン」など、様々な「見える化」をワークシートに取り入れたため、評価の資料とすることができた。

○　ホームワークにより、授業内だけでは見えなかった心の変容や深まりが見えるようになり、評価の質を高めることができた。

●　家庭からのコメントや、取り組んできたホームワークの取扱については、子どもの内面に対する記述が含まれるために、慎重に取り扱う必要がある。



【ワークシートの表と裏で深める】

鮫川小学校第２学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時　：　令和３年12月２日（木）　第５校時
授業者：　鮫川村立鮫川小学校　教諭　久保木壮平

授業テーマ	考えを伝え合い、聴き合うことを通して、お互いを認め合い、仲良く助け合おうとする意欲を高めることができる授業

１　主題名　　仲良く助け合って　　Ｂ－（９）友情、信頼

２　教材名　　およげないりすさん　（出典：光文書院）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

友だちとの信頼関係は、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、学校生活や社会生活において、人がもつ考え方や興味関心、外見、得意・不得意などそれぞれに多様である。その多様さを理解して受け入れ、お互いを認め合おうとする心情を基盤として、他者との信頼関係を築き、協力し合って生活していくことが大切である。特に低学年という段階においては、友だちのよさや仲良く活動することの楽しさ、助け合うことのよさを実感できるようにしていくことが重要である。

（２）児童の実態について（子ども観）

本学級の児童は、授業や生活全般において、分け隔てなく進んで関わり合おうとする姿や、協力し助け合って活動しようとする場面が多く見られる。休み時間には、全員が自ら校庭へ出て友だちと元気に遊んでいる。「一緒に遊ぼう」と声を掛けたり、友だちとの関係を積極的に築けなかった児童が輪に入って遊んだりする姿も少しずつ増えてきた。その一方で、児童同士の対立場面が多く、自己中心的な感覚で言葉を発したり、気持ちにすれ違いが生じて関係が悪くなったりすることがある。相手の立場や心情を理解した上で言葉を交わすこと、対立場面においても統合的に考えて前向きに解決していこうとする気持ちが必要だと考えている。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、泳げるあひる・かめ・白鳥が、泳げないりすを仲間外れにして、泳いで島へ遊びに出かけてしまうという内容である。「島へ行きたい」という自分達の都合で断る場面や、置いてきてしまったりすのことが気になって楽しく遊べない場面は、児童にとって日常生活での場面と関連づけて考えやすい。島へ渡った３人が、りすがいないことで楽しくないと気づく時の葛藤場面を、児童と話し合いを進めながら明確にしていきたい。

指導にあたって大切にしたいことは、自他の違いを受け入れて認め合い、助け合っていくことで信頼関係を築くことができると気付かせることである。人それぞれの違いをよさや多様性だと捉え、認め合い、仲良く関わり合っていけるよう、発問や問い返し、自分事に置き換えて考える場面などを工夫して授業をつくっていく。また、今以上に仲が良くなるためにどんな考え方を大切にしたらよいのかを明らかにしたい。

４　本時のねらい

島で遊ぶ３人の思いを話し合うことを通して、お互いを認め合い、友だちと仲良く助け合って生活していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

５　板書計画（実際の板書）

６　本時の学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	1　本時の課題をつかむ。 ○　友だちと仲良く遊べたこと、力を合わせて頑張ったことはありますか？ ・昼休みにサッカーに誘ってくれた。 ・力を合わせ発表会の練習ができた。 ○　これからも仲良くしたいですか。 （どんな時も誰とでも仲良くできていますか。） ・できている。 ・けんかをすることもある。 （課）　もっと　なかよくなるためには？	5	○　日記の記述や帰りの会での発言、キラリカードへの記述を紹介したりすることにより、生活経験と課題を関連づけられるようにする。その中で「仲良くしたい」という気持ちを共有した上で、実際にはできないこともあったことを確認し、課題へつなげる。 ○　「できている」との回答が多い場合、「クラスに悲しい思いをしている人は一人もいないと言えるだろうか」と問い返し、けんかをした時や、友だちとの関わりで泣いていた人がいたことを想起させ、その矛盾に気付かせる。
展開	2　教材「およげないりすさん」を生かして、友だちとの関わりについて考える。 （1）　教師の範読を聞き、内容をつかむ。 （2）　登場人物の心情を考える。 ○　自分がりすさんだったら、心の中で何と言っているだろう。 ・置いていくのはひどいよ。 ・ぼくも島で一緒に遊びたい。 ・もう、まぜてくれないのかな。 ・もういいよ。一緒に遊びたくない。 ◎　３人の表情は？（楽しくなさそう）。島で遊ぶ３人は、どんなことを考えているのかな。 ・りすさんに、悪いことしちゃったな。 ・りすさん大丈夫かな。泣いているかも。 ・４人の方が楽しいのかもしれない。 ↓ ・４人の方が楽しいし、気持ちよく遊べる。 ・相手の気持ちを考えて行動する。 ・苦手なことはお互いに助け合う。 ・自分が悪いと気付いたら、正直に謝る。 ○　次の日はなぜにこにこ顔に変わったのかな。 ・声をかけて皆で遊んだから。 ・りすの気もちを考えて謝ったから。 3　生活経験と関連付けて考えを深める。 ○　今挙がった意見のように、友だちと仲良くできたこと、助け合えたことはありますか。また、その時どんなことを思ったかな。 ・一輪車を一緒に練習して、乗れるようになって「ありがとう」って思った。 ・力を合わせて劇の練習をして、本番で成功できて嬉しかった。	35 (5) (5) (14) (3) (8)	○　教材文への関心を高めさせるため、範読前に教材の始まりと葛藤場面の挿絵を提示して比較させ、その違いから場面の様子を想像させる。 ○　挿絵を提示しながら、一人ぼっちになったりすの表情を確認し「なぜ落ち込んでいるの？」と問う。 ○　翌日の謝罪に至る前の葛藤する心境を考えさせるため、一人ぼっちにさせた行為と、りすのことを考え始めた場面について、挿絵を確認しながら問う。 ※　多様な考えをワークシートに書き、考えを伝え合っている。　（意見、発表） ○「泳げないのだから仕方ないのでは？」「同じ島であれば、３人でも４人でも楽しさは同じなのでは？」「もっと仲良くなるために大切なことは？」などと問い返しながら、分け隔てなく仲良くすることの難しさやそのよさについて考えを深めさせる。 ○　３人が謝り、４人で島へ行った結果、楽しく遊べたことについて、児童に発言させながら押さえる。 ○　考えを書いた付箋紙を模造紙に貼らせる。似た考えの近くに貼ることで、必然的に友だちの付箋紙を読み、自分の考えと比較できるようにする。 ○　難しく感じる児童がいた場合は、教師の所へ集め、導入で紹介したものを再提示したり、児童と話したりすることで、場面を想起できるようにする。
終末	4　本時の学習を振り返る。 ○　今、心の中で考えていることをそのままプリントに書いてみてください。	5	○　難しさを感じている児童には書き出しの例を示す。 ※　お互いを認め合い、仲良く助け合って生活するよさについて自己を見つめ考えを深めている。（ワークシート）

7　考察

児童の心に響く指導の工夫の視点から

（１）主題や教材と自分を重ねて考えるための工夫について

○　誰もがもつ「仲良くしたい」という思いと、実際の生活ではできていない場面に気付かせ、課題へつなげた。

○　仲良くできた・助け合えた経験について発言させる以外に、日々の日記の記述や帰りの会での発言、キラリカード（友だちの素敵なところ）から端的に紹介し、生活経験を広く想起させた。

●　教師から問い返すのではなく、児童同士が発言し合う中で「できていない場面もあるのではないか」と気付くことができれば、自発的に課題意識をもつことができたと考えられる。

●　課題が設定された直後、教材文の内容へ入る際、挿絵を用いた先行オーガナイザーを取り入れたが、導入で設定した課題と教材文とのつながりをもたせるための工夫が必要であった。

（２）道徳的価値について理解を深められるような発問の工夫について

○　挿絵や板書を用いて主人公の状況を確認しながら発問したことで、すぐに書き（話し）始めることができた。

○　教材文の山場へ向かう直前部分の葛藤場面に中心発問を設定し、他の基本発問との軽重を意識した。中心発問に時間を確保したことで、仲間はずれにしてしまった側の３人の登場人物の葛藤する心情について多くの意見が出て、視点が広がった。

○　「～は心の中で何て言っているかな」「～時の３人はどんなことを考えているかな」のように、児童が教材文に自我関与できるように問い方を工夫したことで、主人公や登場人物になりきって発言することができた。

●　教師から問う場面や問い返す場面を精選し、さらに軽重をつける必要がある。

●　展開前段の終わりに「このお話を読んで（課題の）『もっと仲良くなるために』、どんなことが大切だと考えましたか」と発問した。考えたこと・話し合ったことを整理して、「友情、信頼」を多面的な視点で捉える点では効果があったが、展開後段へのつなげ方が難しかった。本時の学習のまとめに当たる部分を、学習過程のどの段階に位置付けるか、検討する必要がある。

●　展開後段では「仲良くできたこと・助け合えたこと」についてと、「その時どんなことを思ったか」を同時に発問した。書けている児童が多かったが、難しさを感じる児童に支援が必要となった。

（３）広がり・深まりのある話し合いにするための工夫について

○　書かせる場面を絞った。隣の席とのペア、立ち歩いてのペア、全体での話し合い、友だちの付箋紙を比較する活動などを通して、児童同士で多くの意見にふれることができた。

○　用意していた問い返しと、その場での問い返しを入れながら「友情、信頼」を他の内容項目の視点も含めて多面的に捉えられるようにした。

●　道徳的価値の深い理解へ促す発問の吟味や問い返し方、全体で共有するタイミングを工夫し、整理する必要がある。

●　挙手して発言したい児童がかなり多く、挙がった意見をほぼ全て板書したことで板書の量が多くなった。黒板に書く内容を精選したい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（１）学習状況について

・　授業中の発言から、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度が育まれているかを見取る。

・　全員の道徳ノートを読み、認め励ます視点でコメントを書くこと、板書写真を教室に掲示して日常生活と関連させること、教室に数名の道徳ノートのコピーを掲示することを、毎回の授業で継続した。

（２）道徳性に係る成長の様子について

・　本時の授業に関連づけて過去・未来の自分を見つめて考えを深めさせるため書く活動を終末に位置付けた。そのノート記録の継続的累積から、子どもの成長を見取ることにつながった。

・　複数回、校内研修として互見授業を行った。複数の教師に子どもの授業での発言など様子を参観することで、担任のみでは気づかなかった子どもの成長の様子を見取ることにつながった。

湯川中学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１１月１０日（水）第５校時
授業者：湯川村立湯川中学校　教諭　渡部　摩子

授業テーマ	思いやりについてさまざまな立場から考えることを通して、相手の立場を思いやり、それを能動的に示す大切さを考えることができる授業

１　主題名　社会の中の思いやり　Ｂ－（６）思いやり、感謝

２　教材名　「バスと赤ちゃん」（出典：日本文教出版　中学道徳「あすを生きる」①）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について（価値観）

人間は他者との関わりの中で、助け合い協力しながら生活している。しかし、困っている人に対して、無関心を装ったり、打算的に損得を考えて行動したりするなど、希薄な人間関係に基づく利己的な行動が目につく世の中になってきている。このような社会的風潮の中で、他者を思いやって、自ら行動することが社会を支え、その経験が人の中に思いやりの心や感謝の心を育んでいくことを自覚できるようにすることが大切である。本時では、仲の良い関係だけでなく、学級、学校、社会という広い視点で思いやりを示そうとする態度を育てたい。

（２）生徒の実態について（生徒観）

男子２３名、女子９名の学級で、２つの小学校から入学してきた生徒たちで構成されている。男女の比率がかなり偏っているクラスではあるが、基本的には性別にかかわらず仲良く学校生活を送っている。しかし、仲の良い友達の間では他者を尊重する姿勢が見られても、そうではない友達に対しては、相手の立場を思いやれない言動が見られることもある。このことはＱ－Ｕの結果にも出ている。２学期も半ばを過ぎ、学級内の新しい人間関係をより深めていく時期でもあるので、特定の人間関係にとどまらず、誰もが共にかけがえのない存在であることに気付かせたい。また、思いやりを言葉や行動にして素直に伝えようとすることが、いつも一緒にいる友達だけでない広い関係性においても、心の絆を強くすることについて考えることができるようにしたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

混雑したバスの中で突然泣き出した赤ちゃんの母親が乗客に気を使い、バスを降りようとする。その気持ちを察したバスの運転手が機転を利かせたアナウンスを行い、運転手の思いやりにバスの乗客全員が拍手で賛同するという心あたたまる話であり、「思いやり」という主題を多面的・多角的に考えることができる教材である。指導に当たっては、母親、運転手、乗客の立場から思いやりを多角的に考えさせたい。また、思いやりの気持ちを伝えるためには、運転手や乗客の一人のように、能動的な行動を示すことの大切さにも気づかせたい。さらに、そういった人と人とのつながりが、人の心に感動や感謝の気持ちを生むことにつながることにも触れたい。

４　本時のねらい

運転手と乗客の共通点を考える活動を通して、人間愛の精神を持って、思いやりの心を能動的に示そうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

５　板書計画

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	１　満員のバスの中で、赤ちゃんの泣き声が響きわたる状況を想像し、主題への見通しをもつ。 ２　本時の学習課題を把握する。 思いやりについて考える。	５	○ＩＣＴ機器を活用し、満員バスの写真を提示する。 ○赤ちゃんの泣き声を聞かせ、教材の話の状況を考えられるようにする。 ○この状況下の中で、自分はどのような気持ちになるか考えさせる。
展開	３　教材「バスと赤ちゃん」を読んで考え、話し合う中で、多様な意見を共有し合う。 ○運転手のアナウンスから拍手が広がった場面で、母親、運転手、乗客はそれぞれの気持ちを考える。 ・母親→乗客 「みなさん、ありがとう。」 乗客→母親 「お母さん、乗っていていいですよ。」 ・運転手→母親 「お母さん、大丈夫ですよ。」 母親→運転手 「運転手さん、ありがとう。」 ・運転手→乗客 「協力をお願いします。」 乗客→運転手 「すばらしいアナウンスですね。」 ・乗客→乗客 「みんな、協力しよう。」 ◎バスの運転手さんと最初に拍手をした人の共通点はなんだろう。 ・考えたことをすぐに行動に移す。 ・勇気がある。 ・困った人を助けたい。	３５	○「登場人物の心情」という視点を示して範読を聞かせることにより、話し合いの見通しをもたせる。 ○母親、運転手、乗客のそれぞれの立場から相手を思う気持ちを考えさせ、言葉にすることにより、思考の幅を広げられるようにする。 ○ペアで話し合いをさせる。 ○机間指導やＩＣＴ機器で生徒の考えを見取り、全体で共有できるようにする。 ○それぞれの立場での思いを対比するように板書し、可視化できるようにする。 ○困っている人に対して、能動的に行動できる二人の生き方の共通点を考えさせる。 ○個人で考えさせた後、グループでそれぞれの考えを共有させる。 ※２人の共通点を、その時の２人の思いや考え方を通して、様々な角度から考えているか。 （発表・記述）
終末	４　本時を振り返る。 （１）学習を通して感じたことをワークシートに記入する。 （２）教師の説話を聞く。	１０	○本時の学習を踏まえ、社会の中での思いやりの大切さについて自分のこととして考え、それを実践するよさを確認できるようにする。 ※思いやりを行動に移す大切さを自分事として捉えようとしているか。（発表・記述）

7　考察

児童生徒の心に響く道徳科授業の工夫の視点から

（１）「問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れることで課題を「自分事」として捉えることができるようにする」について

○　満員バスに乗車したり、交通機関で高齢者などに親切にしたりすることがあまり身近ではない本校の生徒たちにとって、教材の状況を想像することは難しいと考えた。そこで、展開時の課題を「自分事」として考えやすくするために、学校のロッカールームを使って実際に満員バスの状況を体験させた。そのことにより、教材の状況をある程度理解して考えることができた。

●　「思いやりの心を能動的に示す大切さ」について生徒たちに考えさせることにこだわってしまい、「このような状況のとき、自分はどのように考えただろうか」という「自分事」として捉えさせる手立てが不十分だった。思いやりを言葉や行動で示したバスの運転手や最初に拍手をした乗客のみに着目させてしまったので、一部の生徒たちの中では「そういう人たちはすごい」と他人事になってしまい、自分との関わりで考えを深めることができなかった。

（２）「議論や対話の場において、ＩＣＴの活用や板書を工夫することで、自己を見つめ多面的・多角的に考える力を広げることができるようにする」について

○　登場人物のさまざまな立場での心情をペアやグループで考えさせたことは、お互いの考えを共有することにつながり、多面的・多角的に考えさせることに有効であった。

○　ＩＣＴ機器の活用で、自分の考えと他の人の考えを可視化することができ、お互いの考えの共通点や違いを比較しながら話し合うことができた。

●　多面的・多角的な見方へ発展させるために、教材の状況に対する生徒の素直な考えも取り上げるなど、意図的指名により多様な価値観にふれることができるようにしたり、問い返しにより、考えの奥にある思いを表出させたりすることで、「考え、議論する道徳」を実践していくことが、今後の課題である。

（３）「生徒が自分との関わりで考えることができるように、振り返りの場を工夫する」について

○　振り返りでは、社会の中での思いやりの大切さを自分のこととして捉え、それを実践するよさを確認できた生徒が多かった。

●　振り返りの時間を十分に確保するためには、話合いの適切な時間配分、内容の焦点化を図ることが必要であった。

●　感想を伝え合う場面があれば、更に多面的・多角的に考えることにつなげることができた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　ワークシートに授業に対する自己評価を入れ、毎時間授業を振り返る時間を設けている。また、感想には必ず朱書きでコメントすることで、生徒一人一人の考えを認め、評価につなげている。今回の授業では、「思いやりの心を積極的に行動に表していきたい」という感想も多かった。

●　生徒が日常生活の中で感じている「思いやり、感謝」についての体験や考えを想起させるなど、自分との関わりで「思いやり、感謝」について考えることができるような授業の実践をしていきたい。

下郷中学校　第２学年道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１１月１５日（月）　第５校時
授業者：下郷町立下郷中学校　教諭　中島　史弥

授業テーマ	地域の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりしながら、郷土に対する意識を深め、郷土を愛し、進んで地域の発展に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる授業

１　主題名　郷土を思って　C―（１６）郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度

２　教材名　「和樹の夏祭り」（出典：「中学道徳２　明日を生きる」　日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、内容項目 C-16「郷土愛」をねらいとするものである。学習指導要領「16 郷土の伝統や文化の尊重、郷土を愛する態度」には、「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること」と示されている。郷土や地域伝統をつなぐとはどういうことかを考えさせ、地域で行われている伝統行事や伝統文化の意義についても改めて考えさせることで、郷土の発展のために自分が寄与しようという意識を高めることをねらいとした。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

本学級には、郷土に対して、下郷町のよさを実感しきれず、将来、町外に出ることを決めている生徒、また、郷土の祭りや伝統行事は開催するのが当たり前と思っている生徒がいる。また、下郷町に対する意識として、「好き」であり「よりよくしたい」が「どうすればよいかわからない」と考える生徒も多い。

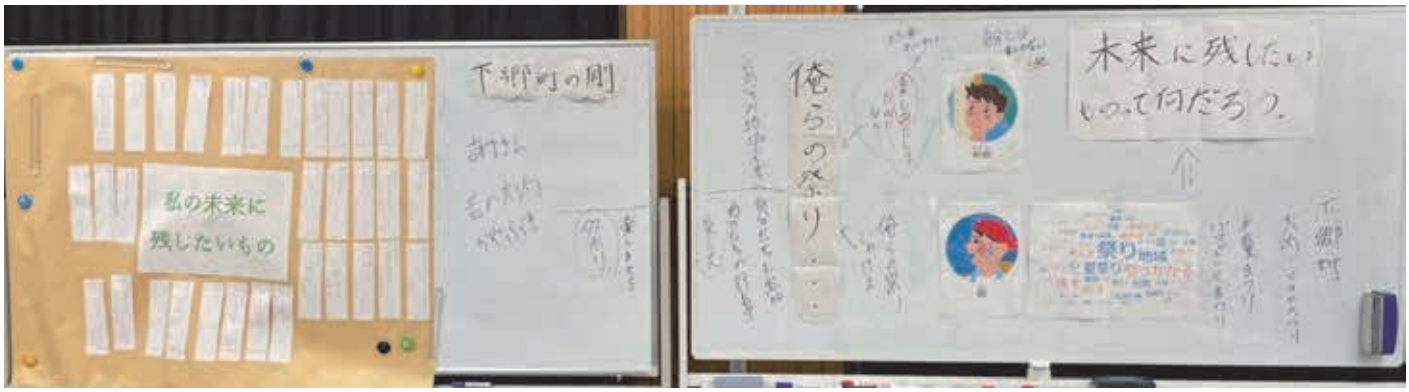
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

導入において、下郷町のよさや伝統行事、伝統文化などを挙げさせながら、地域に対する素直な想いを引き出す。教材「和樹の夏祭り」から、夏祭りに対する和樹と剛の態度の違いや関わり方の違い、また、地域教材を活用して下郷町の先達の生き方に触れさせることで、「地域の伝統をつなぐ」とはどういうことか一人一人に考えさせる。それにより、地域の一員としての自覚をもたせ、郷土に対する自己の認識を深めさせたい。

４　本時のねらい

和樹の「俺らの祭り」という一言がひっかかった理由を考える活動を通して、地域の一員として、郷土の伝統や文化への自らの関わりを振り返り、郷土に対する自己の認識を深め、進んで地域の発展に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



６　学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点　◆評価
導入	１　地域のよさや伝統などについて確認する。 「未来に残したいものって何だろう」	８	○　総合的な学習の時間のアンケートを提示して、下郷町の長所や短所、伝統文化などを確認するとともに、下郷町に対する生徒の意識を引き出しながら、本時の課題へ結び付けていく。
展開	２「和樹の夏祭り」の内容を話し合う。 （１）地域の夏祭りの中止を聞いて、和樹はどんなことを考えたか。 ・　自分の地域の祭りがあれば、妹の面倒を見る必要もなかったのに。 ・　友達と存分に楽しめない。 ・　地域の祭りが中止になった原因に腹が立つ。 （２）「俺らの祭り」という一言が、和樹の心に引っかかったのはなぜか。 ・　自分たちの地域の祭りは、「俺たちの祭り」と堂々と言えないから。 ・　運営にも参加し「俺らの祭り」と堂々と言える剛に比べ、自分は地域の祭りに客として楽しむだけで、中止になった文句しか言わず、情けないと思った。 ３　地域の伝統をつなぐとは、どういうことか考える。 （１）吉村さんが頑張れた力の源は何か。 ・　地域を活性化させたい。 ・　伝統を残したい、守りたい。 （２）茅葺き屋根職人に弟子入りすることを決意したことについて、自分だったらどうするかを考える。 ・　自分にはそこまでの郷土に対する愛がないから仕事を辞めれないかも。 ・　下郷のためなら同じようにやめて職人になる。	３５	○　内容を捉えやすいように、あらすじを生徒とともに確認する。 ○　それぞれの考えをタブレットを活用して共有することで、和樹の祭りに対する想いについて気付くことができるようにする。 ○　和樹と剛、それぞれの地域に対する行動の違いに気付かせ、地域のために行動する奥にある思いを考えさせる。 ◆　郷土について友達と自分の考えを比べたり様々な立場から考えたりして、多面的・多角的に考えている。 ○　地域の文化を保存した先達の話を紹介する。（大内宿　吉村徳男さん） ○　吉村さんが、茅葺き屋根職人になることを決意した、その源となった理由を考えさせ、郷土に対する認識を深める。 ○　問い返しや意図的指名により、郷土に対する思いを表出させる。 ○　いろいろな意見を引き出しながら、地域の伝統をつないでいく多様な思いに触れさせていく。 ◆　郷土に対する自己の認識を深め、地域の発展について考えようしている。 （発言・表情・Jamboard）
終末	４　自分にとっての未来に残したいものとは何か考える。	７	○　これからの下郷町への思いを書かせながら、本時の学びを今後の自分の生き方に反映させる。

7　考察

児童生徒の心に響く指導の工夫の視点から

（1）『生徒の実態から、生徒の課題意識を持たせる「中心発問」の工夫』について

○　総合的な学習の時間で「地域の伝統やよさ」を学習していることをもとに、自分の生活経験と結び付けて考えさせたことにより、自分事として課題を捉え、授業に臨んでいた。

○　より問題意識を高める発問となるよう、事前に資料読後の感想をまとめ、それをもとに中心発問を吟味する手立てを講じたことは効果的であった。

●　物事を広い視野から多面的・多角的に考えることできる発問や発問からの問い返しの構成を検討したい。

（2）『議論が深まるよう，「心情円」や「ハート図」などの思ツールを活用し、自分の考えを他者に伝え，多様な考えに触れる活動の工夫』について

○　ＩＣＴ機器を活用して互いの意見の共有を行ったことは、その後の全体での議論を深めるために効果的であった。

●　自分と他者の考えの相違点や誰の考えかが分かることで、その後の議論がより円滑になったと考える。ＩＣＴ機器の効果的な活用法をさらに検討したい。

●　議論を深めるためには、思考ツールにより見取った個々の考えをコーディネートすることが重要であり、その方法について工夫を講じていきたい。

（3）「自己を見つめ、実生活の自分と主題を重ねることができる振り返りの工夫」について

○　「自分にとって未来に残したいもの」を考えさせ、模造紙にまとめることで、本時の振り返りとした。他者の多様な考えに触れ、郷土に対する認識を深めていった。

●　短冊を模造紙へ貼る活動に時間を要した。内省する時間を十分に確保するためにも、ＩＣＴ機器の有効な活用を図りたい。

●　自己を深く見つめさせるためには、議論を深める工夫が必要である。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（1）『生徒の考えの変化を「可視化」する工夫と振り返りの時間の十分な確保』について

○　ＩＣＴを活用し、どの生徒の考えも全体で共有できるようにした。

○　振り返りの時間を確保し、その方法を工夫したことにより、自分の考えを深めることができた。

（2）「生活と照らし合わせて、自分事として考えさせる発問の工夫」について

○　終末の「未来に残したいものは何か」の発問により、これまでの日常生活を振り返ったり、結び付けたりしながら自らの考えをまとめる生徒が見られた。

●　振り返りの発問を十分に吟味し、生徒一人一人が学びを実感できるものとしたい。

（3）評価の視点を明確にした記録の累積

●　自分自身との関わり中で、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるために、その方法や見取りについて工夫していく必要がある。

尚英中学校第２学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１１月１０日（水）第５校時
授業者：新地町立尚英中学校　教諭　平塚　健次郎

授業テーマ	ICT を有効活用し、自己の思考過程をまとめ、自信を持って表現することのできる生徒を育成する授業の実践

１　主題名　友情を育てるために　B（８）友情、信頼
２　教材名　ゴール（出典：東京書籍　「新訂　新しい道徳２」）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学生にとっての大きな悩みの一つが、友人関係がうまくいかないことである。気兼ねなく、何でも相談できる友達がいることは、人に幸せを与えてくれるが、時に相手に対する配慮が欠け、友情にひびが入ってしまうことがある。そういった困難を乗り越えて、友情を深めていくためには、コミュニケーションをとることが重要となってくる。人とのかかわりの中で生きていく人間にとってコミュニケーションをとることは必要不可欠である。互いの正しい理解によってより豊かな人間関係を築くことの大切さについて改めて考えることで、より一層深い友情を構築しようとする意欲や態度を育てていきたい。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

本学年は、友人に対して気兼ねなく接することができる生徒が多い。しかし、それゆえに相手の気持ちや状況を考えずに発言してしまい、トラブルに発展したケースが多くある。また、コミュニケーションが不足したために、友人関係の構築がうまくいかず、悩んでいる生徒が多い。今回の主題に関して、本学年の生徒は、コミュニケーションをとることは、友人関係を構築するうえで大切であるということは理解しているが、実践はできていない現状がある。自身を振り返り、改めて友人関係を構築するということについて理解し、実践していく意欲を高める必要がある。

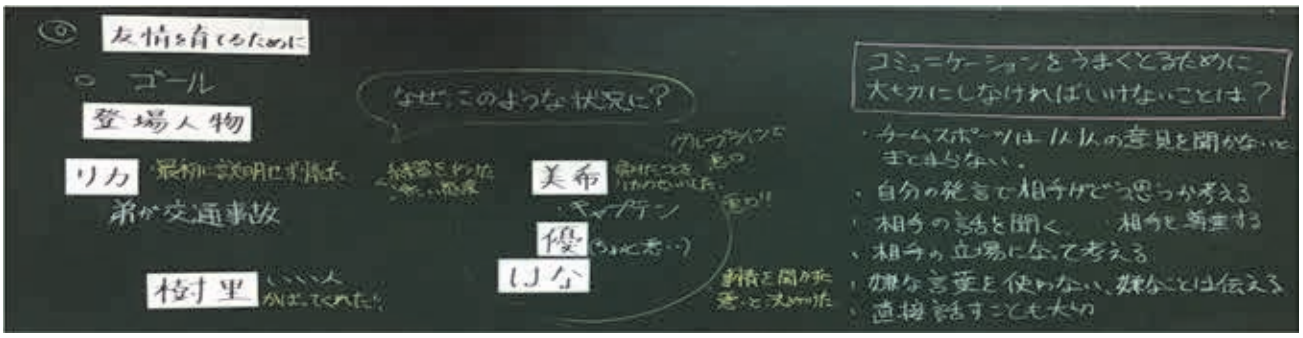
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、バスケットボールに所属する５人の女子中学生の物語である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたててしまいチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだと知った４人は、リカを誤解していたことをすまなかったと感じる。友情を育てるために大切なことについて深く考えさせることができる教材である。そこで本時は、友情を育てるために互いの正しい理解によってより豊かな人間関係を築くことの大切さについて考えることで、友情を深めようとする態度を育てていきたい。

４　本時のねらい

登場人物５人の関係について話し合うことを通して、友情を育てるために必要な互いを正しく理解することの大切さについて考えることで、友情を深めようとする実践意欲を育む。

５　実際の板書



6　学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○　教師の指導・支援　評価（方法）
導入	1　本時の授業の見通しをもつ。 (1)　事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。 ①　友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。 ②　友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。	5	○　事前に行ったアンケートを確認することで、学級の実態を把握することができるようにする。 ○　今までの友人との接し方について振り返ることで、当事者意識を持って、本時のねらいについて考えることができるようにする。
展開	2　資料の範読を聞き、意見を交流する。 (1)　範読を聞き、登場人物の関係を整理する。 (2)　トラブルが起きた原因について考える。 ○　なぜ、このような雰囲気の悪い状況になってしまったのか。 ・　リカが理由を伝えなかったため、誤解が生じたから。 ・コミュニケーションが不足したから。 ○　コミュニケーションは大切であるが、なぜ、5人はコミュニケーションをとることができなかったのか。 ・　相手が悪いと決めつけていたから。 ・　相手に遠慮していたから。 ・　焦っていて、相手を気遣う余裕がなかったから。 3　友人関係を構築するうえで、大切にしなければならないことについて考え、意見を交換する。 ◎　互いを理解する、コミュニケーションをうまく行っていくために大切なことは何か。 ・　相手をおもいやること。 ・　相手の立場や状況を考えること。 ・　相手を信頼すること。	7 5 10 15	○　教材を範読し、問題場面を焦点化することで、トラブルに焦点を絞って考えることができるようにする。 ○　トラブルの原因について考えることで、コミュニケーションは、友人関係を構築するうえで必要であることに気づくことができるようにする。 ○　コミュニケーションは大切であるという既存の概念を基に考えることで、コミュニケーションの大切について改めて気づくことができるようにする。 ○　登場人物である5人の気持ちや状況について考え、共有することで、原因について多面的・多角的に考えることができるようにする。 ○　互いを理解することについて、話合いを通して考えを深めることができるようにする。 ○　協働学習支援ツールを活用し、教師が生徒の意見を把握できるようにする。
終末	4　友人関係に悩む友達（自分）への手紙を書き、教師の説話を聞く。 ○　友人関係がうまくいかない友人（自分）に手紙を書くなら、何と書きますか。	8	○　友人関係についての考えを手紙に書くことを通して、本時の活動を通しての考えを整理することができるようにする。 登場人物5人の関係について話し合うことを通して、友情を育てるために互いを理解することについて、考えを深めるているか。 （発言・協働学習支援ツール）

7　考察

児童生徒の心に響く指導の工夫の視点から

（１）「学習支援ツールを有効活用し、自らの考えを可視化する指導の工夫」について

○　教師側も､生徒がどんな意見を持っているのかを一目で把握することができるので、意図的な指名がしやすくなった。自分からは積極的に意見を発表することが難しい生徒も、生徒に確認を取りながら指名をすることができるので、結果として、意見交流が活発になった。

●　打ち込みに時間がかかるクラスであると、無言の時間が多くなるので、話合いの場面がきちんと作られるように、対面での話合いを中心として、ＩＣＴを補助的に使うなどの実態に合わせた活用が大切である。

（２）「話合いを深めるための発問の工夫」について

○　導入部分の発問を、フォームのアンケート機能を活用し、その結果を即時フィードバックすることで、生徒は道徳的価値の問題を自分事として捉え、考えをもつことができた。本授業では､「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはありますか。」という問いから、約７割の生徒が「はい。」と答え、コミュニケーションの大切さは自覚しているのになぜそれがうまくいかないのかという話し合いに結びつけていくことができた。

○　ワードクラウドやテキストマイニング等の機能を使いキーワードを抽出することで、生徒が発問に対してどのような意見を持っているかがすぐに分かり、その結果から追加発問がしやすくなった。

●　生徒にとって現実場面に即した発問を考えるように考慮したが、漠然とした発問になってしまう場合もあれば、発問が現実味を帯びすぎて、生徒が初めから求められている答えを予想して意見を述べてしまう場合があった。今後はその発問からどんな答えが予想されるかを他の教員と吟味し、発問の仕方にバリエーションを持たせていきたい。

（３）「話合いを活性化させるための学習形態の工夫」について

○　４人グループの話合いやトリオ学習を行うことで､生徒はペアでの会話だけでなく､様々なクラスメイトの意見を参考に話合いをするようになり、自信を持って意見を述べる生徒が増えた。

●　話合いがを進めることが難しいグループもあった。日常的にどの教科でもグループ学習での話合いを進めたり、支援するための手立てを工夫したりする必要がある。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　生徒が学習支援ツールを使用して書き込んだ意見に、教員側がコメントを書いていくことで、生徒は端末上で常にそれを確認することができた。またそれが端末上に保存されていることから、教師・生徒共に、自分の成長を見取ることができた。

●　紙媒体のワークシートと比べると、途中のメモを記録しておくことが困難なので、後に評価する際に、生徒の思考過程の変化を読み取ることができなかった。紙媒体の方が、評価の際に生徒の変化を見取りやすい。

●　振り返りとして､友人関係がうまくいかない自分への手紙を書く活動を設定したが、「友情、信頼」の内容項目について自分との関わりで考えているか見取る難しさを感じた。今後は振り返りの在り方を工夫し、授業で見られた発言等をどのように見取っていくか、学校全体で考えていきたい。

好間高等学校第１学年　総合的な探究の時間の実際と考察

日　時：令和３年１１月９日（火）第５校時
授業者：福島県立好間高等学校　教諭　鈴木裕一　他

【道徳教育との関連】
本単元を通して、勤労に対する価値観が多様化する中にあっても、勤労を通して社会に貢献することの大切さを自覚し、充実した生き方を追究し実現していくことができるようにしたい。また、勤労の貴さや意義についての考えを深めると共に、自己の将来を見据え、そのビジョンを描く意欲を見いだしていくことができるようにする。

１　単元名

職業や自己の進路に関する学習～インターンシップを通して～

２　単元の目標

インターンシップ及びその事前・事後の諸活動を通して、自己肯定感や自己有用感を獲得させるとともに、自己の進路に対する意識の高揚を図る。

３　単元設定の理由

（１）単元について

インターンシップを通じて、生徒たちは働くことの意義について考えることになる。そこから学ぶことは、生徒たちが、激しく変化するこれからの社会を生き抜いていくための基礎となる能力や態度を育み、生徒一人ひとりが希望する進路の実現を果たしていくための手立ての一つとなると考える。

主体的・対話的で深い学びの実現を目指す体験活動等を取り入れながら、生徒に自己肯定感や自己有用感を獲得させ、今後の高校生活の一助とさせたい。

（２）生徒の実態について

本校の生徒は総じて純朴で真面目であるが、親からの愛情の不足、承認欲求の欠如等により、自分に自信が持てない傾向にある。そのため望ましい人間関係を構築できない生徒もいる。そこで、本校が実践する「心と身体を鍛える教育」という観点から、何かに挑戦する態度や、他者との望ましい関係を築く態度を身につけさせたい。

（３）教材観及び指導観について

インターンシップに関する資料「インターンシップを終えて」に基づき、グループでの言語活動の場を設定し、他者の考えを共有しながら多角的・多面的な見方・考え方に気づき、自分の考えと他者の考えを比べることを通して、自分の将来の進路実現への意識を高めさせたい。

４　単元計画

時	主な活動	主な学習内容
1	インターンシップ事前指導（全体）	職場における心構えやマナーについて理解する。
2	インターンシップ事前指導（事業所ごと）	職種ごとの留意点について調べ、理解する。
3～20	インターンシップ（３日間）	自分の計画により試行錯誤しながら様々な活動に取り組む。
２１	地域清掃活動	テレビ番組企画で県内の清掃活動を続ける俳優の鈴木文健氏の思いにふれ、活動のよさを味わう。
２２	インターンシップ事後指導	各職場での体験を振り返り、記録をまとめる。
２３本時	インターンシップのまとめ	インターンシップを通じて学んだことを交流し、進路実現に向けて意欲を高める。

５　単元の評価規準

（１）　インターンシップでの体験活動や、事前・事後の活動において、職業観や今後の自己の生活について、多面的・多角的に捉えられているか。（思考・判断・表現）

（２）　自分の将来のビジョンを明確に描くことができているか。（思考・判断・表現）

６　本時のねらい

インターンシップの活動を振り返り、そこで学んだことを他者と共有する活動や、グループ内で意見を集約し発表する活動を通して、進路意識の高揚を図るとともに、望ましい人間関係を育てる。

７　指導過程

段階	学習内容・活動	時間（分）	◇指導上の留意点　◆評価規準 ●サポート教師の動き
導入	１　本時のテーマの確認 今後の進路実現へつなげるために、インターンシップを通じて学んだことをまとめ、全員で共有する授業	５	◇学年授業として、体育館で実施する。グループごとに話し合い活動ができるよう座席等の配置を工夫する。あわせて、準備物（配付資料・付箋・ペン）も用意する ◇本授業のテーマを全体で確認する。
展開	２　インターンシップで何を学び、活動の前後で自分の職業観がどのように変化したのかを付箋（赤色）に記入し台紙に貼る。 書かれた内容を互いに見合う。	１５	◇「働くこと」とはどういうことなのかが明確になるように記述させる。 ●生徒の様子を見ながら適宜アドバイスやフォローをする。 ◆インターンシップで学んだことや職業観の変化について、他者の考えに触れることを通して、多角的・多面的に捉えることができたか。 （行動観察・付箋への記述）
	３　グループごとに、進路実現のために必要なこと、そのために高校生活において心掛けることについて話し合い、まとめる。 (1)　進路実現のために必要なことについて、自分の考えを付箋（青色）に記入し台紙に貼る。 (2)　高校生活において心掛けることについて、自分の考えを付箋（黄色）に記入し台紙に貼る。 (3)　リーダーを中心に、グループ内の意見を集約し、グループとしての考えをまとめる。	１０ １５	◇各グループのリーダーを中心に話し合いを進めさせる。 ●話し合いがスムーズに進んでいるかを観察しながら、必要に応じてフォローする。 ◆自分の将来のビジョンを明確に描くことができているか。 （行動観察・付箋への記述）
	４　グループでまとめた内容を全体に発表して共有する。		◇各グループ約２分程度で、まとめた内容を発表させる。
まとめ	５　本時のまとめ 教師の話を聞く。	５	◇生徒が理解しやすい言葉を使って話し、進路への意識の高揚を図る。

８　考察

生徒の心に響く指導の工夫の視点から

（１）「生徒自身が興味関心をもち、主体的に考えられるような課題を見つける」について

○　インターンシップを経験したことで、生徒自身が自分の職業観について学んだことやこれからに必要なことを主体的に考えることができた。

○　自分の考えていることを書き出すことで、客観的に物事を見ることができた。

●　全員が必ずしも主体的、積極的に取り組んでいるとはいえなかった。そのような生徒には、適切な言葉がけなどの支援があれば、より効果的であった。

（２）「グループ活動を通して、多様な見方や考え方に触れ、物事を多面的・多角的にとらえる視点を培うようにする」について

○　ＫＪ法により自分の考えを書き出し、グループ内で共有することにより、多様な考え方に触れ、多面的・多角的に捉えることができた。

○　他者の考え方を、見たり聞いたりすることで、自分の考えと比べたり、着眼点を増やしたりすることができた。

●　発言をする生徒が偏ったり、発言内容が似たようなものになってしまったりした。話し合いをより有効化し、円滑に進めるための手立てについて検討する必要があった。

（３）「自分の考えを明確にもつとともに、他人の考えを取り入れながら、課題解決への最適解を検証し、自分の考えをさらに深める」について

○　各グループにリーダー性を持った生徒を配置し、その生徒を中心に意見の集約が図れるよう工夫した。普段は物静かな生徒もリーダーに促され、自分の意見を積極的に発言しながらグループ学習に取り組む姿が見られた。

○　各グループで集約した意見を、全体で共有することで、今後の高校生活で必要なことや心掛けることを、より深く認識することができた。

●　グループの意見をまとめる時間が足りなかった。もう少しまとめを深める時間があれば、より中身の濃い発表になったと思われる。

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　教師間の打合せを丁寧に行い、本時の働きかけに生かした。インターンシップ時に見取った一人一人の活動の様子や、普段の日常生活における生徒の様子から励ましたり、考えを広げたりするような言葉かけをすることで、議論を活発にするとともに、生徒の主体性を引き出したり自分自身のよさに気付いたりできるようにした。これにより、生徒は自分の進路を考え「勤労」について自己を見つめる姿が見られた。

○　少数派の意見であっても、それを排除することなく認め、受け入れることで、自分の意見に自信を持つことができ、普段物静かな生徒も積極的に自分の考えを表現することができた。

●　今後は、本単元での成果と課題を生かし、他教科等においても道徳教育の内容項目について関連を図り、「認め、励ます評価」を意識的に取り入れる等して、生徒が自己肯定感や自己有用感をもって学習に向き合えるようにしていきたい。

石井小学校第５学年　学級活動（２）学習指導の実際と考察

日時：令和３年１２月１日（水）第５校時
授業者：二本松市立石井小学校　教諭　髙島柚香

授業テーマ	保護者の話を聞き、成長を振り返る活動を通して、一人一人がかけがえのない存在であることを実感するとともに、命を大切にするために自分にできることを実践しようとする意欲を高めることができる授業

１　題材名　「２０１０年・２０１１年生まれのわたしたち」
学級活動（２）　ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

２　題材について

（１）　児童の実態（子ども観）について

子どもたちはこれまでに、理科で生命の誕生、道徳科では命を大切にすることや家族愛について学んできた。授業を振り返ると、家族が自分のことを心配していることは理解しているが、家族の深い思いを想像するまでには至っていない状況である。また、東日本大震災の年に生まれた子どもたちであるが、当時の様子や、家族がいかに自分たちを守り生きようとしていたかについて保護者から話を聞き、自身の成長を振り返る経験は少ないと感じている。そこで、教科等の学習で機会を捉えて触れるようにしてきた。

（２）　題材設定の理由につて

自分たちの身体や生命の大切さを、各教科等の学習と関連付けながら継続的に指導していくことは、「生きる力」の基盤をつくるうえで非常に重要であると考える。また、自分を育ててきた保護者の思いを介しながらこの学習をすることは、健康で安全な生活態度の形成だけでなく、自己肯定感を高め、自分の人生をよりよく生きようとする気持ちを育てることにもつながると考える。大震災から１０年という節目の今、震災の年に生まれた子どもたちが、保護者の思いや当時の行動の事実にふれることで、一人一人が自分の命について振り返りながら考えることは、大変意義深いものと考える。

指導にあたっては、学習テーマを「命をかがやかせるためには」とし、愛され守られてきた自分たちはこの命をどのように生きていったらよいか、という問いに焦点を当てる。自分は命を大切にするために、具体的に何ができるのかを考え、実践しようとする意欲を高めたい。また、数名の保護者を招き、保護者の思いを直接聞くことで、自分だけでなく他者も同じように支えられ守られながら育ってきたことを理解し、自他を大切にしながら生活しようとする態度を育てていきたい。

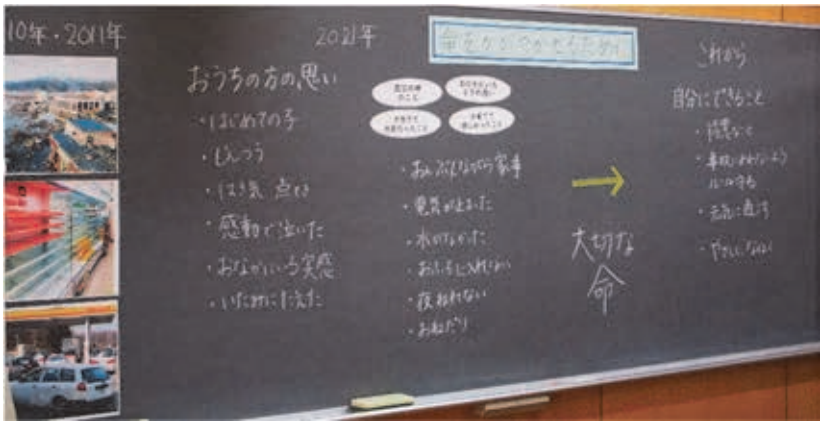
（３）ふくしま道徳教育資料集の活用について

事後の指導として、ふくしま道徳教育資料集「私の誕生日」を活用する。学級で読み、意見を交流した後、家庭に持ち帰って家族と改めて読むことで、より一層「自他の命の大切さ」について、実感をもって考えることができるようにしたい。本活動では、家庭で読んだことについて振り返りカードにまとめ、さらに、道徳科の家族愛や生命尊重における指導に生かした。

３　本時のねらい

命をかがやかせるために何ができるか話し合うことを通して、自分にできることを考え実践しようとすることができる。

４　実際の板書



５　学習の流れ

	児童の活動	指導上の留意点
事前	アンケートに記入する。 ・児童アンケート ・保護者アンケート	○　自分が成長するまでにどんなことがあったかや、育ててくれた両親がどんな思いだったのかを想像させる。 ○　保護者アンケートや、当時の様子の取材を通して明らかになった実態を、本時につなげる。

段階	学習活動・内容 （・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	１　１０年間を振り返り、本時のめあてをつかむ。 （１）生まれた年を振り返る。 （２）これまでの成長を振り返る。 ・今の自分はどのくらいの大きさか。 ・おなかにいたときはどのくらいの大きさだったか。 ・命が始まったときはどのくらいの大きさだったか。 命をかがやかせるために	10	○　生まれた年に起きた出来事や、東日本大震災時の状況について写真等で振り返ることにより、本時への意欲を高め、生きる上での当たり前の生活の大切さに気付くことができるようにする。 ○　受精卵カードやベビー服、現在の姿を提示し比較することを通して、小さな生命の始まりが母親のお腹の中で成長して自分たちのように大きく成長してきたことを実感できるようにする。
展開	２　保護者の話を聞き、自分や友達の成長について考える。 （１）保護者の話を聞く。 ・おなかにいたときの思い ・生まれたときの喜び ・震災の時のエピソード （２）保護者から子どもたちに話をしたり、子どもから質問したりする。（グループ） ３　大切な命をもっとかがやかせるために、自分はどんなことができるのか考える。 ・得意な○○をもっと頑張りたい。 ・将来の夢をかなえるために、毎日○○をする。 ・友達を大切にする。（言葉遣い等） ・苦手な野菜も食べる。	20 10	○　自分たちの誕生や生育に関わる保護者の思いを聞くことで、命の存在がいかに多くの人の幸せになっているか、自分たちが多くの支え合いの中で成長してきたのかなどを感じ取ることができるようにする。 ○　１１年の間にどんなことがあったのか、興味をもったことなどについて、子どもが保護者に自由にインタビューできるようにする。 ○　インタビューを通して分かったことや感じたことを伝え合い、全体で共有する。 ○　保護者の願いをもとに、「命をかがやかせるために自分たちが今できることは何か」について話し合うことができるように声をかける。
終末	４　話合いを生かして、自分が日々の生活の中でどんなことを頑張りたいかめあてをたてる。 ５　保護者からのメッセージを読む。	5	※　自分が守られ支えられてきたことを理解し、命をかがやかせるために何ができるか具体的に考えている。（思考・判断・表現）（ワークシート・発言） ○　事前に集めておいたメッセージを読むことで、実践への意欲を高める。

事後	自分の意思決定について家族に伝える。また、「私の誕生日」の教材文を持ち帰り、家族と一緒に読んだ後、感想を伝え合う。 関連教材 ○ふくしま道徳教育資料集 「私の誕生日」 Ｃ［家族愛、家庭生活の充実］		○　意思決定したことを、保護者に伝えるよう促す。また、関連教材「私の誕生日」を保護者と一緒に読み感想を伝え合うことで、家族に大切にされている自分を実感できるようにする。さらに、家族の思いを受け取ることで、子どものもつ「家族」「自他の命」への思いを温めることができるようにする。

６　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「保護者と共に考える授業の展開」について

○　保護者を対象に、子どもが生まれた「２０１０年・２０１１年」当時のエピソードや我が子への思いについて、事前アンケート調査を行った。また、自分や友達のお母さんの実体験に基づく話を聞くことで、より自分事として捉えることができると考え、保護者数名が参加する授業を構想した。

［保護者アンケートより］

・　３．１１のことは、今でも忘れられません。その日お母さんは仕事で、Ａとお姉ちゃんはひいばあちゃんと家にいました。地震が来た時は、Ａは仏壇の前に寝ていたようで、ひいばあちゃんは、あの大きな揺れが来た途端、お姉ちゃんをおんぶしてＡを抱っこして逃げたようです。揺れが収まって家に入ると、仏壇は倒れていました。（中略）Ａはひいばあちゃんを命の恩人だと思って、面倒を見てあげてください。

・　生後６カ月のＢを抱えて、外に逃げました。本当にこんなことが起こるのかと、パニックになりました。そんな時、何も分からないＢは私の腕の中でニコニコ笑っていて、それだけが救いでした。自宅は停電、断水で大変でしたが、（中略）あの時は本当にいろいろな方が支えてくださり、Ｂを守ってくれました。

○　温かい雰囲気の中、子どもと保護者が互いの話をじっくり聞き、自分の成長について考えたことは、家庭でふくしま道徳教育資料集をもとに話し合う意欲につながった。

（２）「体験的・実践的な道徳教育」について

○　本時の事後指導として、ふくしま道徳教育資料集「私の誕生日」を子どもたちに紹介した。家族に支えられている自分を実感するために、教材文を持ち帰らせ、子どもと保護者が感想を伝え合うよう促した。

［家族と話し合った子どもの感想より］

Ａ：　家族がいないと不安がいっぱい起こるから、家族は何としても自分なんてどうだっていいから守りたい。

Ｂ：　わたしを、こんなに大切に思っていたんだ。みんな、わたしのことを心配していたんだ。大震災でみんな大変な時に、わたしを生んでくれてありがとう！！

・　似顔絵には主人公への母の願いが込められていて、これからも強く生きようと思った。

・　大変な思いをしている人がいる中で、必死で命を大切にしている気持ちが伝わってきた。

・　自分が元気に育つことが家族にとってとてもうれしいことなんだと思った。

・　震災の日に「おめでとう」と言われてもいいのかと悩んでいた主人公だけど、自分が生きていることは家族の支えになっているということに気付くことができたと思う。

・　自分の周りには自分を大切に思ってくれる人がたくさんいることがうれしく、元気と勇気がわいてきた。

・　震災の３月１１日がぼくの誕生日ですが、名前の「慶」には、「よろこばしい」という親の思いが込められているとお母さんから初めて聞きました。はずかしいけど、嬉しいです。

（３）実践を振り返って

震災の年に生まれその当時の様子を知らない子どもたちに、当時の様子や家族の思いを伝えることで、自他の命について見つめ直してほしいという思いが本実践の出発点であった。事前に協力いただいた保護者アンケートの記述は、子どもを必死に守る親の愛情や強さに満ちあふれていた。

本時は、「水がないってどういうこと」「食べ物があるところに移動すればいいのでは」と、当時の状況を受け止められない子どもたちの姿があった。しかし、震災の経験を教育活動に取り入れていくことは、子どもたちが、家族愛、郷土愛、命について目を向けるきっかけとなり、家庭との連携を図り、共に子どもを育てていく貴重な機会となった。

船引南小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年７月６日（火）第１校時
授業者：田村市立船引南小学校　教諭　白岩　聡子

授業テーマ	「ハートカード」で主人公の気持ちを考えることで他者理解を深め、「気持ち柱」を活用することで、内容項目を見つめ、考えを深めることができる授業 ～小中３校合同道徳における「見える化」で内容項目に迫る「ひと工夫」～

１　主題名　感謝の思いに応える　　小学校Ｂ―（6）親切、思いやり(7)感謝
中学校Ｂ―（6)思いやり、感謝

２　教材名　塩むすび（出典：ふくしま道徳教育資料集　第Ｉ集　）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よい人間関係を築くための根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。相手に対する尊敬と感謝の念は、互いに相手を認め合い、思いやりをもつことから生まれてくるものである。人は自分一人で生きているのではなく、多くの人々に支えられ助けられてはじめて自分が存在するという明確な認識に立つときこそ、真に相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。感謝の気持ちは、人が自分のためにしてくれている事柄に気付くこと、相手がどのような思いで自分のためにしてくれているのかを知ることで芽生え育まれる。相互や特定の関係性を越えた先に人間愛の精神がある。

（２）　児童・生徒の実態について（児童・生徒観）

小学校最高学年として、異学年集団の班長や委員会でのリーダーを経験してきた子どもたちは、下学年の子どもたちから頼られる存在となってきている。この頃子どもたちは人との関わりの中で、相手を思いやり尊重し、感謝の気持ちを言葉や行動で相手に伝えることができるようになってきている。しかし、思いやりはあるものの、家族などの身近な存在に対して感謝の気持ちを素直に表現できなかったり、自己中心的な行動や態度が見られたりする子どももいる。一方、中学校１年生は、頼られたり感謝されたりする側から一転し、部活動で日々関わる先輩である２、３年生を中心に日々感謝しつつ、新しい生活に慣れてきた頃である。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

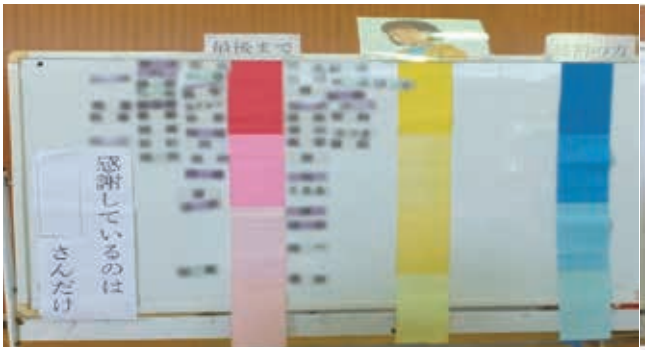
「東日本大震災後の避難所で、避難している人々に献身的に尽くす人々の姿に心を動かされる主人公。心の底から感謝する人々の姿から感謝の重みを知る」内容である。

初の３校合同道徳科の試みである。事前に３校共に教材を読ませておく。導入では、震災時の映像を流し、当時の状況を捉えさせる。展開では、主人公の気持ちを共感的に考えさせるため、３校１人ずつ入った３人組で「ハートカード」と「ミニ気持ち柱」で対話させることで、初めての合同授業でも「見える化」により、違いを確かめさせる。その後､「気持ち柱」による全体での対話とする｡展開後段では､ワークシートの工夫で、一人一人の生活経験をもとに、効果的に振り返りをさせ、家庭にもつなげながら継続的に内容項目との対話を図ることを通して、よりよい生き方を考えるきっかけとしたい。

４　本時のねらい

思いやりの心をもち、多くの人々の善意や支えにより日々の生活や自分があることに感謝し、進んでそれに応えようとする態度を育てる。

５　実際の板書



6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
導入	1　教材と出会う。 ○　東日本大震災関連の写真を見て、どう感じたか。 ・大変・協力・支え合い・感謝 ○「塩むすび」を知っているか。 ・知っている。 ・避難所で作られた。	5	○　事前に教材を配り内容について理解させておくようにする。 ○　東日本大震災関連の写真を見せることにより、当時の状況を理解させる。 ○　事前に震災で被害を受けたり避難したりした児童生徒がいないかを把握し、十分に配慮する。
展開	2　教材文を読んで話し合う。 ○　「忙しい」と言ったときの主人公はどんな気持ちか。 ・やりたくない・面倒くさい。 ・転校して大変な時なのに。 ○　「ありがとう」と言われたときの主人公はどんな気持ちか。 ・うれしい ・塩むすびを作ってよかった。 ・わたしもお母さんに感謝したい。 ◎ 主人公はこの後、どうしたか。 ・ 塩むすびを作り続ける。 ・ 塩むすびを作るのをやめる。 (1) ワークシートに記入する。 (2) 気持ち柱（判断）に貼る。 (3) 違いを聞き合う。 3　これまでの経験をもとに振り返り、自分自身を見つめる。 ○　「これまでで一番の感謝」と思ったことはどんなことか。 ・ 部活やスポ少の送迎をしてもらった。 ・ 病気の時に看病してもらった。 ・ いつもおいしいご飯を作ってもらっている。	35 (25) (10)	○　挿絵を効果的に活用し、内容を把握させる。 ○　主人公の心情をハートカードで考えさせ、共感的に理解させる。 ○　ハートカードで考えさせることで、聞く前と聞いた後の私の心情変化を視覚的に確かめさせる。 ○　主人公の気持ちがどうして変わったか考えさせることにより、主人公の心の成長に気付かせるようにする。 ○　主人公のその後の行動や心情について考えさせる。また、気持ち柱にネームカードを貼らせることで友達と考えを交流させる。 ※　主人公の心情について、自分の考えと友達の考えを比べて考えている。（ワークシート・発言・観察） ○　行動そのものの是非でなく、その行動を支える理由（心情）について話し合わせる。 ○　３段構えの発問により、教材離れをさせ、自分の生活における「感謝」について考えさせる。 ※「感謝」について、多面的・多角的な視点から考え、自分との関わりから考えを深めている。（ワークシート・発言・観察）
終末	4　本時の振り返りをする。 □ に思い浮かべる人は誰か。	5	○　空欄に入る人物を考えさせることにより「感謝」について効果的に振り返らせる。 ○　ホームワークにより家庭や地域との連携を深めることができるようにする。

7　考察

児童生徒の心に響く道徳科授業の工夫の視点から

（１）　「教材提示の工夫」について

○　芦沢小と本校６年生、船引南中１年生による「３校合同道徳授業」を行い、本資料「塩おむすび」を教材として扱った。選定理由としては、震災を背景とする本教材の教育的意義の大きさである。事前に教材を読ませておくことで、小学生にとっても難解な内容ではない。導入において、東日本大震災時の写真や避難所の写真を提示し、当時の状況を理解させた。その上で教材を範読したところ、震災当時はまだ幼く、記憶にない世代でも、当時の大変な状況を想起し、避難所で暮らす人々のご労苦に心を寄せることができた。

（２）　「思考ツールとワークシートの活用」について

○　おにぎりを握るのを忙しいと嫌がっていた時の主人公の気持ちとおにぎりを握って感謝された時の気持ちとのギャップを明確にするために、「ハートカード」を２つ横に並べたワークシートを活用した。

○　「気持ち柱」の活用は、全員の意見を「見える化」することができるので、異校種間の特別形態での意見交流には非常に有効であった。

○　「ハートカード」や「気持ち柱」などの「思考ツール」による対話は、部活動や試験勉強を経験しているからこその中学生の考え方、気持ちを重視し夢を追い求める小学生だからこその考え方の違いの整理にも有効だった。小中合同で行ったことで、多様な意見の交流がなされ、真剣に対話する子どもたちの姿が見られた。

○　芦沢小の児童、船引南中の生徒は、初めて「ハートカード」「気持ち柱」の思考ツールを使用した。本時の流れが書かれたワークシートになっていたため、スムーズに学習に参加することができた。

（３）　「学習形態の工夫」について

○　各グループに３校の児童生徒が１人ずつ入意見交流をした。３人の真ん中に本校生を入れることで、「思考ツール」を活用しながら話し合う様子が見られた。「見える化」した思考ツールは、相手の考えの理由を聞く必然性を生み、話し合いを行う上で有効であった。

●　初めて話す３人だったので、事前にアイスブレイクを行う等の時間を設けたことで、活発な話し合いができた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　小中合同の授業を実施するにあたり、評価の視点を位置付け、全職員で子どもの学びの姿を見取るようにしたことにより、個々の特徴を認め、励ます評価のあり方、小中連続した成長に向けての評価のあり方について、イメージを深めることができた。

○　「思考ツール」や「ワークシート」は、校内の道徳科の評価のツールとしてだけでなく、３校合同道徳においても評価に活用できた。今後も小中が足並みをそろえて子どもの育ちを評価していくための視座になり得る。

●　今後も小中合同道徳を継続・浸透させていくためには、小中の合同研究体制の構築が必要である。そのために、ねらいとする道徳的価値や子どもの実態、学習内容の系統性、評価の視点等について事前に十分に検討し、共有する時間が必要である。方法を摸索したい。

鮫川小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１２月２日（木）第５校時
授業者：鮫川小学校　教諭　五十嵐　修

授業テーマ	児童が日常と教材の場面を重ね合わせて、自分自身の考えを見つめなおし、差別やいじめを乗り越えるための道徳的価値の理解を深める授業

１　主題名　　「偏見による差別やいじめを乗り越える」Ｃ―１３公正、公平、社会正義
２　教材名　　「それは、ちょっとしたチャットのつぶやきから始まった･･･」
（新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず、誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることである。しかし、社会正義の実現を妨げるものに人々の差別、偏見があり、これらは、異なる立場に対して偏った見方をしたり、弱い存在があることで偏った接し方をしたりするなど人間の弱さに起因している。よりよい自己実現を図ることができる社会を実現していくためには、その人間の弱さを乗り越えて自らが、正義を愛する心を育むようにすることが不可欠である。特に高学年という段階においては、自分自身の問題であるという意識を持たせることが大切である。その上で、社会正義の実現は容易ではないことを自覚させ、身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動できるようにすることが重要である。

（２）児童の実態について（子ども観）

本学級は２９名の学級である。入学からほぼ同じメンバーで学校生活を送っているため、お互いをよく知っている関係である。児童は様々な生活経験から差別や偏見がいじめなどの問題につながることや人間の心の弱さに起因していることもを理解している。一方で、いじめなどの場面に出会ったときに、ともすると傍観的な立場に立ち、問題から背を向けることも少なくない。内容項目が同じ「かたよらない心」の道徳科の授業では、うわさについて、「本当かどうか分からない情報はすぐに信じないようにする。」や「自分で判断して、周りに流されないようにする。」などの振り返りが見られたが、自分が仲間はずれの対象になりたくないという気持ちから、友達との関係を優先し、傍観者になったり、思っていることをはっきりと言うことができなかったりする児童が多い。本時の学習を通して、自分の意志を強く持ち、周囲の雰囲気や人間関係に流されないで、偏見による差別やいじめを乗り越えることができる心を育てるようにしていきたいと考える。

（３）教材および指導について（教材観及び指導観）

本教材は、「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」である。うちの学校から感染者がでたらしいというチャットのつぶやきから、登校日に欠席したＡさんがコロナになったのではないか、Ａさんなら他の人にもうつっているかもしれないという内容である。Ｂさんが「ねえ、やめよう！こういうこと、よくないよ。」と発言する場面では、児童が日常生活での自分と重ねて考えるきっかけになるのではないかと考えた。児童にＢさんの「やめよう！」というつぶやきを提示し、Ｂさんの心のうちを考えられるようにしていく。このとき児童が自分自身に引き付けて考えられるよう心のものさしを活用する。次に、「わたし」がきれいになる皿をじっと見つめる姿を「わたし」の葛藤と捉えさせ、このときどんなことを考えていたのか話し合いを通して考えさせることで、誰にも心の弱さがあり、だからこそ身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動が必要であることを考えさせたい。

４　本時のねらい

「偏見による差別やいじめを乗り越える」とはどのようなことか他面的・多角的に考えさせる活動を通して、だれに対しても偏見をもつことなく、公正、公平に接し、正義を実現しようとする道徳的心情を育む。

５　実際の板書

6　学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問、・予想される児童の反応）	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1　公正、公平について考える。 （1）「チャット」のイメージをもつ。 ・　いつでも会話できる。 ・　簡単に話せる。 ・　いつまでも終わらない。 ・　言いにくいことも伝えやすい。	5	○　事前アンケートやチャットをした経験からその便利なところや問題点を考えさせ、チャットには、気を付けなければならない面があることをおさえる。
展開	2　教材文を読み、「偏見による差別やいじめを乗り越えること」について考え、話し合う。 （1）「Bさん」の発言について考える。 ○　チャットの中で「Bさん」のようなつぶやきができますか。 ・　言わなければならないことは言う。 ・　周りの会話に合わせてしまう。 ・　自分が仲間はずれになるかも。 ・　周りを気にして、思っていても言えない。 （2）「わたし」がおさらをじっと見つめながらどんなことを考えていたのか考える。 ◎　わたしは、おさらをじっと見つめながら、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・　このチャットを知ったら「Aさん」はどんなことを思うだろうか。 ・　「Aさん」が本当にコロナにかかったかどうかなんて分からない。 ・　みんなが言っていることを信じていいのだろうか。 ・　「Bさん」のように「やめよう！」と言うべきだったのではないだろうか。 （3）「わたし」は「Aさん」にどんなことを言ったのか、その時にどんなことを考えていたのか話し合う。 ○　「Aさん」と目が合ったとき「わたし」は何と言ったと思いますか。それはどんな気持ちからですか。 ・　Aさん元気になってよかったね。 ・　コロナじゃなかったんだね。 ・　何とも言えない。 3　自己を見つめる。 ◎　もう一度、チャットの中で「Bさん」のようなつぶやきができるか考えてみましょう。 ・　自分の考えをはっきり言わなければならない。 ・　周りに流されるのではいけない。	20

7　考察

児童の心に響く指導の工夫の視点から

（１）主題や教材と自分を重ねて考えるための工夫について

○　「チャットはよいことばかりなんだね。」と問い返し、チャットの問題点に目を向け、生活場面と教材文を関連付けて考えることができた。

○　なぜＢさんが、「やめようよ。」と言ったのか考えながら動画を見るよう指示し、視点を与えて動画を見せ、自我関与させながら、教材文を読むことができた。

○　心のものさしにネームカードを貼り付けることで、立場を明確にし、自分事として考えることができた。

●　心のものさしに表した後、さらに「言えない」理由についても問うことで、自分が嫌な思いをしたくないという弱い心、自分中心の考えが焦点化され、Ａさんと自分を重ねて考えることができたのではないかと考える。

（２）道徳的価値について理解を深められるような発問の工夫について

○　机間巡視や個別の支援をすることで、子どもたちの様々な考えを引き出すことができた。また、子どもたちの考えを整理して板書することで、多面的・多角的に考える拠り所となった。

○　「わたし」が「じっとお皿を見ながらどんなことを考えているか」を問い、「それは、どんな思いから出てきたものなのか」と問い返すことで、Ｂさんの発言の意義やお母さんに言われたこと、周りに流されてしまった自分の情けなさなど多角的に考えさせ、本時の価値に迫ることができた。

●　教師から問い返したことで学級全体の児童に広げたり、ゆさぶりをかけじっくりと考えさせたりすることにつながったかが課題であった。児童のつぶやきを整理しながら板書することなど、教師が児童の考えをつないでいくことで、さらに児童の多様な考えを引き出すことができたのではないかと考える。

（３）広がり・深まりのある話し合いにするための工夫について

○　児童がペアでＡさんと「わたし」役になり役割演技を行った。「わたし」役になった児童は、チャットやその後のモヤモヤした気持ちを体感し、Ａさんにどんな言葉をかけるか悩みつつ、道徳的価値の意義に気づくきっかけとなった。

○　取り上げたペアの役割演技を全体で共有し、どういう思いから「おはよう。」という言葉が出たものなのか問い返し、「わたし」のＡさんを気遣う気持ちや周りの友達に流されてしまったことを悔やむ気持ちなど公正、公平について多面的・多角的に考え、心の奥にある思いを引き出すことができた。

●　２色のネームプレートを用意し、展開前段と後段で色分けして、心のものさしに表現することで、役割演技や話し合いを通して児童の考えがどのように変容したかを可視化することができたのではないかと考えられる。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（１）「学習状況」について

ワークシートには「自分を見つめよう」という項目を設け、学習を通して考えたことや思ったことを記入し、学習を振り返る活動を行った。児童がワークシートに記入した内容について朱書きでコメントすることで、児童の変容や考えの深まりを認め、評価に生かすようにした。また、ワークシートを教室に掲示することで、一人一人の考えを共有し、認め合うことができるようにした。

（２）「道徳性に係る成長の様子」について

授業で使用したワークシートを持ち帰り、保護者のコメントを記入してもらった。それをもとに道徳的価値について振り返る機会を設け、事後指導の充実を図った。教師のコメントの他に保護者の考えにも触れることで、多面的・多角的な見方ができるようになるとともに、児童に自己の変容や成長の状況を実感させることができた。

湯川中学校第２学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年９月１４日（火）第５校時
授業者：湯川村立湯川中学校　教諭　伊藤　翔太

授業テーマ	東日本大震災の避難者に対する対応について多面的･多角的に考えることを通して、多くの人の支え合いにより生活することに感謝し、それに応えようとする態度を育む授業

１　主題名　支え合いと感謝　Ｂ－（６）思いやり、感謝

２　教材名　「５００人の大家族」（出典：ふくしま道徳教育資料集）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

私たち人間は一人で生きているのではなく、互いに支え合いながら生きている。その関係に大切なことは、互いに感謝の気持ちを忘れないことである。感謝の気持ちは、よりよい人間関係を築いていく上で欠かすことのできない重要なことである。今ある生活を振り返り、多くの人と支え合い生きていることや、感謝すべきことであることを実感させたい。

（２）生徒の実態について（生徒観）

中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で支えてくれている多くの人の善意や支えに気づく一方で、家族などの日常的に接している人に対し、支えられていることに感謝しつつも、疎ましく思うことや、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じている。本学級は、昨年度に養護教諭から東日本大震災の体験談を聞き、日常のありがたさを学んでいるが、改めて今の生活に感謝し、支え合うことの大切さを感じさせたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、温泉旅館を営んでいる家族が、東日本大震災の翌日から避難してくる多くの人を無償で旅館に受け入れをした話である。家族や従業員の生活が苦しくなることを承知で、無償での受け入れを始めた父親の決断に対して、主人公と兄は今後の生活について大きな不安を抱いていた。実際に避難してきた人々や父親との関わりを通して、今ある生活は多くの人との支え合いがあることで成り立っており、感謝すべきことであることに気がついていく。受け入れる側と避難者たちとの関わりや、父親の言動に対する主人公と兄の心情の変化を通して、支え合いの大切さや感謝する気持ちを育みたい。

４　本時のねらい

東日本大震災時に受け入れを決断した父や、避難してきた人々と触れ合うことで、変化していく主人公や兄の心情について考えを深める活動を通して、多くの人との支え合いにより生活していることに感謝し、それに応えようとする道徳的実践意欲と態度を育む。

５　実際の板書

6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1　感謝について考える。 ○　最近誰かに感謝した経験はありますか。 ・落とし物を拾ってくれた。 ・分からないところを教えてくれた。 感謝について考えよう。	5	○日常で実際に感謝した場面を考えさせ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2　教材「５００人の家族」の前半部分を読んで考える。 ○　あなたなら、避難してくる人を受け入れられますか。 ・つらい思いをしている人を助けてあげたい。 ・自分のことで精一杯で受け入れられない。 3　教材「５００人の家族」の後半部分を読んで考える。 ◎　私は，どのような気持ちで「三階のお食事は、私が運びます。」と言ったのだろう。 ・自分も支えられて生活することができている。 ・自分にできることで避難してきた人を助けてあげたい。	１３ ２２	○「受け入れたい」と「受け入れたくない」のメーターに記入する。また、理由を書かせる。 ○受け入れることは大変なことであることを改めて確認する。 ○おじさんやおばあさんと接したことや、父と兄の会話を聞いた主人公は、どんな気持ちでいたのかを考えさせた上で発問に答えさせる。 ○今の生活は、周りの人と支え合いながら生活していることに気付かせる。 ○班や全体で意見共有を行うことで、多角的・多面的に考えることができるよう留意する。 ※様々な考えがあることを理解しながら、自分の考えを述べているか。 （ワークシート・話し合い・発表）
終末	4　自身の生活を振り返る。 ○　身の回りの家族や友人、お世話になっている人への感謝の気持ちを言葉にしてみよう。	１０	○実際に言葉や文字にすることで、周りの人に支えられていることを実感させ、感謝の気持ちを育ませる。 ※多くの人に支えられていることに気づき、感謝の気持ちについて考えているか。 （ワークシート）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れることで課題を「自分事」として捉えることができるようにする」について

○　震災当時の記憶が残っている生徒はごくわずかであり、東日本大震災自体を自分事として捉えさせることは容易ではないと考えられた。そのため、登場人物のおかれた状況を整理し、避難してくる人を受け入れることは、自分自身や家族・従業員の生活を苦しめることになることを確認した上で考えさせたことで、登場人物の心情に寄り添いながらも、自己を見つめるきっかけとなった。

●　一方で、生徒にとって、震災が起き、避難することは非現実的なことである。そのため、避難してくる人を受け入れることの困難さを理解しているようには見えても、実際に自分事として考えられたかは課題が残った。生徒がより深く考えることができるように工夫していきたい。

（２）「議論や対話の場において、ＩＣＴの活用や板書を工夫することで、自己を見つめ多面的・多角的に考える力を広げることができるようにする」について

○　避難を受け入れる側や避難してくる人の心情、生徒自身の受け入れに対する考え方の違いなど、様々な立場の人の視点から議論することを通して、多面的・多角的に考えさせることができた。

○　ＩＣＴ機器の活用により、自身の考えだけでなく、他の人と考えを比較し、議論や対話の場面を通して自身の考えをより深めることができていた。

○　生徒が書いた手紙を終末部分で発表させることは時間の関係上行うことができなかったが、学年の道徳掲示板に掲示した。授業終了後、多くの生徒が級友の手紙を読み、様々な「思いやり、感謝」の形があることに触れることができた。

●　多面的・多角的に考える授業のためには、どの教科等でも、他の人との意見の比較をしたり議論を進めたり、話し合い活動の経験を積み重ね、より自身の考えを深める授業を行っていくことが、今後の課題である。

（３）「生徒が自分との関わりで考えることができるように、振り返りの場を工夫する」について

○　終末部分では、身の回りの人に対して手紙を書く活動を取り入れた。そのため、主題である「思いやり、感謝」について、教材内で終わるのではなく、生徒自身に日常を振り返らせ、思いやりや感謝の大切さをより実感させることができた。手紙には、今の自分が周りの人に支えられて生きていることへの気付きや、当たり前のことに感謝していきたいこと、自分自身の周りの人に思いやりを持って生活していきたい思いなど､考えの深まりが感じられる内容が書かれていた。

●　振り返りの場面で自分との関わりで考えさせるためには、板書の内容をより精選して、終末部分で生徒が黒板を見たときに、振り返りができるようにしていかなければならない。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　この学年では、多くの授業で始めと終わりに同じ質問を行い、各班１つのワークシートに付箋でまとめを行い、考えの変容を認識できるようにしている。また、そのワークシートを道徳掲示板に掲示し、年間を通して考えがどのように変化してきたのか生徒自身と教師側も見取れるようにしている。

下郷中学校第２学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年７月１６日（金）第５校時
授業者：下郷町立下郷中学校　教諭　中島　史弥

授業テーマ	葛藤場面に対し、多様な意見を議論させることを通して、道徳的価値について自分の意見をもち、よりよく生きていくことのできる生徒の育成。

１　主題名　差別・偏見をなくそう　C―（１１）公正，公平，社会正義

２　教材名　「スーパーのうわさ」

（出典：新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材　県教委）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めることに関するものである。中学校段階では、自己中心的な考え方に陥り、他者に対して不公平な態度をとる場合がある。また、周囲でいじめや不正な行動が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまう。そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで自分の意志を強くもち、助けを求めるのを躊躇せずに、正義と公正を実現するために力を合わせて努力することが必要である。また、内容項目は、本校の指導の重点内容項目にもなっている。

（２）　生徒の実態について（子ども観）

本学級は、男子２７名、女子７名、計３４名の学級である。２年生となり、部活動や委員会などの活動で中心的役割を担い、１年生の手本となるように意識している生徒が多く見られる。しかし、自己中心的な発言や態度から、人間関係に不和が生じたり、友達の気に入らない点があると周囲にうわさを流したりする生徒が見られるようになってきた。周囲のうわさや圧力に流されず、自分の意志を強くもち、正義を貫き、公平な態度で周囲の友人と接することができる生徒を育てたい。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う根拠のないうわさから、買い物に行くかどうかを考えさせることのできる教材である。うわさの受け取り方の違いから、買い物に行く意見をもつものと、行かない意見をもつものとの対立と葛藤が生まれる。この対立と葛藤から議論をすることにより、うわさをただ鵜呑みにしてよいのか、なぜ差別・偏見が生まれるのか、という実生活に結びつく問いにつなげ、自分自身のこれまでの行動を振り返らせたい。

４　本時のねらい

スーパーに買い物に行くかどうかという奥にある思いを議論する活動を通して、周囲に流されるのではなく、うわさ話に疑問を抱き、自分なりの意見をもつことによって、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育む。

５　実際の板書

アンケートの結果はスライドにまとめ、電子黒板で表示する。

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
導入	１　本時の主題を確認する。 ○　差別や偏見についての事前アンケートの結果を紹介し、本時の主題を捉える。	10	○「差別や偏見についてどう思うか。」「差別や偏見をしたことがあるか。」について多数の生徒が「差別や偏見は悪い」「差別や偏見をしたことがない」と答えていることを取り上げ，その考え方が多数であるにも関わらず、世の中には差別や偏見が存在していることに疑問を抱くようにする。
展開	２　県教委資料「スーパーのうわさ」の内容を確認し、自分の考えをもつ。 ◎ あなただったら、スーパーに買い物に行くかどうか。なぜそう思うか。 ３　課題について考え、議論する。 ○　自分の考えを黒板に掲示する。 ○　それぞれの考えを発表する。 ・行かない 「うわさが本当だったら、感染してしまうかもしれないから。」 「家族を守るために行かない。」 ・行く 「お世話になっているから。」 「うわさだから、信じなくてもいい。」 ・どちらか迷う 「行くと危険とも思うし、うわさだから…とも思う。」 ○　「うわさである」ということに焦点を当てて議論する。 ・もしうわさを信じてしまったら、このスーパーにお客さんが来なくなる。 ・売り上げが下がる。 ・ここの家族が生活に困る。 ４　ここまでの議論を受け、「『うわさのあるスーパーに買い物に行くことになった。』とあるが、この後どうするか」について自分の考えをもつ。 ・うわさが本当かどうか、電話をして確かめる。 ・うわさをしていた人に、どこから聞いたのかを尋ねる。	30	○　自分の考えを思考ツール「心のものさし」で表現させ、理由とともにワークシートに記入させる。 ○「心のものさし」を板書し、生徒全員の考えを可視化する。 ○　買い物に「行く」という考えや「行かない」という考え、中間の考えを聞き，全体で共有させる。 ○「うわさ」ということに疑問をもった生徒の考えが出てこなかった場合、意図的指名を行う。 ○「行く」側の考えと「行かない」側の考えを比較し、考えを深めることができるようにする。 ○ ここまでの議論で意見が分かれている原因が「うわさであるから」ということに気付かせ、うわさを鵜呑みにすることでこのスーパーはどうなるのかなど、確かでない情報を信じてしまうことによって起こる問題を想像させていく。 ○「スーパーに行く・行かない」ではなく、「そういった場面において自分だったらどう考えるかについて問い、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする実践意欲を高められるようにする。 ※友だちの考えを受け止めながらも、自分なりの考えを深めている。 （ワークシート・発言）
終末	５　本時の振り返りを行う。	10	○　根拠のないうわさを信じて行動してしまったことなどはないかなど、これまでの生活を振り返る。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（1）「生徒の実態より、生徒の課題意識を持たせる『中心発問』の工夫」について

○　事前アンケートから、「差別や偏見をもって人と接してしまう」「気付かない中で差別などをしてしまっている」という少数の結果に焦点をあて、本時の資料につなげる手立てとした。

●　今なお、コロナ禍での生活を送っているため、自分の経験に基づいて課題を捉えることができたが、ねらいとする道徳的価値に関する問いを引き出せなかった。生徒の反応を想定しながら発問や問い返しなどを考える必要性を感じた。

（2）「議論が深まるよう、『心情円』や『ハート図』などの思考ツールを活用し，自分の考えを他者に伝え、多様な考えに触れる活動の工夫」について

○　展開前半に「心のものさし」を使用したことで、発問に対しての自分の細かな気持ちの度合いを示すことができた。また，黒板上に名前のマグネットを貼ったことで、他者の考えと自分の考えの違いを可視化することにも効果的だった。

●　買い物に「行く」「行かない」「迷う」の３点について、より多面的・多角的な見方ができるよう、話合いをコーディネートすることの重要性を認識した。

●　全体共有をよりスムーズに行うために、タブレットの効果的な活用を図っていきたい。

（3）「自己を見つめ、実生活の自分と主題を重ねることができる振り返りの工夫」について

○　資料の内容が「新型コロナウイルス感染症」に関わることであり、実生活と関連付けて自分を振り返り、自身の体験をもとに思考する生徒が多く見られた。

●　振り返りを充実させるためには、議論を深めることが重要であり、そのためにはねらいとする道徳的価値と実生活をより関連付ける工夫が必要である。

子ども一人一人を受け止めて，認め励ます評価の視点から

（1）「生徒の考えの変化を『可視化』する工夫と振り返りの時間の十分な確保」について

○「小学校の時に、友達が自分の悪口を言っていたと聞き、その友達を１か月ぐらいずっと冷たい態度をとっていた。」など、自身の実生活と結び付けながら、自分の生活を振り返る姿が見られた。

（2）「生活と照らし合わせて、自分事として考えさせる発問の工夫」について

●　自分との関わりで考えることができるよう発問を工夫したが、生徒が何をどのように考えているかを見取るためにも、発問や問い返しを吟味することが大切であることを改めて確認できた。

尚英中学校第１学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１０月１９日（火）第５校時
授業者：新地町立尚英中学校　教諭　西坂　勇輝

授業テーマ	対話を通して学び合いながら、自己の思考過程をまとめ、自身をもって意見を述べることのできる生徒を育成する授業

１　主題名　敬愛・つながる思い　A－（４）希望と勇気、克己と強い意志

２　教材名　紫紺の襷（出典：福島県教育委員会「ふくしま道徳教育資料集［補訂版］第Ⅱ集）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学生の一般的な傾向として、自分自身にあえて負荷をかけずに、無理のない範囲での学習や部活動に取り組むという一面がある。しかし、目標に向かうくじけない心を育てるためには、困難と向き合い、それを乗り越えようとする経験が欠かせない。より高い目標を目指し、困難に屈することなく希望と勇気をもって着実にやり抜くことで、真の充実感を味わうことができる。その経験を基にして強い意志と態度を育てていくことが必要である。

（２）生徒の実態について（生徒観）

本学級の生徒は、何事にも意欲的に素直に取り組む集団である。一方で自分自身に負荷をかけずに、無理のない範囲での学習や部活動などに取り組む傾向が見える。９月に行ったアンケート結果では、90%の生徒が目標を設定することは大切だと考えているが、25%の生徒が目標を設定できていないことが判明している。テストが終わった今、次の合唱コンクールに向けて練習に取り組んでいる。そこで、本教材での学習を通して、より高い目標を目指し、困難に屈することなく希望と勇気をもって着実にやり抜こうとする態度を育てたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、自分が所属する野球部においても勉強においても満足のいく結果が残せていなかった主人公が、友人や特設駅伝部顧問のとの関わりを通して、困難に屈しないで物事に主体的に取り組むことの大切さに気づき、自らの可能性を追求しようと駅伝競技に打ち込む姿が描かれている。

そこで本時は、野球を理由にして駅伝競技と向き合うことから逃げていた主人公が自主的に駅伝練習に励み、大会登録メンバーに選ばれるまでに変容した心の動きに共感しながら、道徳的価値についての考えを深めさせたい。

４　本時のねらい

困難に屈しないで物事に主体的に取り組むことの楽しさに気づき始めた高志の気持ちを考えることを通して、困難に屈することなく希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意欲と態度を育てる。

５　実際の板書

6　学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○教師の指導・支援　評価（方法）
導入	1　目標に向かって取り組んできて、くじけそうになったときはあるか考える。 ・ 勉強がうまくいかない。 ・ 部活で練習の成果をだせない。	7	○　目標に向かって取り組んできて、くじけそうになったときを振り返らせることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けが図れるようにする。 ○　教師は「くじけそうになったときどう思った？」と問い返すことで問題意識を高める。
展開	2　「紫紺の襷」を読み、話し合う。 ○　駅伝を投げ出していた高志が練習に参加させてほしいといった原動力は何か考える。 ・　プライド ・　応援してくれる人 ◎　「高志！待っていたぞ。」と敬介にいつもと変わらない明るい声で言われたとき、高志はどんなことを考えていたか考える。 ・　駅伝を投げ出していた自分を受け入れてくれてありがとう。 ・　受け入れてくれたのがうれしい。 ・ ほっとした。	33 (13) (20)	○　教材はあらかじめ読ませておき、登場人物や話の流れをつかませる。 ○　トリオ学習で進める事で生徒同士の話し合いが広め深められるようにする。 ○　生徒の発言に問い返しを行うことで、生徒の考えをゆさぶり、主人公に自我関与できるようにする。 ○　教師は生徒の発言のキーワードを板書することで、生徒が学びの履歴を視覚的に分かるようにする。 ○　個人で考える時間を十分にとる。 ○　それぞれの考えをグループで交流し、全体でさらに考えの交流をすることで、多様な見方・考え方に触れられるようにする。
終末	3　本時を振り返る。 ○　みんなが困難を乗り越えるために必要なものは何ですか？ ○　今日の授業を通して自分の目標について考えたことをまとめる。	10	○　考えた言葉をグループで共有することで、自己肯定感を高められるようにする。 目標達成のために、希望と勇気をもってやり遂げることの大切さに自分との関わりで考えているか。 （発言・ワークシート）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「話合いを深めるための発問の工夫」について

○　同学年の全てのクラスで授業を行い、発問について教師間で何度も話合いの機会をもった。授業後は指導主事も交えて事後研究を行うことで、授業を重ねる度に生徒が内容項目について「自分はどうだろう」と考える発問へと変化していった。

○　教材の中のどの場面に中心発問を設定するかについて何度も指導主事と協議をし、中心発問を改善していくことができた。また、補助発問の仕方も学ぶことができ、そのクラスに応じた発問ができるようになった。これにより、生徒が問題を自分事として捉え、活発に話合いをする姿が見られた。

●　今回の授業では、題材が１年生にとって少し難しいものであり、内容を生徒たちにとって身近なものに感じさせる工夫が難しかった。その学年に応じて、どのように発問を変えていくかについては、更なる研究が必要である。

●　実態と教材に応じて、発問を練る必要がある。特に道徳科では生徒の日常生活や経験と密接に関わるため、生徒理解も大切にしていきたい。そのためには、授業の前に、学年の打ち合わせはもちろん、それ以外の先生や指導主事も含めて、発問の技術を磨いていく必要がある。

（２）「話合いを活性化させるための学習形態の工夫」について

○　安心して話合いを進められるように、グルーピングを工夫したことで、話し合いに深まりが見られた。生徒同士がただ意見を言うのではなく、それに対して質問をしたり、自分の意見を追加して話したりする姿が見られた。

●　学年や教科の枠を超えて、話合いの在り方について研究を推進してきた。生徒が自分の考えを伝えられる集団づくりを目指し、「生徒理解を生かしたグルーピング」と「話合いの手立てに」について議論を積み重ねた。この二つの視点を、道徳科だけでなく他教科でも取り入れながら、話合いの在り方について考えていきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　トリオ学習を行ったことで、一人一人の発言が多くなった。紙媒体のワークシートに生徒たちが自分の意見をどんどん記入していったため、それぞれの生徒の思考の流れがわかり、授業後に個々に応じたコメントを書くことができた。

○　授業中になるべく多くの生徒に発言する機会を作り、それを全体で共有しながら授業を構成していくことができた。生徒の発言に対して教師が考えを対比させたり広めたりし、個々の発言をつなぎ合わせことができ、発言をした生徒の意見が次の展開に生かされていた。

●　グルーピングを工夫して意見が活発に出た分、個々の意見をすくいあげきれない面も出てくる。ワークシートに書かれた生徒の意見や感想に対して、どのようにフィードバックをしていくか、生徒のワークシートをもとに教員間でも話合いができるようにする必要がある。

【Q&A】

道徳科の教育課程Q＆A

学習指導要領Ｑ＆Ａ［特別の教科　道徳］（小・中）

１　なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてほしい。

「特別の教科　道徳」（以下　道徳科とする）については、小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から他教科に先駆けて先行実施された。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の５点が挙げられる。

（１）目標の明確化
⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己（人間）の生き方についての考えを深める学習を通して」

（２）体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善
⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

（３）　多様な指導方法の工夫
⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

（４）　魅力的な教材の開発や活用の工夫
⇒地域教材の積極的な開発と活用

（５）　評価
⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

２　道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画（ロードマップ）を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

□　「重点目標」「指導の重点化」（重点とする内容項目の設定）を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。

□　「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。

□　別葉をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしていくか。

□　評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

３　道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

４　教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法３４条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第２条には、「教科書」とは、‥学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材‥」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

５　道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「‥道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。‥地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあっては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳ＷＥＢ版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

６　学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道徳教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（ＷＥＢ版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

７　自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

８　「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

「『特別の教科　道徳』の指導方法と評価について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の３つが示された。これらは「考え、議論する道徳」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら３つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

９　複式学級における道徳科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳　第３　指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第１節　内容構成の考え方（３）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科　道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の３例が想定される。

Ａ　学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
Ｂ　２年間分をそれぞれ第１年次（Ａ年度）と第２年次（Ｂ年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
Ｃ　２年間分の学習内容について、Ａ年度は〇学年の教材を主に、Ｂ年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（Ａ年度は〇学年の教科書給与、Ｂ年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。
なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。
さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10　複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせて弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。
（例）３・４学年（複式学級）において、５月第２週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想
□　導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
□　展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせて実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
□　展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。
この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。
なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

11　特別支援学校おける道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
**　また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。**
**　さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。**

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということを意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおり取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第１３０条第２項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第５章　特別の教科　道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、３つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

12　「大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第５章　第２節　道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大くくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

13　評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ＡＢＣ」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大くくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは　何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14　道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の３つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにＡＢＣを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

○　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

○　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

といった２点を重視して評価を実施することが大切である。

15　道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の５点を確認しておきたい。

（１）　数値による評価ではなく、記述式とすること。

（２）　個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。

（３）　他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。

（４）　学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること

（５）　調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があること。

16　道徳科の教育課程編成上、「これだけは　…」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成２９年３月）・第３章特別の教科道徳・第３指導計画の作成と内容の取扱いの１には、「…第２に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年１９項目・中学年２０項目、高学年２２項目、中学校２２項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17　教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にしていただきたい。

〔学習指導要領等〕

○　小（中）学校学習指導要領　平成２９年３月３１日　文部科学省（文部科学省ＨＰ）

○　小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　平成２９年７月文部科学省（文部科学省ＨＰ）

〔通知等〕

○　学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（２８教義第８４６号　平成２８年８月１０日付）

〔報告書・広報誌等〕

○　「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（文部科学省ＨＰ）

○　福島県道徳教育推進報告書（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳のとびら（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳のかけ橋（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳の礎（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

〔動画等〕

○　道徳教育アーカイブ（https://doutoku.mext.go.jp）

○　校内研修シリーズ「道徳教育」（独立行政法人教職員支援機構ＨＰ）

令和４年３月１６日　印刷
令和４年３月２５日　発行
福島県教育委員会

◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆

第Ⅰ集　生きぬく・いのち

第Ⅱ集　敬愛・つながる思い

第Ⅲ集　郷土愛・ふくしまの未来へ

ひとつ、ひとつ、
実現する
ふくしま

福島県教育委員会

（この冊子は、下記のアドレスよりダウンロードできます。）

https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。